

元総社蒼海遺跡群 (103)

前橋都市計画事業元総社着海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

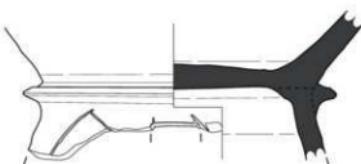
2016.3

2016.3

前 橋 市 教 育 委 員 会

元総社蒼海遺跡群（103）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



H-6 出土有鍔台付鉤

2016.3

前橋市教育委員会

卷頭 1



遺跡全景 北から



遺跡全景 東から



H-2 カマド



H-4 灰



J-1 灰



縄文土器集中 (X-1)



1



55



87



97



1



1



115

はじめに

上越国境にそびえる谷川連峰をその源とし、赤城山系・榛名山系のはざまを抜けて南流する利根川が、関東平野へ向かって開けるところに、ふるさと前橋市は存在します。市域は豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内いたる所に、人々の息吹が感ぜられる歴史遺産が存在します。

稲作文化は利根川水系の多くの河川を遡上するようにここ前橋にも伝播し、その生産基盤の安定が、東国を中心としての「毛の国」を誕生させることとなり、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれました。律令時代に入ってからも上野国の中心地として、総社・元総社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた鷹橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは「前橋シルク」の名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告する元総社蒼海遺跡群（103）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国分尼寺に隣接することから、調査成果は多くの注目を集めております。今回の調査では、縄文時代および古代の多くの竪穴住居跡を検出しました。残念ながら、現状のまでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、寒風吹きすさぶ中、発掘調査にあたった発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成28年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例 言

1. 本書は、前橋土地計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、前橋市の負担によって行われた。
3. 発掘調査、及び整理・報告書作成は委託業務として有限会社歴史考房まほらが実施した。
4. 発掘調査の事項は以下のとおりである。
遺 蹤 所 在 地 群馬県前橋市元総社町 1693-1, 1712, 1613-1・2・3, 1614-1
発掘調査担当者 笠原仁史（㈲歴史考房まほら）
発掘調査補助員 大谷正芳（山下工業㈱）
発掘調査期間 平成 27 年 3 月 2 日 ~ 平成 27 年 4 月 22 日
調 査 面 積 470 m²
整理作業担当者 笠原 仁史（㈲歴史考房まほら）
整 理 期 間 平成 27 年 11 月 26 日 ~ 平成 28 年 2 月 29 日
5. 本書の編集は笠原仁史が行った。執筆は第 1 章第 1 節を藤坂和延が、付編を高橋実果が、その他を笠原が担当した。
6. 本書に使用した遺構写真は笠原、大谷が、遺構高所撮影・遺物写真は山際哲章が撮影した。
7. 本書で使用した遺構平面図は電子平板測量によるデジタルデータを編集し、断面図は手取り計測・作図したものをデジタルトレース編集したものである。なお、遺構の平面測量はタナカ設計（田中隆明）に委託した。
8. 発掘調査資料、出土遺物は、一括して前橋市教育委員会において保管している。
9. 発掘調査及び本書の作成にあたって下記の方々の御助言・御教示を賜った。記して感謝いたします。（順不同、敬称略）
前橋市市区画整理課 近隣の方々 桜岡正信 神谷佳明 永井智教 山下工業㈱ 山際哲章
日沖剛史
10. 発掘調査、整理作業に従事した者は次のとおりである。（順不同、敬称略）
発掘調査 滝原忠男 阿久津滋 小井土攻 金沢健治 松島忠夫 田島守 稲田康夫
浅見和真 小和瀬深夏 田子富子 山田友子 森下綾子 田村美知子 多田ひさ子
整理作業 川島かおり 高橋実果 板垣陽子 星野綾子 栗山佐江子 杉本めぐみ 堀江洋子
渡辺寿美子 福田ツヤ子 山田由美子 石澤ユキエ

凡 例

1. 掲載図の縮尺は原則として次のとおりである。全体図は 1/200、各遺構図は 1/60 であるが、部縮尺の異なるものは図中に縮尺を示した。
2. 遺構名は原則として、現場で付された名称を継承した。
3. 掲載遺物の縮尺は繩文土器・土師器・須恵器・鉄滓は 1/3、石器・鉄製品は 1/2・1/1、瓦は 1/5 を基本に、縮尺が異なるものは図中に縮尺を示した。なお、遺物写真は図面と同等な縮尺とした。
4. 遺構平面図の北方向は座標北を示す。座標は旧日本測地系 IX 系である。
5. 出土遺物観察表に示す色調は『標準土色帖』を参照した。また、石器・石製品実測・石材鑑定は山崎芳春が行った。
6. 出土遺物観察表の計測値に示した（ ）は復元推定値を、〈 〉は残存値を表す。

目 次

序 例言 凡例

第1章 調査に至る経緯と調査の経過 ······	1
第1節 調査に至る経緯 ······	1
第2節 調査の経過 ······	1
第2章 遺跡の立地と環境及び基本土層 ······	5
第3章 遺構と遺物 ······	6
第1節 住居 ······	6
第2節 土坑・集石・ピット・縄文集中 ······	28
第3節 遺構出土遺物 ······	29
出土遺物観察表 ······	52
第4章 まとめ ······	60
第1節 遺構の概観 ······	60
第2節 H-6出土の有鍔台付鉢について ······	62
付編 元總社蒼海遺跡群(103)から出土した盤状坏について ······	64

写真図版

報告書抄録

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、その15年目にあたる。本調査地は、周辺において埋蔵文化財発掘調査が長年に亘って実施されており、遺跡地であることが周知されている。

平成27年2月17日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することとなり、同年3月2日付けで前橋市と民間調査組織である有限会社歴史考房まほらとの間で業務委託契約が締結され、同年3月2日に発掘調査が開始された。

なお、遺跡名称「元總社蒼海遺跡群（103）」（遺跡コード：26A200）の「元總社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、「（103）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

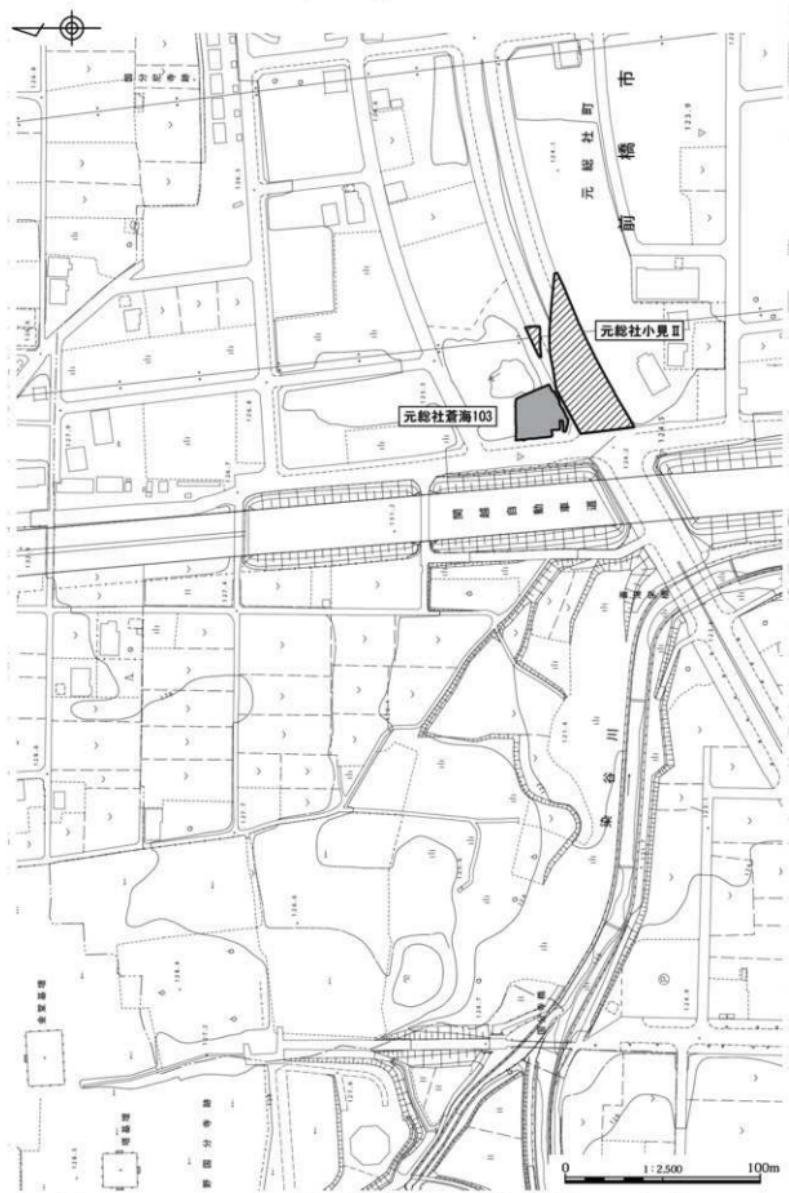
第2節 調査の経過

●発掘調査

発掘調査は平成27年3月2日～平成27年4月22日まで実施された。

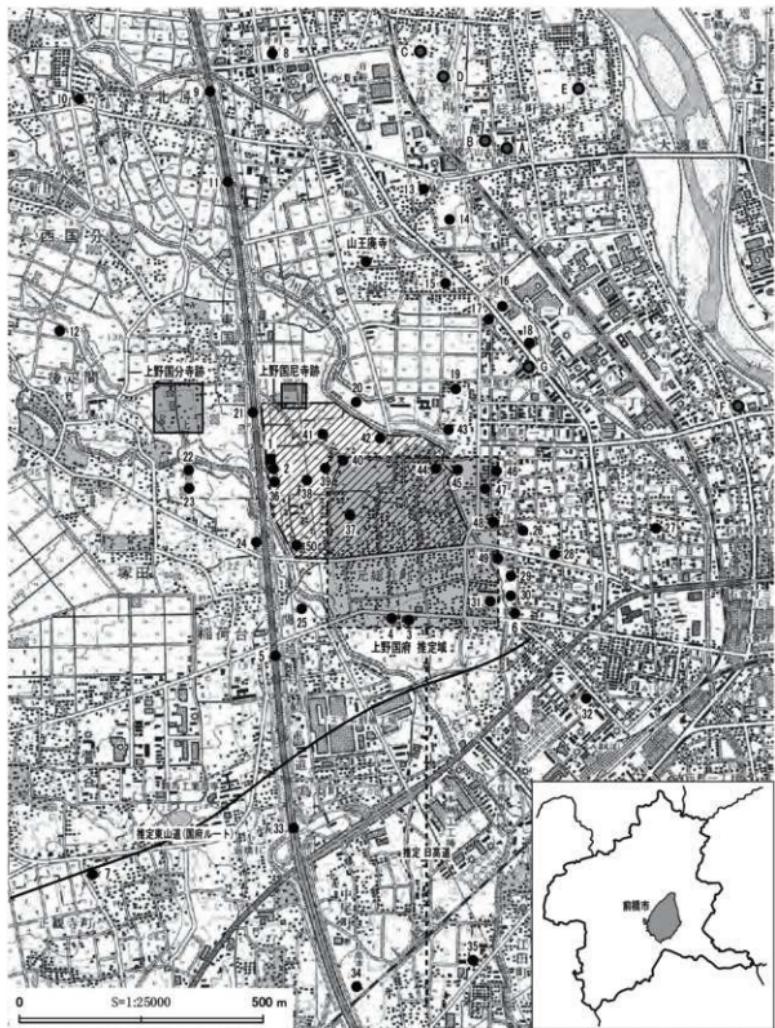
調査経過の概略は下記のとおりである。

- 3月 2日：調査着手 計画・準備。
- 3月 4日：現地打合せ。
- 3月 6日：重機搬入、整地作業。
- 3月 10日：仮設トイレ設置。器材搬入。
- 3月 11日：表土掘削開始。
- 3月 13日：遺構確認作業開始。遺物洗浄開始。
- 3月 18日：遺構調査（掘下げ）開始。
- 3月 19日：重機搬入、再掘削開始。
- 3月 23日：再掘削範囲の遺構確認作業。遺構測量開始。
- 4月 2日：高所撮影。現場完了検査。
- 4月 6日：現地調査終了。
- 4月 7日：器材搬出。
- 4月 10日：遺構測量終了。
- 4月 13日：埋め戻し。遺物注記開始。
- 4月 14日：遺物洗浄終了。遺構写真・図面整理等開始。
- 4月 21日：遺物注記終了。
- 4月 22日：遺構写真・図面整理終了。



第1図 遺跡位置図

「前橋市現況図」を使用



第2図 周辺遺跡分布図(『国土地理院1:25,000』を使用)

第1表 周辺遺跡一覧

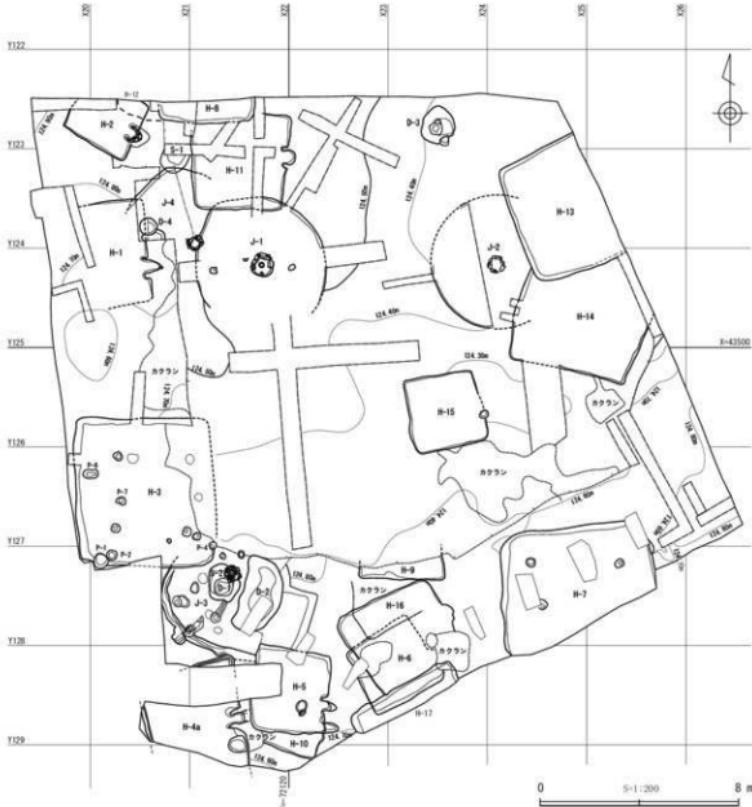
No.	遺跡名	時期・種別
1	元総社舊海地区遺跡群 103	本遺跡
2	元総社小見II遺跡	本遺跡隣接、調査・古墳・奈良・平安時代の集落、中世の構・道路
3	天神山遺跡	奈良・平安時代の集落、八稜鏡出土
4	天神山遺跡・II遺跡	奈良・平安時代の集落
5	鳥羽遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落、神殿、鐵冶
6	寺田遺跡	平安時代の構
7	正綱寺遺跡 I ~ IV	弥生・古墳・奈良・平安時代の集落、中世の構
8	柿木遺跡・II遺跡	奈良・平安時代の集落
9	北原遺跡	調査時代の土器・龜石、古墳時代の水田、奈良・平安時代の集落
10	熊谷・Ⅱ・Ⅲ遺跡	調査・平安時代の集落
11	国分寺境遺跡・Ⅲ遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
12	後醍醐遺跡 I ~ III	古墳・奈良・平安時代の集落
13	村東遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
14	大垣城遺跡 I ~ VI	調査・古墳・奈良・平安時代の集落、中世の掘立・地下式坑
15	鷹寺寺跡向道跡・II遺跡	奈良・平安時代の集落
16	産業道路東遺跡	調査時代の集落
17	産業道路西遺跡	調査時代の集落
18	福井城遺跡東遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落、礎構築採掘跡
19	總社甲福寺跡大道西遺跡・II遺跡	奈良・平安時代の集落、中世の島、近世の構
20	總社大福寺跡大道西・IV遺跡、總社泉明神北Ⅲ遺跡	調査・古墳・奈良・平安時代の集落
21	上野国分寺・尼寺中間地域	調査時代の集落・配石、弥生時代の集落・方形周溝墓、古墳・奈良・平安時代の集落
22	元総社西川遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
23	上野国分寺參道遺跡	古墳・平安時代の集落
24	保田村東遺跡	平安時代の集落
25	佐助路・II遺跡	古墳・平安時代の集落
26	原経II遺跡	平安時代の集落
27	大友町地頭遺跡	Aa-B 下水田
28	原越遺跡	奈良・平安時代の集落
29	元總社明神遺跡 I ~ XIII	古墳時代の集落・水田・奈良・平安時代の集落、中世の住居
30	元總社寺田遺跡 I ~ III	古墳・奈良・平安時代の集落
31	元總社小学校校庭遺跡	平安の掘立柱建物
32	元總社稻葉遺跡	調査時代の土器、平安時代の集落、瓦塔出土
33	中尾遺跡	奈良・平安時代の集落
34	日高遺跡	Aa-C 下水田、方形周溝墓
35	勝呂遺跡	Aa-B 下水田
36	元総社小見遺跡IV	奈良・平安時代の集落、中世の土坑墓
37	草作遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
38	元総社草作遺跡V	古墳・奈良・平安時代の集落
39	元総社小見IX遺跡	奈良・平安時代の集落
40	元総社小見内X遺跡	古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落、中世の島・構
41	元総社小見内XI遺跡	調査・奈良・平安時代の集落、中世の島・構
42	元総社小見内Ⅹ遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落、中世の掘立・構
43	總社泉明神北Ⅲ	調査・奈良・平安時代の集落
44	總社泉明神北V	古墳時代の水田・奈良・平安時代の集落
45	總社泉明神北遺跡	古墳時代の島・水田、中世の構
46	閑泉遺跡	奈良・平安時代の構
47	閑泉遺跡南遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
48	星遺跡・II遺跡	古墳・平安時代の集落、中世の壁・看板
49	大友町II・III遺跡	古墳・平安時代の集落、地下式坑
50	元総社舊海地区遺跡群 8	古墳・奈良・平安時代の集落、縄袖陶器出土
A	蛇穴山古墳	方墳 8c 初
B	宝塔山古墳	方墳 7c 末
C	總社二子山古墳	前方後円墳、6c 末~7c 初
D	愛宕山古墳	円墳 7c 初
E	遠見山古墳	前方後円墳 6c 後半
F	王山古墳	前方後円墳 6c 中
G	福荷山古墳	円墳 6c 後半

第2章 遺跡の立地と環境及び基本土層

「遺跡の立地と環境、及び基本土層」については、すでに元総社着海遺跡群として数多くの発掘調査が隣接地域で実施され、報告書が刊行されているものが多く、内容的に重複することから簡略化することとした。

周辺の環境についての概略については第2図と表1に示したとおりである。

基本土層については、擾乱の影響を大きく受けしており、基本的な層序が観察できたのは東壁の一部のみであるが、周辺遺跡と堆積状況が大きく変わるところは認められなかった。基本的にはHr-FP・As-C含有黒褐色土が遺構確認面になるが、その下層に堆積する総社砂層や黄褐色粘質土が露呈している部分が多く認められた。



第3図 遺構配置図

第3章 遺構と遺物

第1節 住居

J-1 (遺構: 第4・5図、図版8-7/遺物: 第26図、第3表、図版12)

重複: H-11に切られる。J-4との新旧関係は不明瞭であるが、遺物の出状況からJ-4より新しいと考えられる。形態・確認規模: 東西5.2×南北(残存)4.3m、深さ(残存)16cm程を測り、円形と推定される。主軸方向: N-29°-E。炉: 中央部に敷設。長軸94×短軸86×深さ(残存)17cm程の方形に礎を配し、中央底にを深鉢を埋設している。床面: 上部擾乱により不明瞭ではあるが、總社砂層上面を平坦に整えた床と考えられる。覆土: 黄褐色土粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。遺物: 掘載遺物7点。炉付近に比較的まとまって出土している。所見: 残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。

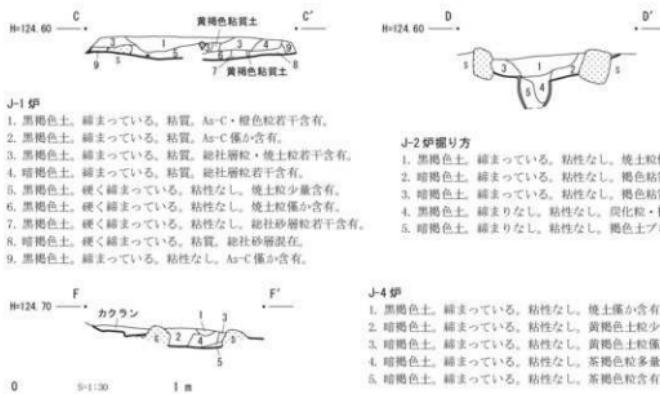
J-2 (遺構: 第6図、図版8-9/遺物: 第26図、第3表、図版12)

重複: H-13・14に切られる。形態・確認規模: 東西(残存)2.4×南北(残存)5.0m、深さ(残存)9cm程を測り、円形と推定される。主軸方向: 不明。炉: 中央部に敷設。径70×深さ(残存)10cm程の円形に礎を配している。床面: 不明瞭ではあるが、黒色粘質土上面を平坦に整えた床と考えられる。覆土: 黄褐色粘質土粒含有黒褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。

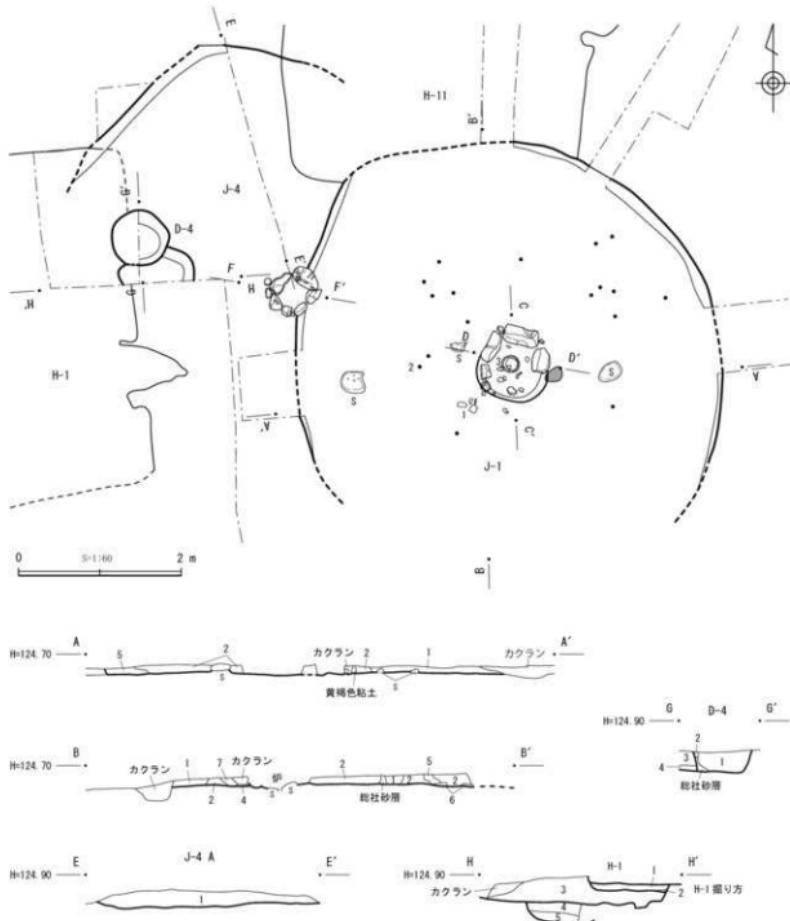
遺物: 掘載遺物7点。炉付近から少量出土している。所見: 残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。

J-3 (遺構: 第7図、図版8-7/遺物: 第27図、第3表、図版12)

重複: H-3・5、D-1・2、S-1に切られる。形態・確認規模: 東西(残存)4.0×南北(残存)4.2m、深さ(残存)7cm程を測り、円形と推定される。南西部に長さ45×幅66cm程の方形状突出部が認められる。



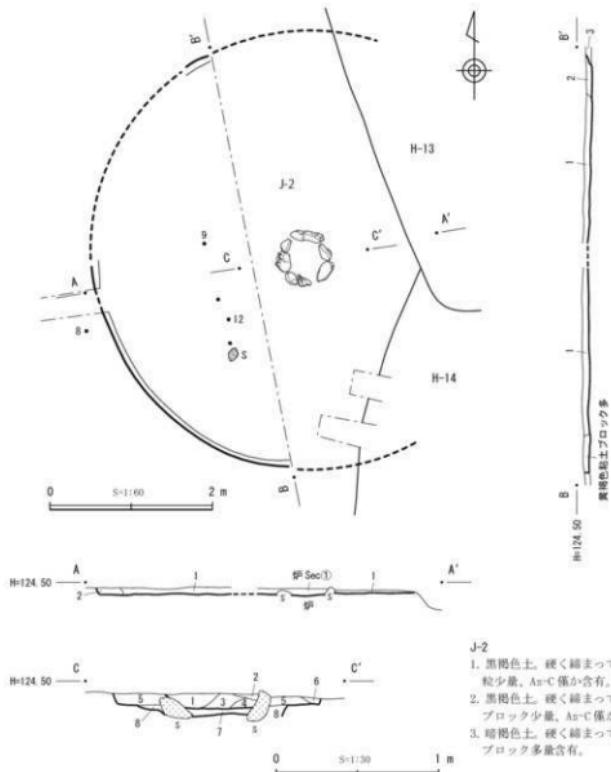
第4図 J-1 炉



- J-1
1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干含有。
 2. 喀褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒少量。As-C 僅か含有。
 3. 緑色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒多量含有。
 4. 喀褐色土。締まっている。粘性なし。燒土粒多量含有。
 5. 緑色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒多量。As-C 含有。
 6. 黄褐色粘質土。締土砂層含有。
 7. 喀褐色土。締まっている。粘性なし。燒土粒・炭化鉱物含有。
- J-4
1. 喀褐色土。硬く締まっている。やや粘性。As-C・Hr-FP 少量。褐色粘質土小ブロック含有。

- J-1-4 住居方
1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。Hr-FP 若干、燒土粒・炭化鉱物含有。H-1 掘り方。
 2. 喀褐色土。締まっている。粘性なし。粘土小ブロック含有。H-1 掘り方。
 3. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。Hr-FP 多量、As-C 少量含有。
 4. 喀褐色土。締まっている。粘性なし。Hr-FP 若干含有。
 5. 喀褐色土。締まっている。粘性なし。締土砂層少量含有。
- D-4
1. 喀褐色土。締まっている。粘性なし。締土砂層・Hr-FP 少量含有。
 2. 喀褐色土。締まっている。粘性なし。締土砂層多量含有。
 3. J-H 住 B4 層と同じ。
 4. J-H 住 B5 層と同じ。

第5図 J-1-4



- J-2
1. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。黄褐色粘質土粒少。As-C 値が含有。
 2. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。黄褐色粘質土粒少。As-C 値が含有。1 層より黒い。
 3. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。黄褐色粘質土粒多量含有。

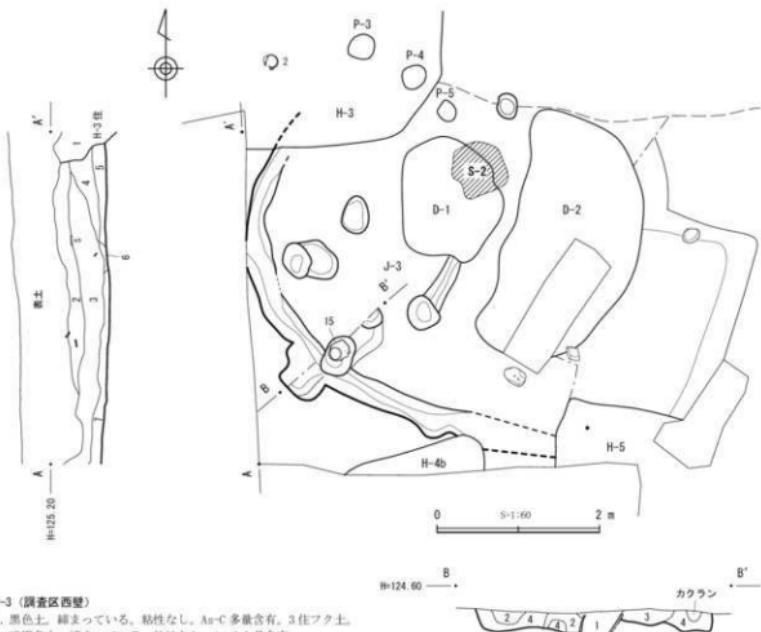
6. 灰褐色土。硬く締まっている。粘質。粘土。

J-2 炉掘り方

7. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。燒土粒僅か含有。
8. 黑褐色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土粒含有。

第6図 J-2

主軸方向:N-29°-E。 **炉:**中央部に敷設。径 70 × 深さ(残存)10 cm 程の円形に礫を配している。 **埋甕:** 南西突出部手前に深鉢を埋設。 **床面:**不明瞭ではあるが、總社砂層上面を平坦に整えた床と考えられる。 **周溝:**壁下に幅 24 ~ 30 × 深さ 26 cm 程の溝が巡っている。 **柱穴:**柱穴とは判断し難いが、床面に径 35 cm 程の浅いビットがいくつか確認された。 **覆土:**總社砂層・燒土粒含有黑褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。 **遺物:**掲載遺物 2 点。床直上からの出土遺物は少ないが、遺構上層から多量の縄文土器がまとまって出土している(縄文遺物集中(X-1)として写真撮影のみ行った)。 **所見:**残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。



J-3 (調査区西壁)

1. 黒色土。締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。3 住フク土。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 少量含有。
3. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干含有。
4. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層若干含有。
5. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層含有。
6. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層若干。焼土粒僅か含有。
7. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層多量含有。

第7図 J-3

J-4 (遺構: 第5図、図版9 / 遺物: 第27図、第3表、図版13)

重複: H-1・H-11、D-4 に切られる。J-1 との新旧関係は不明瞭であるが、遺物の出状況から J-1 より古ないと考えられる。**形態・確認規模:** 不明。**主軸方向:** N-54°-E。**炉:** 中央部に敷設。長軸 67 × 短軸 53 × 深さ (残存) 12 cm 程の方形に礎を配している。**床面:** 不明瞭ではあるが、総社砂層上面を平坦に整えた床と考えられる。**覆土:** 褐色粘質土小ブロック含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。**遺物:** 掲載遺物 10 点。炉付近から少量出土している。**所見:** 残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。



第8図 H-1 断面図

H-1 (遺構: 第8図、図版1 / 遺物: 第28図、第3表、図版13)

重複: J-4, D-4を切る。 **形態・確認規模:** 西側は擾乱によって削平されているが、方形と推定される。南北4.2m、東西(残存)2.1m、深さ10cm程を測る。 **主軸方向:** N-84° -E。 **カマド:** 東壁南寄りに敷設。長さ85×幅64×深さ10cm程を測る。左袖手前に崩壊したと思われる粘土が検出された。

床面: 不明瞭ではあるが、総社砂層上面を平坦に整えた床と考えられる。 **覆土:** 焼土・As-C含有の暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、覆土の堆積が薄く不確定である。 **遺物:** 掘載遺物10点。炉付近から少量出土している。 **所見:** 残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から10世紀前半の住居と推定される。

H-2 (遺構: 第9~10図、図版1 / 遺物: 第29~31図、第3表、図版14~15)

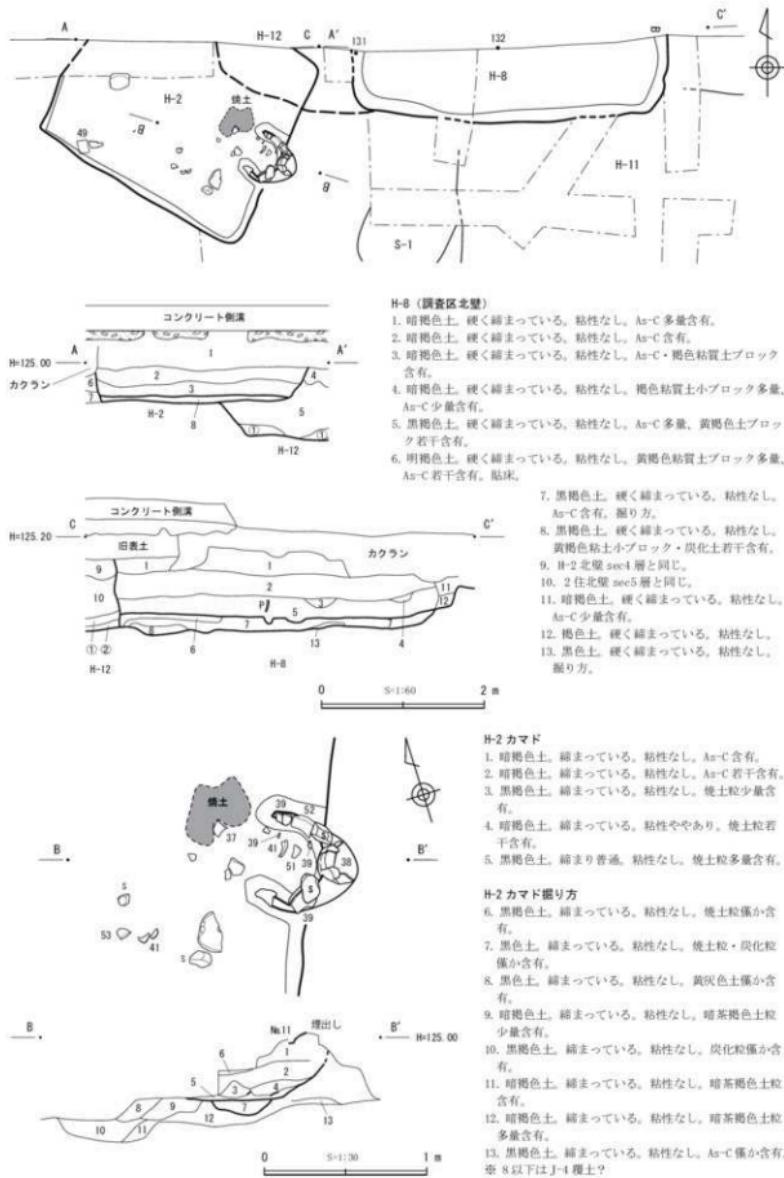
重複: H-12を切る。 **形態・確認規模:** 北西部は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北2.5m、東西2.8m、深さ44cm程を測る。 **主軸方向:** N-120° -E。 **カマド:** 東壁中央やや南寄りに敷設。壁には礫を積み、煙出しには土器器甕を逆さに据付け構築している。長さ62×幅55×深さ45cm程を測る。左袖手前に焼土が検出された。 **床面:** 灰褐色粘土ブロック多量含有の灰褐色土を貼床として平坦に整えている。 **覆土:** As-C含有の黒色土を主体とする自然堆積と考えられる。

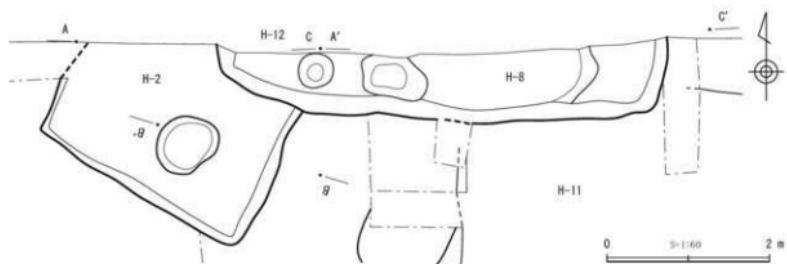
H-2

1. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。Irr-PP・As-C 多量含有。
2. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量、燒土粒僅か含有。
3. 黒色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 少量、褐色粘土ブロック若干含む。
4. 灰褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層ブロック多量混在。
5. 黒色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。
6. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。
7. 暗茶褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 若干、褐色粘土質土混在。
8. 墓灰褐色土。硬く締まっている。やや粘質。灰褐色粘土ブロック多量含有。

H-12 (調査区北壁)

- ①. 明褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 少量、黄褐色土粒若干含有。
- ②. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。黄褐色土ブロック含有。





第10図 H-2・8・12 堀り方

堀り方：地山の褐色粘質土を掘り込んでおり、全体的に平坦で床面から6cm程下る。 **遺物**：掲載遺物26点。炉付近からまとめて出土している。 **所見**：遺構形態・出土遺物から11世紀代の住居と推定される。

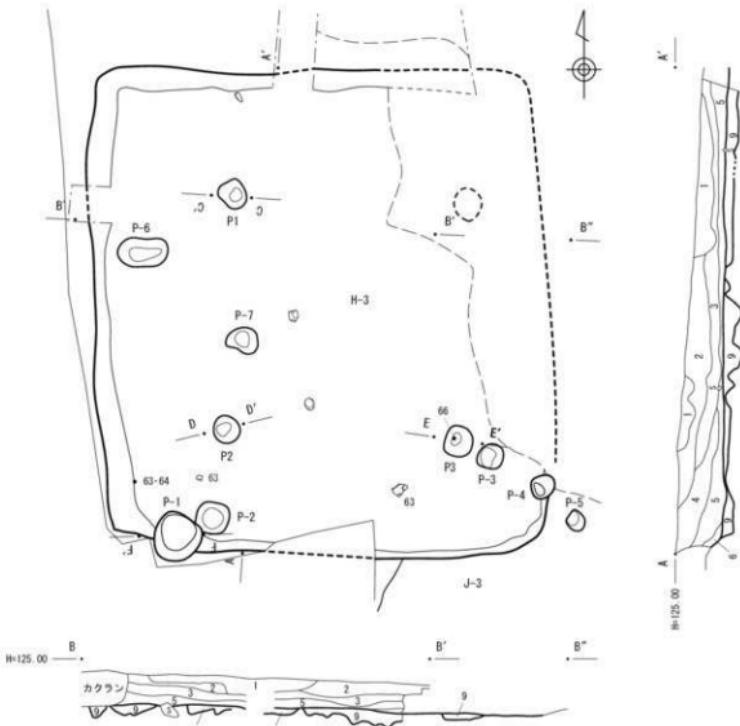
H-3（遺構：第11・12図、図版2・3／遺物：第31図、第3表、図版15）

重複：J-3を切る。 **形態・確認規模**：北東部は擾乱によって大きく削平されているが、方形と推定される。南北6.0m、東西5.7m、深さ63cm程を測る。 **主軸方向**：N-3°-E。 **柱穴**：P1（北西）・P2（南西）・P3（南東）が検出された。P1は径36×深さ38cm、P2は径33×深さ57cm、P3は径37×深さ57cm程を測る。 **床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。 **覆土**：焼土・As-C含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。 **堀り方**：全体的にマウンド状を呈し、壁際が床面から10cm程下がっている。 **遺物**：掲載遺物6点。少量の土器が覆土中から出土している。 **所見**：遺構形態・出土遺物から4世紀代の住居と推定される。

H-4（遺構：第13～15図、図版2・3／遺物：第31・32図、第3表、図版15・16）

重複：H-5に切られている。H-10との新旧関係は不明。 **形態・確認規模**：北側・南側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北（残存）3.2m、東西3.9m、深さ33cm程を測る。 **主軸方向**：N-78°-E。 **カマド**：東壁に敷設。燃焼部中央に支脚（礎）が据付けられ、粘土が南側へ崩落した状態で検出された。長さ97×幅77×深さ22cm程を測る。 **貯蔵穴**：カマド右脇に敷設。平面円形、断面逆台形を成し、径70×深さ25cm程を測る。 **周溝**：北・西壁下に幅15×深さ10cm程の溝が巡っている。 **床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。 **覆土**：明褐色粘質土ブロック含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、搅乱が激しく不明瞭である。 **堀り方**：全体的に床面から5cm程下がり、カマド焚口部が径78×深さ23cm程の円形に掘り込まれ、その両端部に径30cm程の構築材抜取り痕と考えられる穴が検出された。また、カマド手前にも径51cm程の円形の穴が認められた。

遺物：掲載遺物11点。カマド、貯蔵穴内とその付近にまとめて出土している。 **所見**：遺構形態・出土遺物から6世紀後半の住居と推定される。



H-3 A・B

1. 黒色土。締まりなし。粘性なし。As-C 多量含有。
2. 單褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 含有。
3. 單褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 少量。総社砂層若干含有。
4. 單褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 少量。総社砂層僅か含有。
5. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 少量含有。
6. 單褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層若干混在。

H-3 挿り方 A・B

9. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 儅か、総社砂層少量含有。

H-3 P1

1. 黒色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層多量含有。
2. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層若干含有。
3. 單褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層含有。

H-3 P2

1. 單褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 儅か、総社砂層若干含有。

H-3 P3

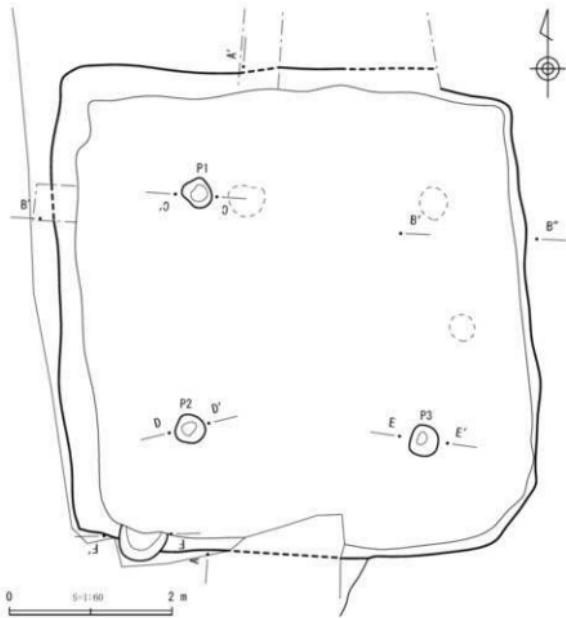
1. 黒色土。柔らかい。粘性なし。総社砂層若干含有。
2. 黒褐色土。柔らかい。粘性なし。
3. 黒褐色土。柔らかい。粘性なし。
4. 黒色土。締まっている。粘性なし。総社砂層若干。
5. 單褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層多量含有。

P-1

1. 黒色土。締まりなし。粘性なし。総社砂層ブロック多量含有。
2. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C・総社砂層ブロック少量含有。
3. 單褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層ブロック少量含有。



第 11 図 H-3



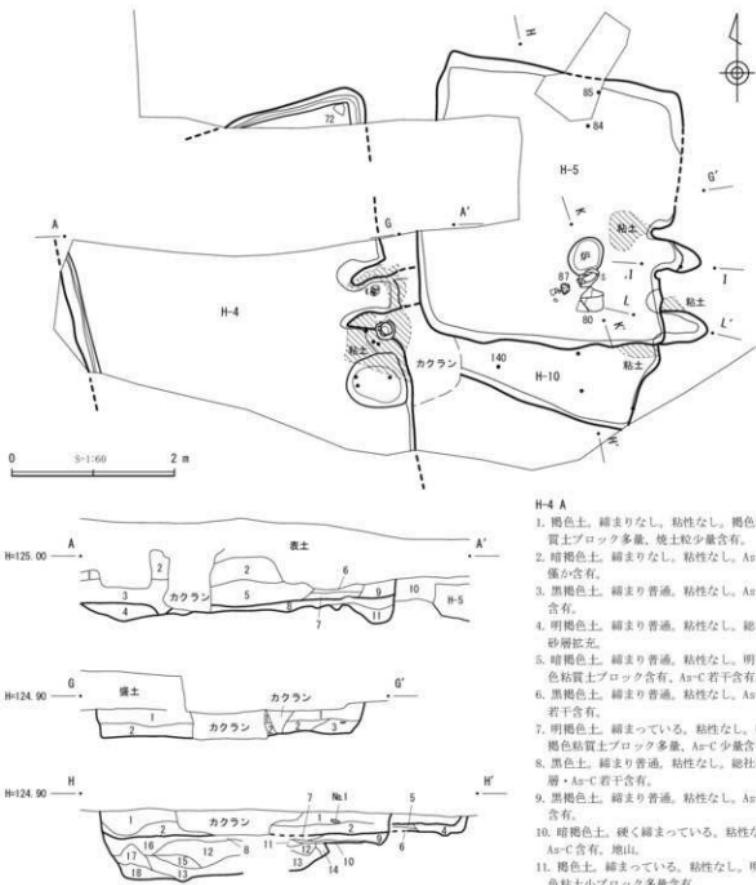
第12図 H-3 挖り方

H-5 (遺構: 第13・15図、図版3／遺物: 第32・33図、第3表、図版16)

重複: J-3、H-4・10を切っている。**形態・確認規模:** 方形を成し、南北3.3m、東西3.0m、深さ36cm程を測る。**主軸方向:** N-96° -E。**カマド:** 東壁南寄りに敷設。長さ68×幅60×深さ31cm程を測る。左袖手前に崩壊したと思われる粘土が検出された。**炉:** カマド手前に径45×深さ9cm程を測る円形の窪みが確認された。南側に被熱石が据えられ、脇から鉄滓が出土している。**床面:** 総社砂層を掘り込み平坦に整えている。**覆土:** As-C含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、搅乱が激しく不明瞭である。**掘り方:** 全体的に床面から25cm程下がり、中央部が長軸3.9×短軸1.9×0.4m程の不正橢円形に大きく掘り込まれている。**遺物:** 掘載遺物8点。炉付近にまとめて出土している。**所見:** 遺構形態・出土遺物から9世紀前半の小鍛冶工房と推定される。

H-6 (遺構: 第16図、図版4／遺物: 第33～36図、第3表、図版16～18)

重複: H-16・17を切っている。**形態・確認規模:** 北東部は搅乱によって大きく削平されているが、方形と推定される。南北3.1m、東西3.0m、深さ20cm程を測る。**主軸方向:** N-60° -E。**カマド:** 東壁南寄りに敷設されるが、搅乱により灰層を残すのみである。灰層は南北51×東西46×厚さ15cm程を測る。**床面:** 総社砂層を掘り込み平坦に整えている。**覆土:** 褐色粒含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。**掘り方:** H-16の上に構築されており、



H-4 A

1. 黄色土。締まりなし。粘性なし。褐色
質土ブロック多量。燒土粒少數含有。
2. 單褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C
僅か含有。
3. 黑褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C
含有。
4. 明褐色土。締まり普通。粘性なし。總社
砂層払光。
5. 明褐色土。締まり普通。粘性なし。明褐色
色粘質土ブロック含有。As-C 若干含有。
6. 黑褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C
若干含有。
7. 明褐色土。締まっている。粘性なし。明褐色
色粘質土ブロック多量。As-C 少數含有。
8. 黑褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C
含有。
9. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。褐色粘質土若干含有。
10. 暗褐色土。非常に硬く締まっている。やや粘質。
Hr-FP 多量含有。
11. 6住カマド灘り方sect6層と同じ。
12. 6住カマド灘り方sect7層と同じ。
13. 6住カマド灘り方sect8層と同じ。
14. 黑褐色土。非常に硬く締まっている。粘質。
15. Hr-FP 扩充。2次堆積。
16. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。Hr-FP 僅か含有。
17. 黑褐色土。締まり普通。粘性なし。總社砂層僅か含有。
18. 黄色土。締まり普通。粘性なし。總社砂層多量含有。

H-5 G-G' H-H'

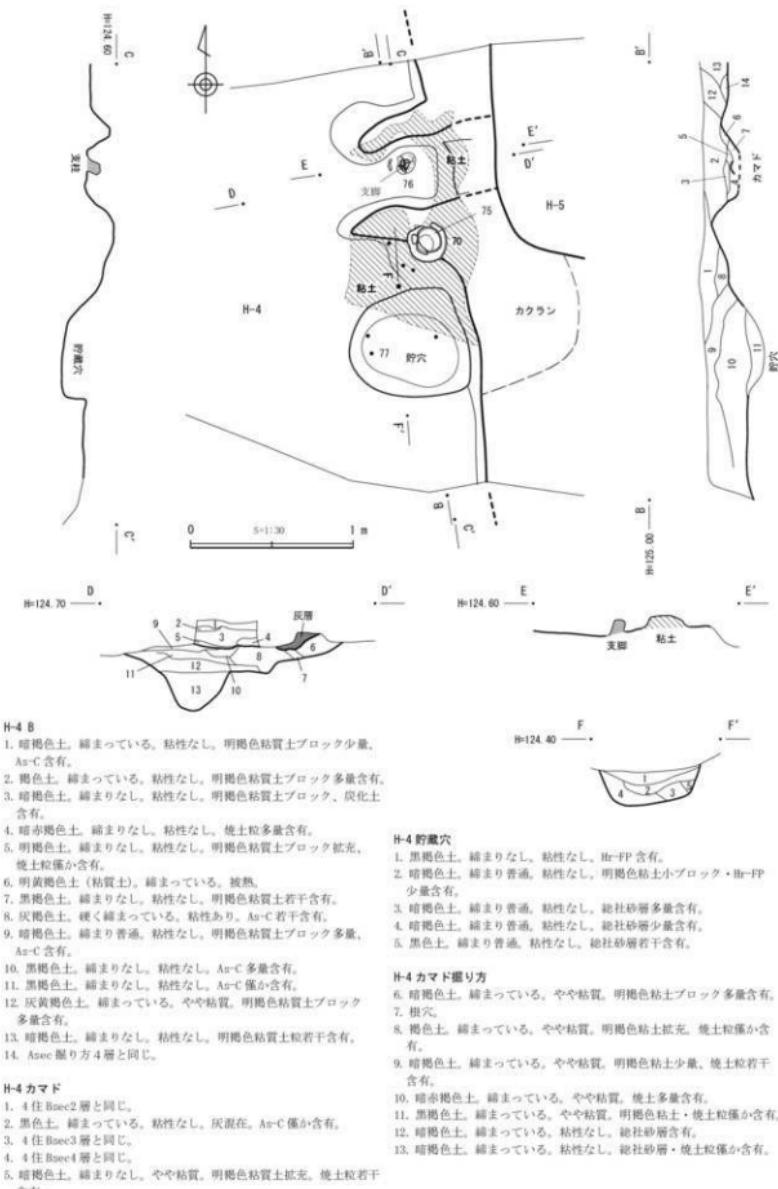
1. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 少量含有。
2. 黑褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。
3. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。燒土粒少數含有。

5住掘り方 H-H'

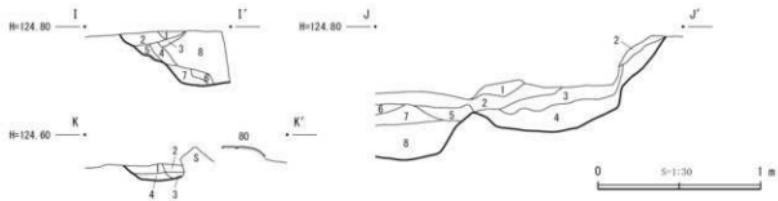
4. 灰褐色土。硬く締まっている。粘質。褐色粘質土小ブロック
若干含有。
5. 灰褐色土。硬く締まっている。粘質。
6. 灰褐色土。硬く締まっている。粘質。總社砂層ブロック多量。
Hr-FP 若干含有。
7. カマド掘り方2層と同じ。

8. 灰褐色土。硬く締まっている。粘性なし。Hr-FP 僅か含有。
9. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。褐色粘質土若干含有。
10. 暗褐色土。非常に硬く締まっている。やや粘質。Hr-FP 多量含有。
11. 6住カマド灘り方sect6層と同じ。
12. 6住カマド灘り方sect7層と同じ。
13. 6住カマド灘り方sect8層と同じ。
14. 黑褐色土。非常に硬く締まっている。粘質。
15. Hr-FP 扩充。2次堆積。
16. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。Hr-FP 僅か含有。
17. 黑褐色土。締まり普通。粘性なし。總社砂層僅か含有。
18. 黄色土。締まり普通。粘性なし。總社砂層多量含有。

第13図 H-4-5-10



第14図 H-4 カマド



H-5 カマド

1. 黒褐色土。縦まりなし。粘性なし。As-C 若干含有。
2. 暗褐色土。縦まり普通。粘性なし。燒土粒若干含有。
3. 暗褐色土。縦まり普通。粘性なし。燒土粒若干含有。
4. 明褐色土。縦まり普通。やや粘質。燒土粒多量。燒土粒僅か含有。
5. 暗赤褐色土。縦まり普通。粘性なし。粘土小ブロック・粒含有。
6. 明褐色土。縦まり普通。やや粘質。
7. 暗褐色土。縦まり普通。粘性なし。燒土粒若干含有。
8. 黑褐色土。縦まり普通。粘性なし。As-C 含有。

H-5 炉

1. 暗褐色土。縦まっている。粘性なし。燒土粒多量含有。
2. 黑褐色土。縦まっている。粘性なし。As-C 少量含有。
3. 暗褐色土。縦まっている。粘性なし。燒土粒若干。褐色粘質土含有。

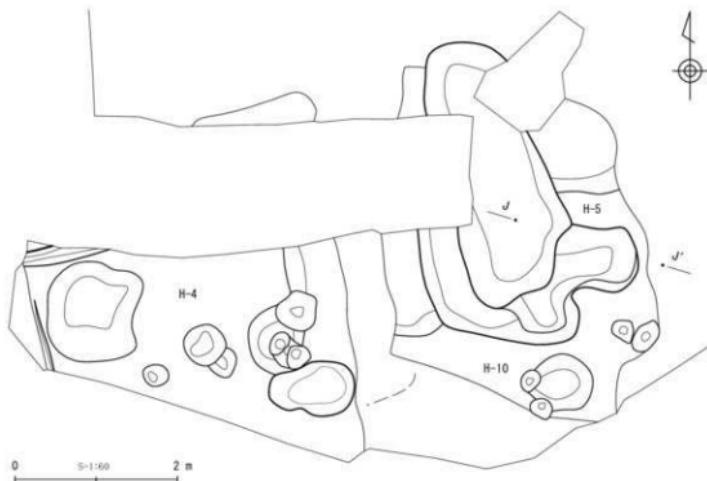


H-5 カマド掘り方

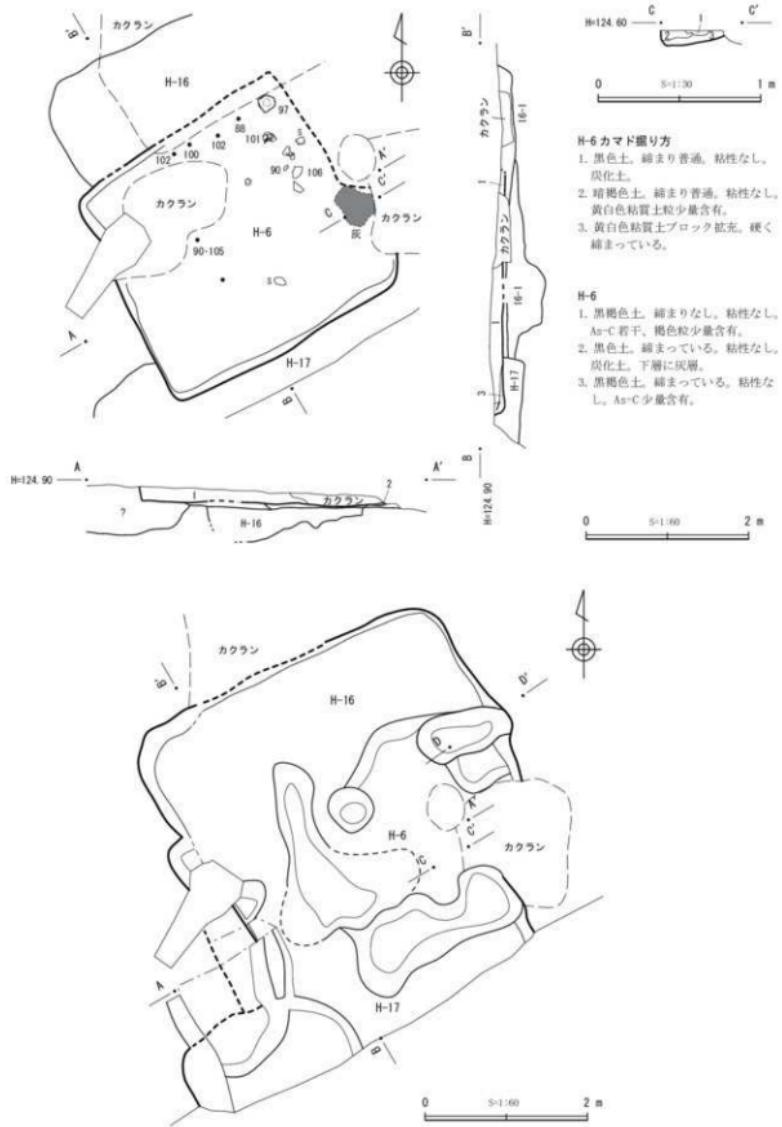
1. 暗褐色土。硬く縦まっている。粘性なし。As-C 儅か含有。
2. 暗褐色土。硬く縦まっている。粘性なし。燒土ブロック多量含有。粘土層在。
3. 棕褐色土。硬く縦まっている。やや粘質。灰黄色粘土粒。燒土粒若干含有。
4. 黑褐色土。硬く縦まっている。粘性なし。総社砂層ブロック若干含有。
5. 棕褐色土。硬く縦まっている。粘性なし。総社砂層紅光。
6. 暗褐色土。硬く縦まっている。やや粘質。Hr-PP・褐色粘土含有。
7. 黑色土。硬く縦まっている。やや粘質。
8. 黑褐色土。硬く縦まっている。やや粘質。総社砂層若干含有。

H-10 カマド

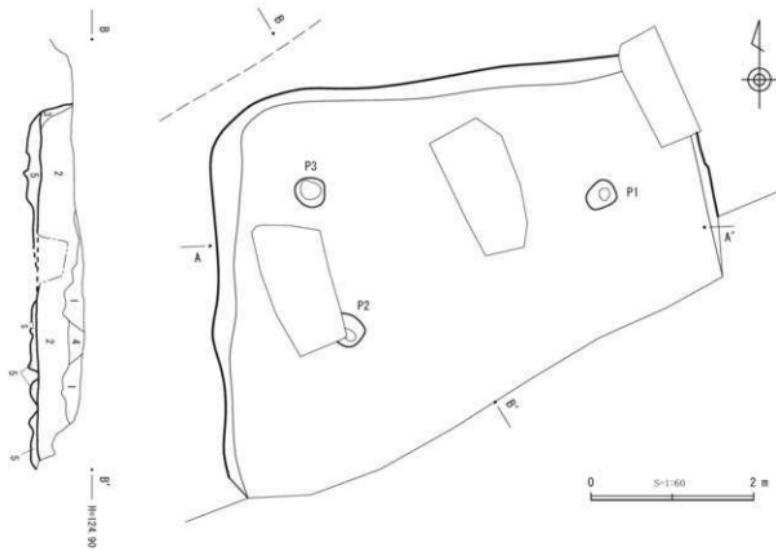
1. 黒褐色土。縦まり普通。粘性なし。黄褐色粘質土粒若干含有。
2. 黑褐色土。縦まり普通。粘性なし。燒土粒含有。
3. 暗褐色土。縦まり普通。粘性なし。褐色粘質土粒少量含有。
4. 黑色土。縦まり普通。粘性なし。炭化土。



第15図 H-5 カマド・炉、H-10 カマド、H-4・5・10 掘り方



第16図 H-6、H-6-16・17 摂り方

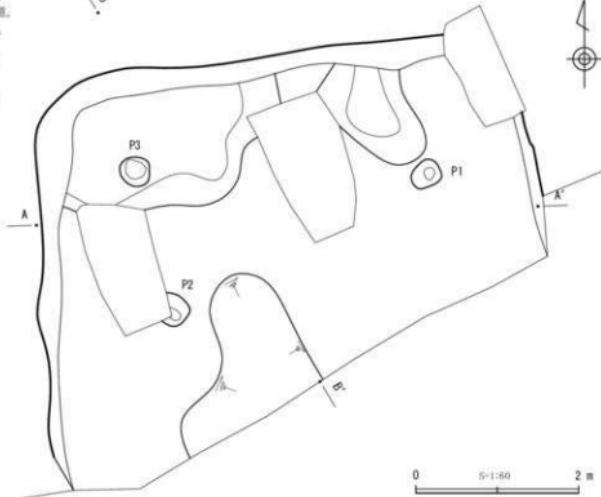


H-7

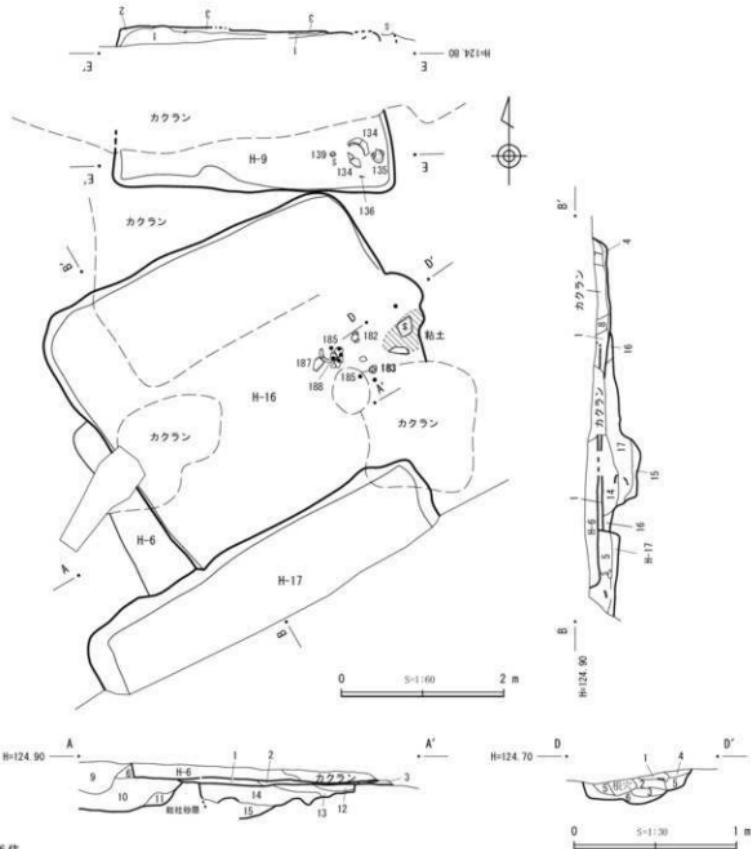
1. 明褐色土。硬く締まっている。
粘質。粘質土ブロック充填。道。
2. 暗褐色土。硬く締まっている。
粘性なし。As-C 多量含有。
3. 黒褐色土。締まり普通。粘性
なし。As-C 含有。
4. 暗褐色土。締まり普通。粘性
なし。As-C 若干含有。道。

H-7 掘り方

5. 黒褐色土。締まっている。
粘性なし。総社砂層少量、
As-C 優か含有。
6. 黑褐色土。締まっている。
粘性なし。総社砂層少量、
炭化堆か含有。



第 17 図 H-7、H-7 掘り方



H-16 住

- 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。褐色土混在。
- 黒褐色土。締まっている。やや粘質。灰褐色粘質土小ブロック含有。
- 黒灰色土。締まり普通。粘性なし。灰褐色粘質混在。
- 褐色土。締まっている。やや粘質。明褐色粘質土混在。
- 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C含有。H-17。
- 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C少含有。粘性なし。As-C僅か含有。地山。
- 黒褐色土。締まっている。粘性なし。炭化土。下層に灰層。
- 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C少含有。

H-16 堀り方

- 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。褐色土混在。
- 黒色土。硬く締まっている。粘性なし。Hr-FP・As-C若干含有。
- 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層含有。
- 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。白黄色粘土小ブロック少量。焼土粒若干含有。
- 白色粘土。
- 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層ブロック少含有。
- 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層若干含有。

- 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C僅か含有。
- 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層粘光。

H-16 カマド

- 灰層。締まり普通。
- 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒多量。灰岩若干含有。
- 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。炭化鉱石含。褐色粒含有。
- 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。炭化鉱石少量。焼土粒僅か含有。
- 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒・炭化鉱石僅か含有。
- 褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層多量含有。

H-9

- 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C多量含有。
- 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C少量。褐色粒若干含有。
- 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C・褐色小ブロック少量含有。

第18図 H-9・16・17

断面観察から掘り方ではないと判断される。 遺物：掲載遺物 27 点。北東部床面にまとめて出土している。特に 5 は特殊な器形を持った土器であるが、上部が搅乱により削平されており、共伴遺物として扱えるかは微妙である。 所見：遺構形態・出土遺物から 10 世紀後半の住居と推定される。

H-7 （遺構：第 17 図、図版 4／遺物：第 36・37 図、第 3 表、図版 18）

重複：道に切られている。 形態・確認規模：南側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北（残存）4.9 m、東西 6.3 m、深さ 43 cm 程を測る。 主軸方向：N-7° -W。 柱穴：P1～P3 が検出された。P1 は径 36 cm、P2 は径 40 cm、P3 は径 39 cm 程で、いずれも深さ 50 cm 以上を測る。 床面：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。 覆土：As-C 多量含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。 掘り方：全体的に床面から 17 cm 程下がる。部分的に起伏が認められるが、明瞭な掘り込みはない。 遺物：掲載遺物 14 点。覆土中から数点出土している。

所見：遺構形態・出土遺物から 5 世紀代の住居と推定される。

H-8 （遺構：第 9-10 図、図版 4／遺物：第 37 図、第 3 表、図版 19）

重複：H-11 に切られ、H-12 を切っている。 形態・確認規模：北側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北（残存）1.1 m、東西 3.8 m、深さ 67 cm 程を測る。 主軸方向：不明。 床面：黒褐色土を貼床として平坦に整えている。 覆土：As-C 含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、水平堆積に近く不確定である。 掘り方：地山の褐色粘質土を掘り込んでおり、全体的に平坦で床面から 17 cm 程下る。 遺物：掲載遺物 4 点。覆土中から少量出土している。 所見：遺構形態・出土遺物から 4 世紀代の住居と推定される。

H-9 （遺構：第 18 図、図版 4／遺物：第 37・38 図、第 3 表、図版 19）

重複：H-16・17 を切っている。 形態・確認規模：北部は搅乱によって大きく削平されているが、方形と推定される。南北（残存）1.0 m、東西 3.5 m、深さ 25 cm 程を測る。 主軸方向：不明。 床面：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。 覆土：As-C 含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。 遺物：掲載遺物 6 点。南東部床面にまとめて出土している。 所見：遺構形態・出土遺物から 9 世紀後半の住居と推定される。

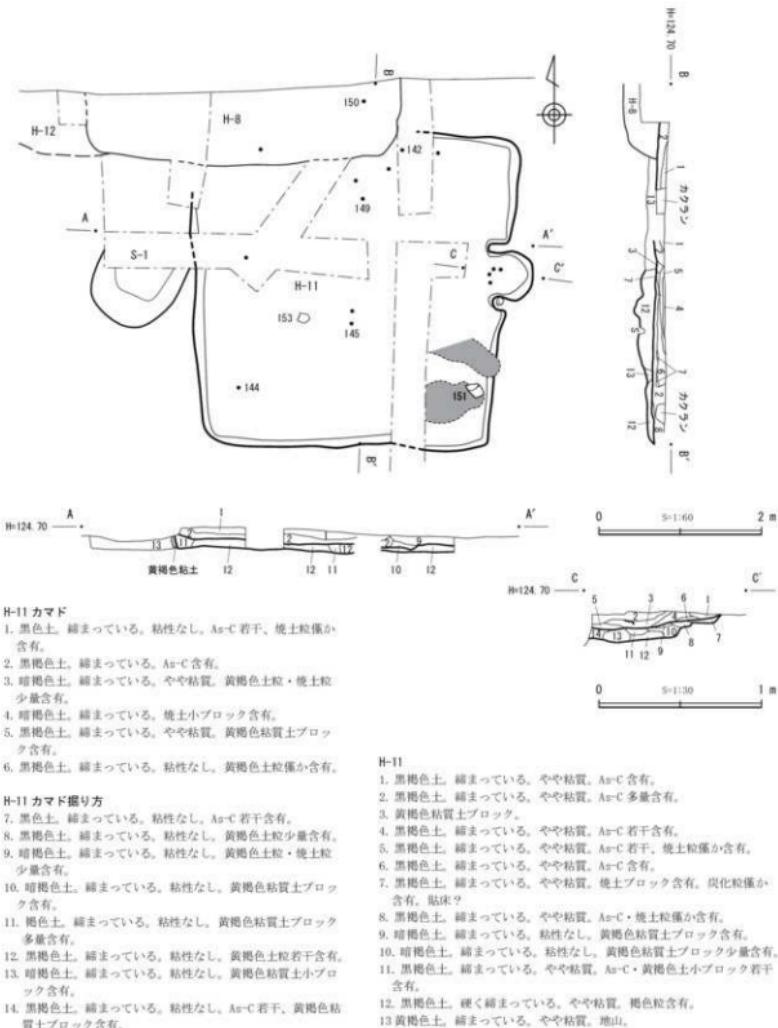
H-10 （遺構：第 13・15 図、図版 4／遺物：第 38 図、第 3 表、図版 19）

重複：H-2・8 に切られている。 形態・確認規模：北側は H-5 に切取られ、西側は搅乱によって削平されているが、方形と推定される。南北（残存）1.3 m、東西（残存）2.7 m、深さ 11 cm 程を測る。

主軸方向：N-111° -E。 カマド：東壁に敷設。袖と思われる部分に粘土が検出された。長さ（残存）58 × 幅 41 × 深さ 37 cm 程を測る。 床面：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。 覆土：As-C 含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、堆積層が薄く、単一層のため不明瞭である。 掘り方：全体的に床面から 11 cm 程下がり、僅かに凹凸が認められる。 遺物：掲載遺物 2 点。床面に散在して数点出土している。 所見：遺構形態・出土遺物から 8 世紀代の住居と推定される。

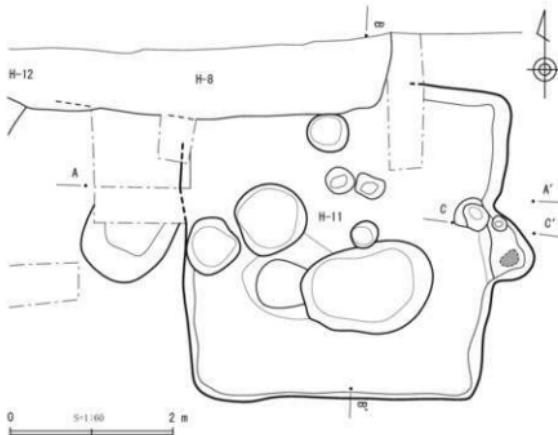
H-11 （遺構：第 19・20 図、図版 5／遺物：第 38・39 図、第 3 表、図版 19・20）

重複：J-1・4、H-8 を切っている。 形態・確認規模：北西部を H-8 に切り取られているが、方形と推



第19図 H-11. S-1

定される。南北 3.9 m、東西 3.9 m、深さ 36 cm 程を測る。 主軸方向 : N-95° E。 カマド : 東壁中央部やや北寄りに敷設。長さ 59 × 幅 80 × 深さ 21 cm 程を測る。左脇手前に燒土粒多量含有範囲が認められる。 床面 : 黄褐色粘質土上面を平坦に整えている。また、西壁の一部に黄褐色粘土を貼付け壁を構築している。 覆土 : As-C 含有黑褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。 掘り方 : 全



第20図 H-11掘り方

体的に黄褐色粘質土を掘り込み床面から12cm程下がる。中央部から西と北にかけて径0.5~1.6m程の土坑、径35cm程のピットが認められる。 遺物：掲載遺物15点。カマド、北部床面にまとまつて出土している。 所見：遺構形態・出土遺物から10世紀前半の住居と推定される。

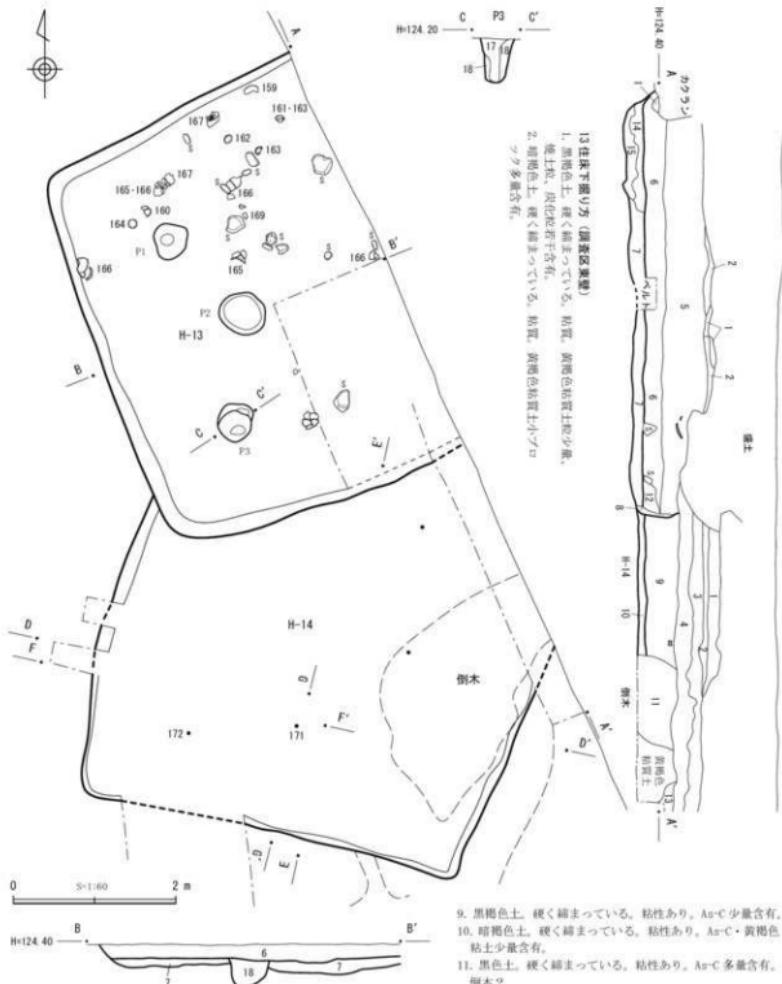
H-12（遺構：第9・10図、図版5／遺物：第39図、第3表、図版20）

重複：H-2・8に切られている。 形態・確認規模：北部は調査区外へ拡がり、東はH-8に、西はH-2に切り取られているが、方形と推定される。南北（残存）0.9m、東西2.0m、深さ91cm程を測る。

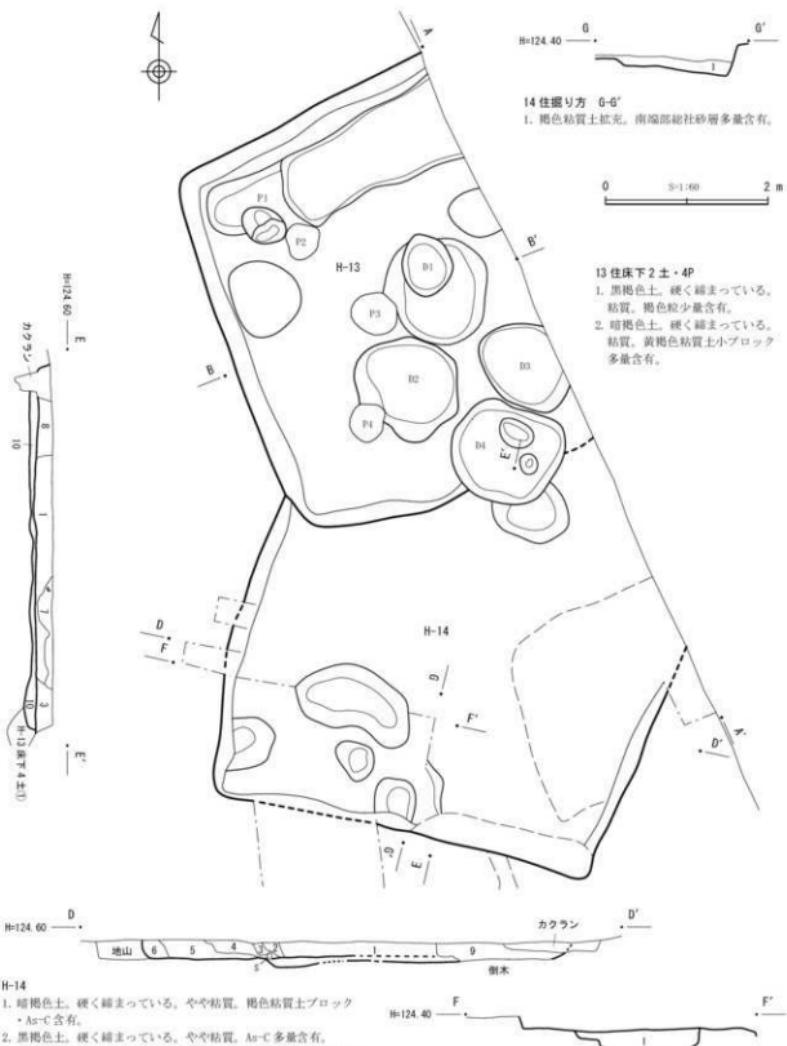
主軸方向：不明。 床面：黄褐色粘質土を掘り込んで平坦に整えている。 覆土：As-C多量含有黒色土を主体とする自然堆積と考えられる。 遺物：掲載遺物2点。カマド、覆土中から数点出土している。 所見：出土遺物から4世紀代の住居と推定される。

H-13（遺構：第21・22図、図版5・6／遺物：第39・40図、第3表、図版20）

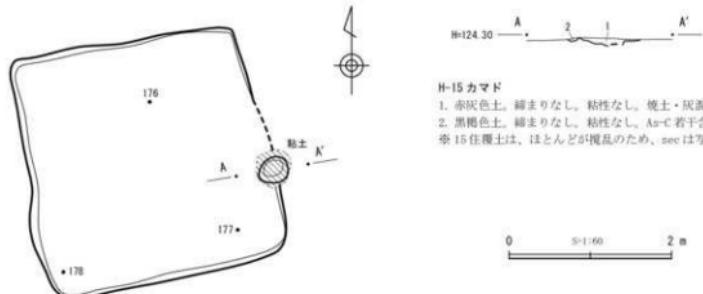
重複：J-2、H-14を切っている。 形態・確認規模：東側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北5.1m、東西（残存）3.8m、深さ46cm程を測る。 主軸方向：N-20°-W。 柱穴：P1～P3が検出された。P1は径43cm、P2は径54cm、P3は径44cm程で、いずれも深さ30cm以上を測る。 床面：全体的に黒色粘質土を貼床とし平坦に整えている。また、H-14と重なる南壁の一部に黄褐色粘土を貼付け壁を構築している。 覆土：As-C多量含有黒褐色粘質土を主体とする自然堆積と考えられるが、水平堆積に近く不確定である。 掘り方：黄褐色粘質土を掘り込み、全体的に床面から20cm程下がる。南寄りに径1.3m×深さ20cm程の土坑が4基確認された。 遺物：掲載遺物12点。北部床面にまとまつて出土している。 所見：遺構形態・出土遺物から7世紀前半の住居と推定される。



第21図 H-13-14



H-13-14 掘り方



第23図 H-15

H-14 (遺構: 第21・22図、図版6／遺物: 第41図、第3表、図版20)

重複: H-13に切り、J-2を切っている。**形態・確認規模:** 東側は調査区外へ拡がり、北側はH-14に切り取られているが、方形と推定される。南北(残存)5.0m、東西5.2m、深さ44cm程を測る。

主軸方向: N-13°-E。 **床面:** 東壁際は倒木によって大きく抉り取られているが、全体的に暗色粘質土を貼床とし平坦に整えている。 **覆土:** As-C含有黒褐色粘質土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。 **掘り方:** 黄褐色粘質土を掘り込み、全体的に床面から10cm程下がる。 **遺物:** 掘載遺物4点。床面に散在して数点出土している。 **所見:** 遺構形態・出土遺物から6世紀後半の住居と推定される。

H-15 (遺構: 第23図、図版6・7／遺物: 第41図、第3表、図版20)

重複: なし。 **形態・確認規模:** 遺構のはほとんどは搅乱によって削平されており、僅かにカマドと掘り方が残存し、方形を成す。南北3.0m、東西3.1m、深さ5cm程を測る。 **主軸方向:** N-77°-E。

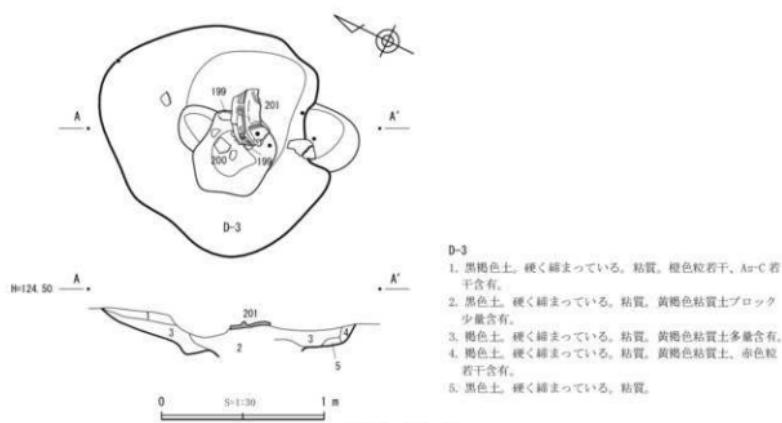
カマド: 東壁南寄りに敷設。掘り方と思われる部分に焼土・粘土が検出された。径34×深さ10cm程を測る。 **床面:** 不明。 **覆土:** 不明。 **掘り方:** 全体的に總社砂層を掘り込んでいるが、不明瞭である。 **遺物:** 掘載遺物5点。底面に散在して数点出土している。 **所見:** 遺構形態・出土遺物から9世紀前半の住居と推定される。

H-16 (遺構: 第16・18図、図版7／遺物: 第41・42図、第3表、図版21)

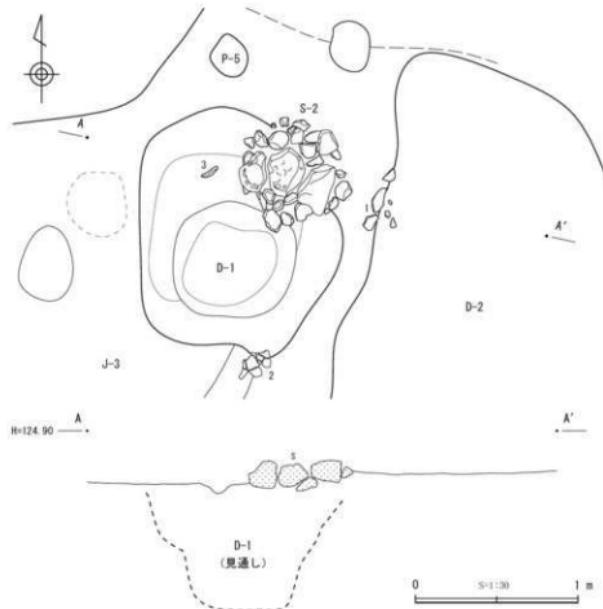
重複: H-6・17に切られている。 **形態・確認規模:** 南側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北(残存)3.5m、東西4.0m、深さ19cm程を測る。 **主軸方向:** N-60°-E。 **カマド:** 東壁南寄りに敷設。掘り方と思われる部分に焼土・粘土が検出された。径34×深さ10cm程を測る。 **床面:** 總社砂層を掘り込み平坦に整えている。 **覆土:** As-C含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。 **掘り方:** 全体的に床面から10cm程下がり、西寄りから南壁にかけて大きく不正形に深く掘り込まれている。 **遺物:** 掘載遺物10点。カマド手前にまとまって出土している。 **所見:** 遺構形態・出土遺物から10世紀前半の住居と推定される。

H-17 (遺構: 第 16・18 図、図版 7)

重複：H-6・17 に切られている。 **形態・確認規模**：南側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北（残存）1.0 m、東西4.7 m、深さ44 cm程を測る。 **主軸方向**：N 60° E。 **床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。 **覆土**：As-C 含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。 **遺物**：掲載遺物なし。覆土中から数点出土している。 **所見**：隣接する元総社小見II 遺跡のH-9 と重複関係にあると考えられる。遺構形態・出土遺物から9世紀代の住居と推定される。



第24回 D-1~3



第25図 S-2

第2節 土坑・集石・ピット・縄文集中（遺構：第11・24・25図、第3表、図版9～11／遺物：第43～46図、第3表、図版21～24）

土坑3基、集石遺構2基、ピット5基が検出されたが、そのほとんどは性格、時期とも不明である。各遺構の概要は第2表にまとめた。縄文土器集中（X-1）はJ-3、D-1、S-2の上位層で縄文土器が発見された状態で、まとまって出土したが、遺構と認識できなかったため写真に記録し、遺物分布図として記録していない。

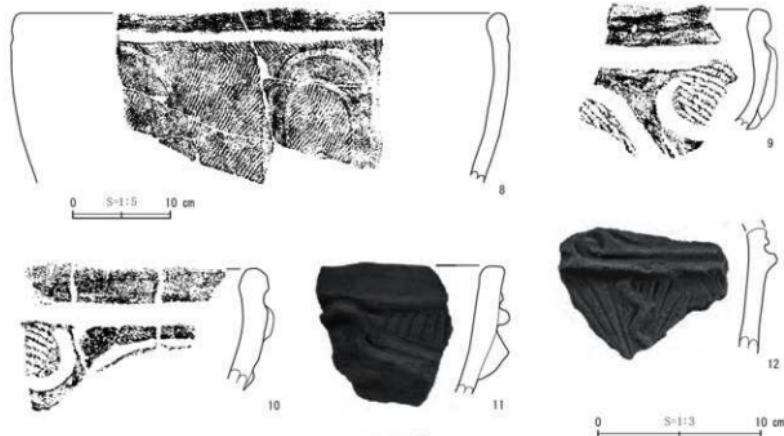
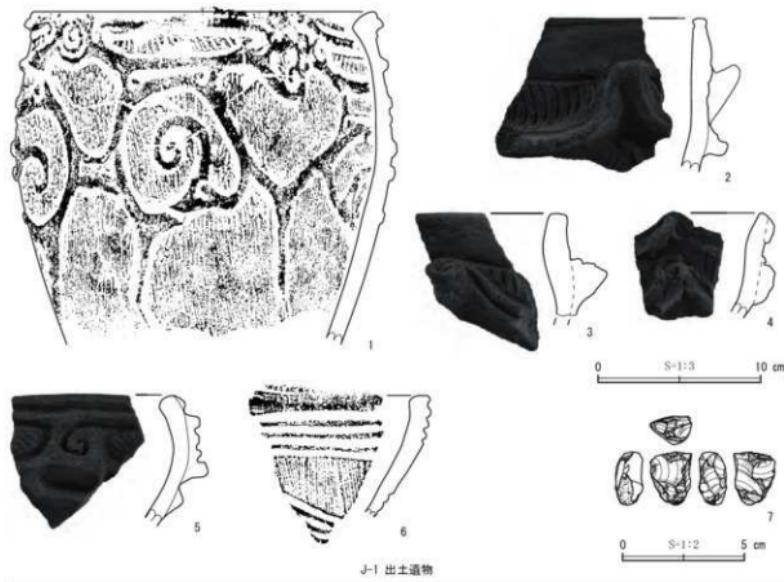
第2表 土坑・集石遺構・ピット一覧

（重複：<－より古、>－より新／計測単位：cm）

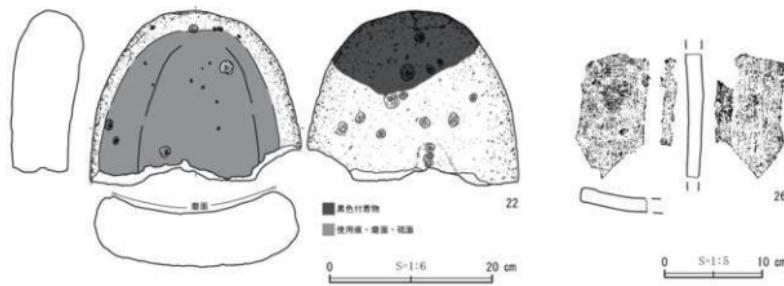
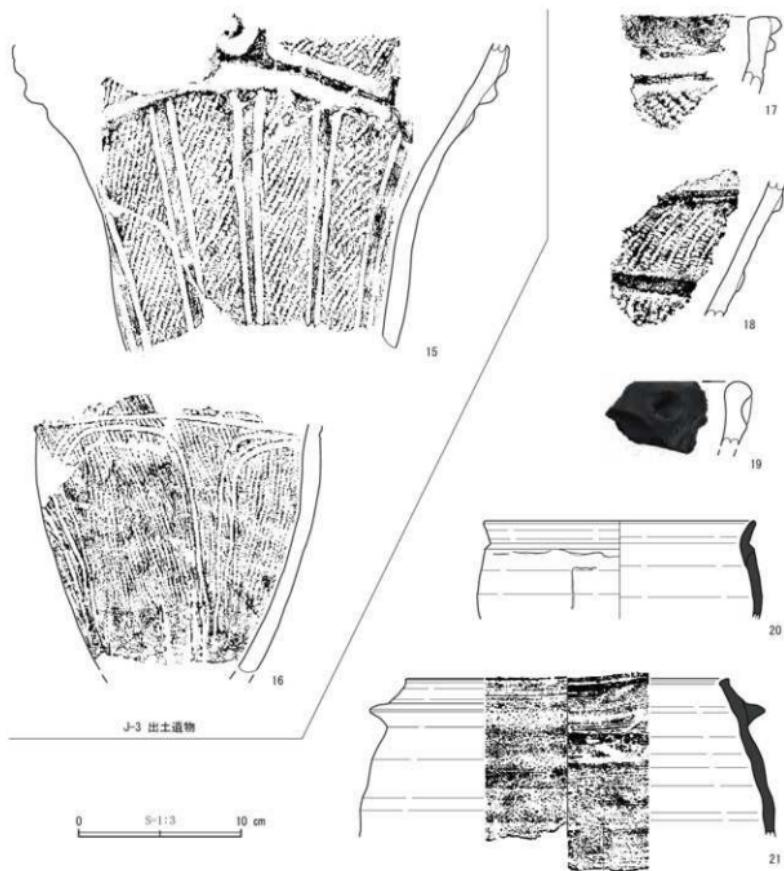
番号	重複	形状		縄文規格			推定期	備考	挿図	図版
		平面	断面	長軸	短軸	深さ				
D-1	< SK-2, > J-3	隅丸方形	逆台形	141	113	72	縄文中期	縄文遺物集中の下で検出 下層中央に焼土あり	24-43	9-21
D-2	< SK-2, > J-3	不正椭円形	逆台形	299	160	90	縄文中期	縄文遺物集中の下で検出	24-43	9-21
D-3	なし	不正円形	扁斗状	145	134	50	縄文中期	深沢大型破片出土	24-43-44	10-22
D-4	< H-1, > J-4	円形	逆台形	71	67	28	古代	土師器破片出土、H-1床下土坑？	5-44	22
S-1	> J-4	—	—	(106)	107	—	不明	集石下に土坑	—	10
S-2	> J-4・D-1-2	方形	—	66	65	19	縄文中期	縄文遺物集中の下で検出 接着した縄が多い	25-44	11-22
P-1	< H-3	円形	U字状	61	59	38	古墳時代以前	H-3内南西	11	10
P-2	< H-3	円形	—	42	39	31	古墳時代以前	H-3内南西	11	10
P-3	< H-3	円形	—	33	31	27	古墳時代以前	H-3内南東	11	10
P-4	< H-3	円形	—	30	30	44	古墳時代以前	H-3内南東	11-45	10-22
P-5	> J-3	円形	—	26	23	40	不明	J-3内	11	10

第3節 遺構外出土遺物（遺物：第47・48図、第3表、図版9）

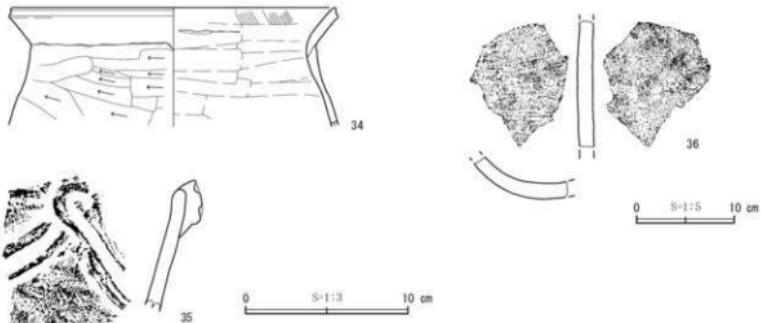
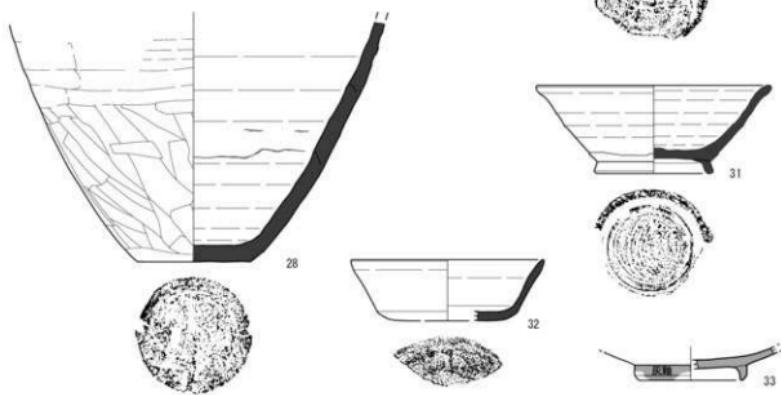
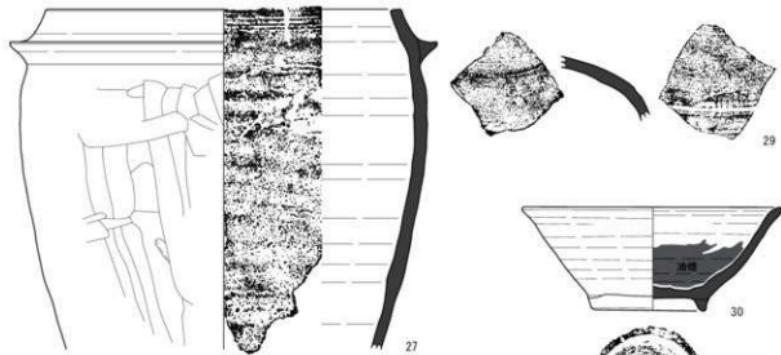
掲載遺物13点。出土地点の特定ができなかったものである。



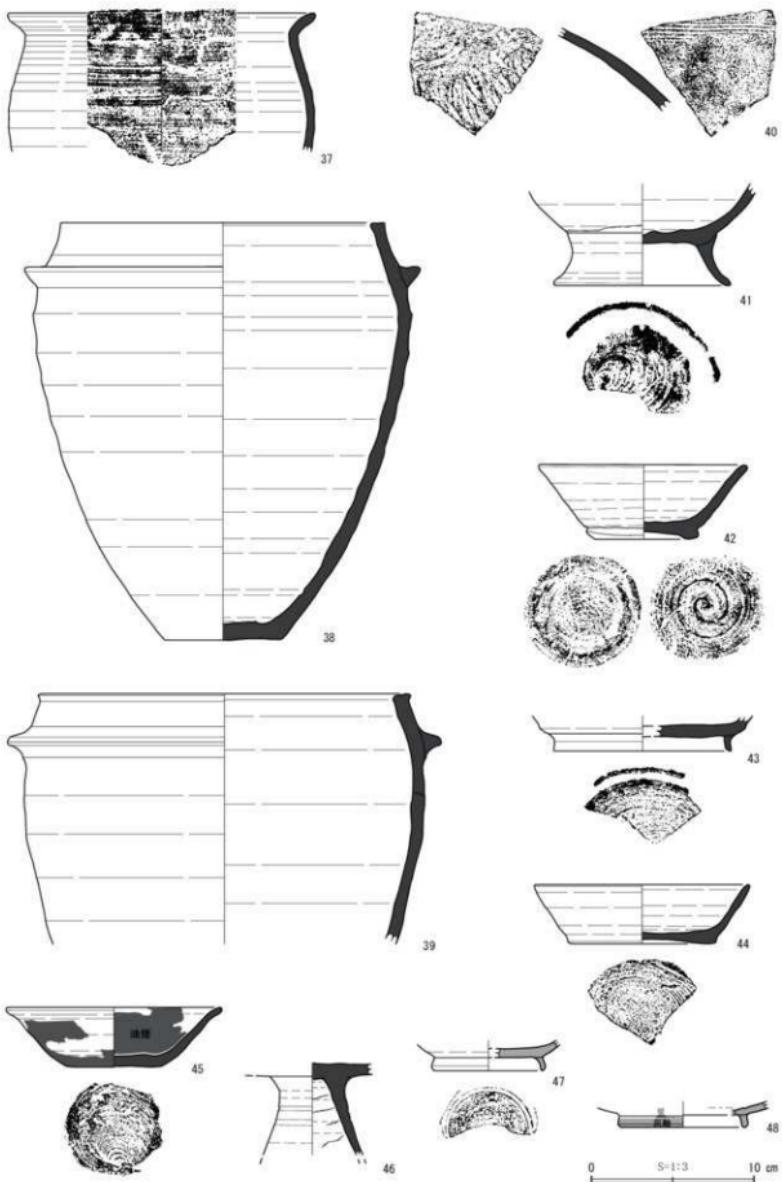
第26図 J-1・2 出土遺物



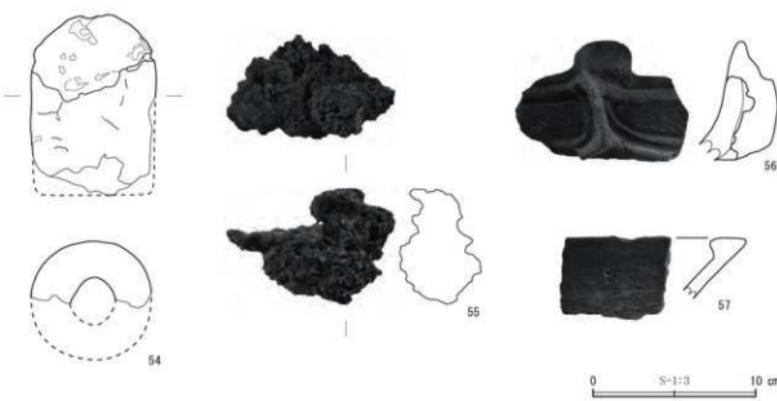
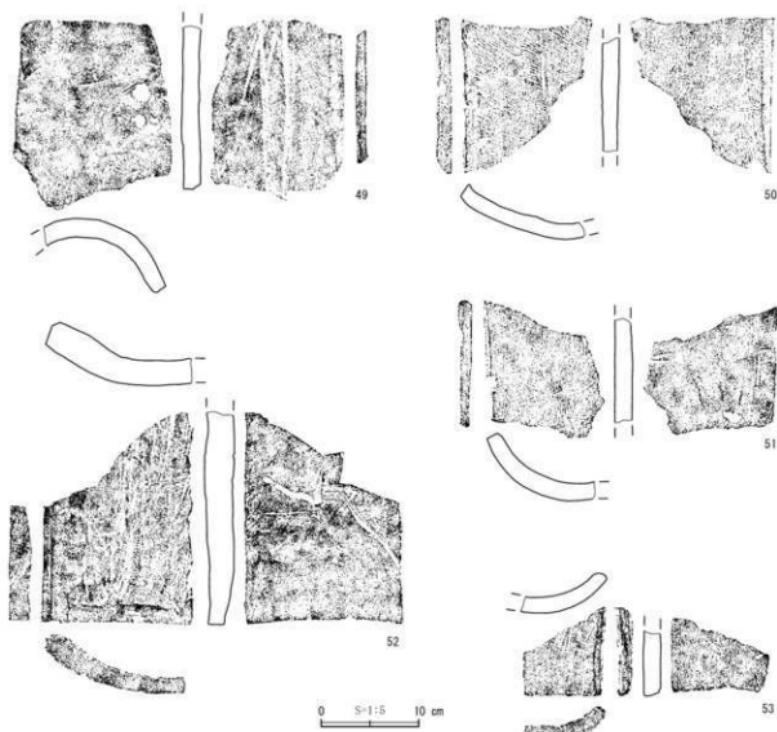
J-4 出土遺物
第 27 図 J-3・4 出土遺物



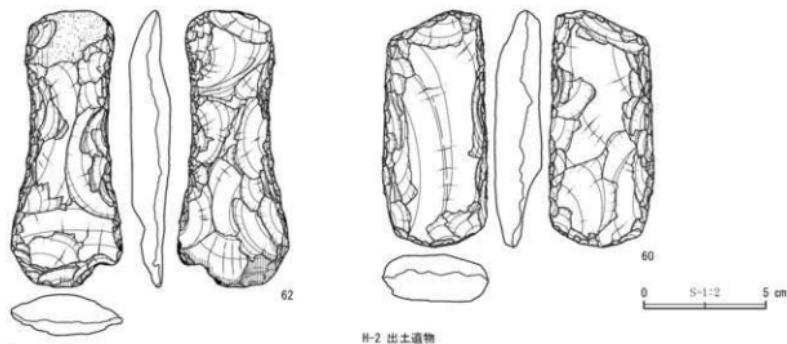
第28図 H-1 出土遺物



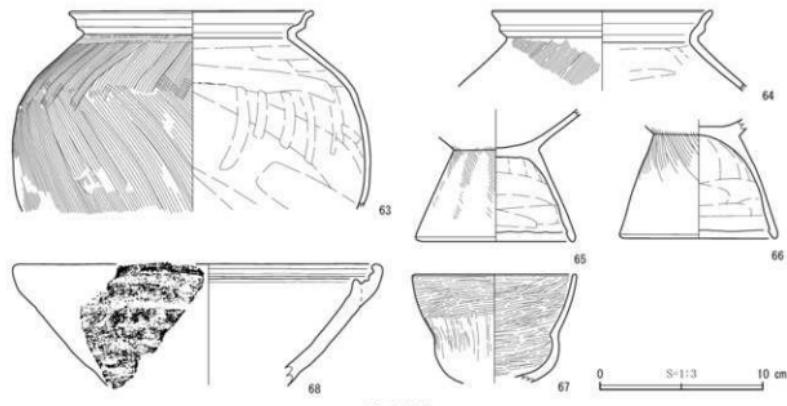
第29図 H-2出土遺物



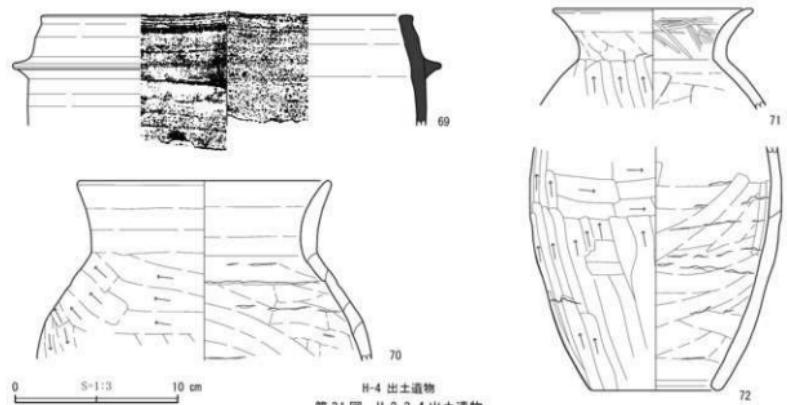
第30図 H-2出土遺物



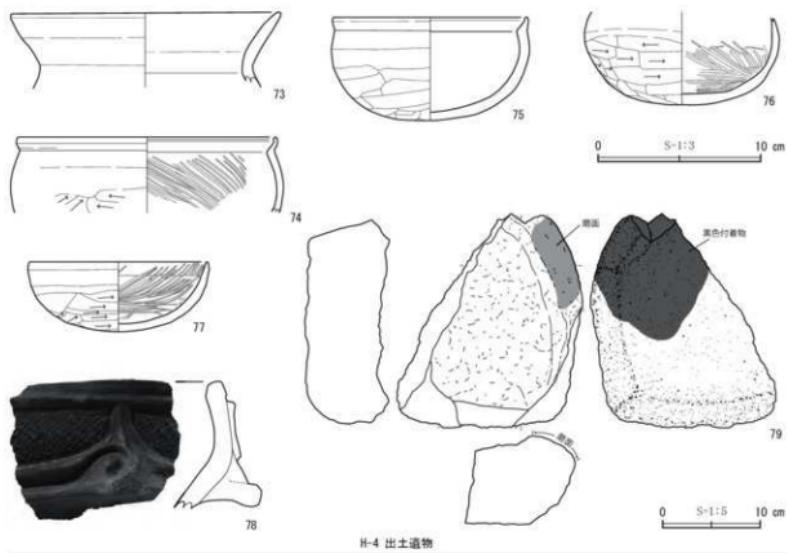
H-2 出土遺物



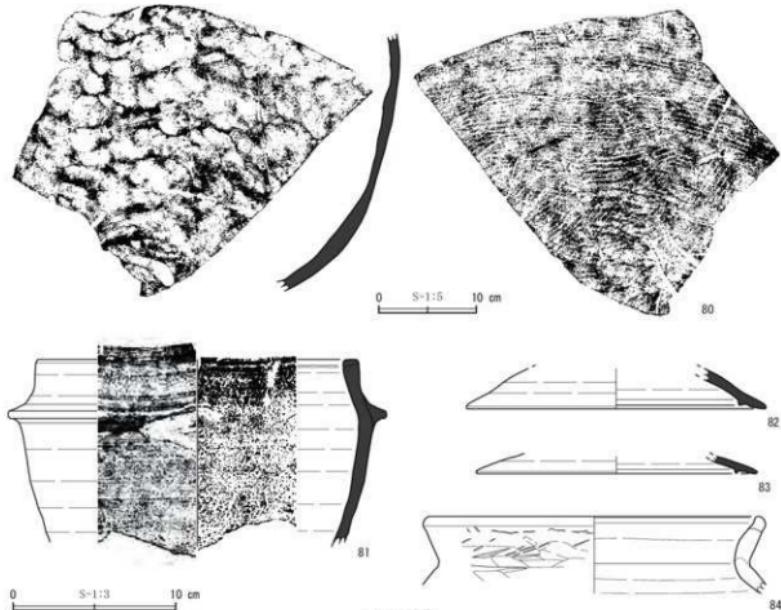
H-3 出土遺物



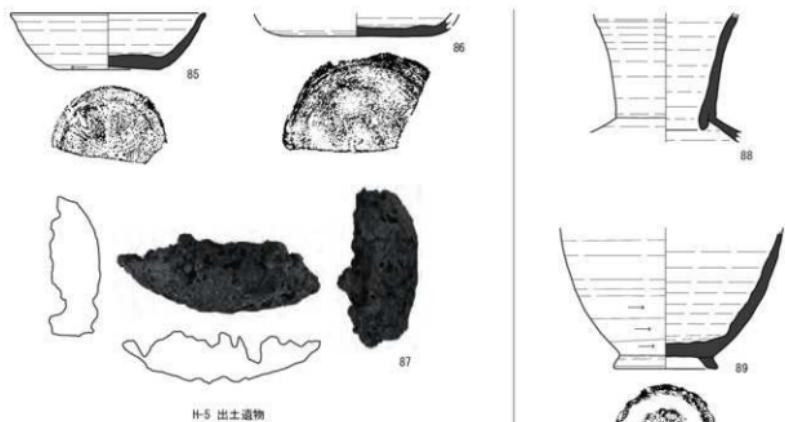
第31図 H-2-3-4 出土遺物



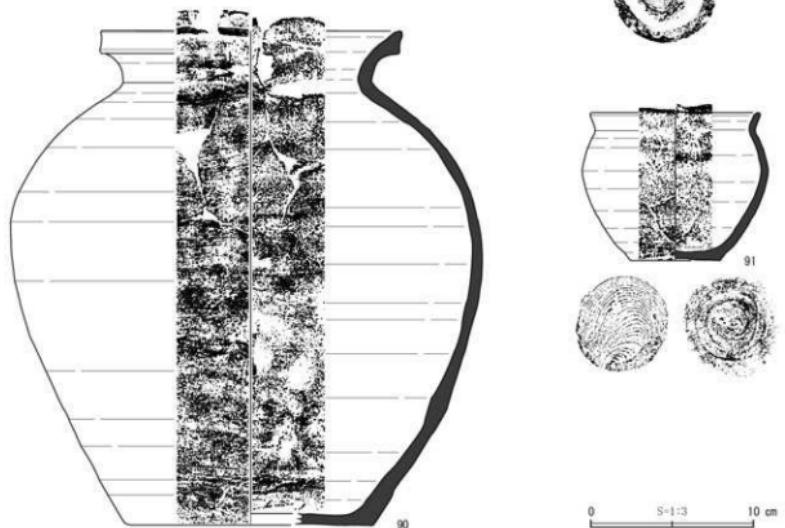
H-4 出土遺物



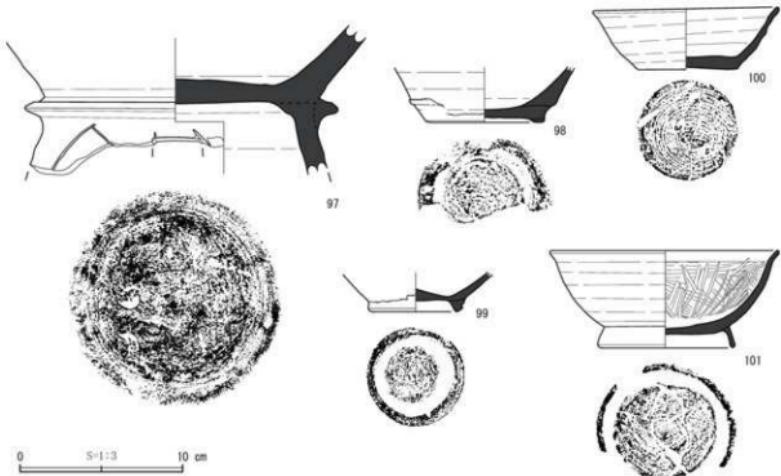
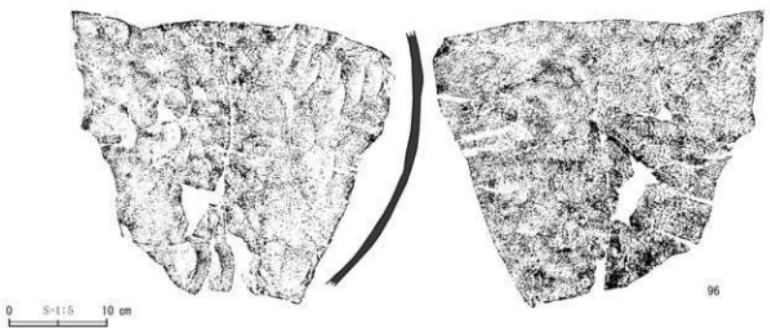
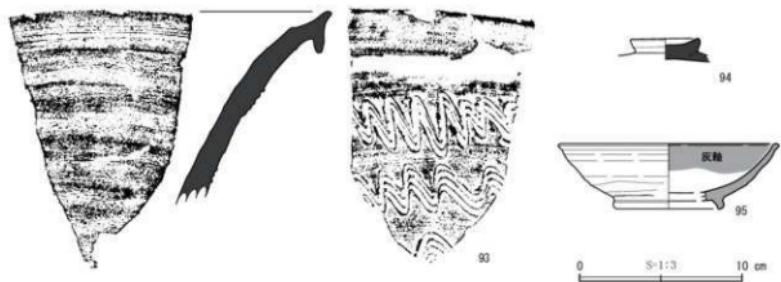
H-5 出土遺物
H-4 出土遺物



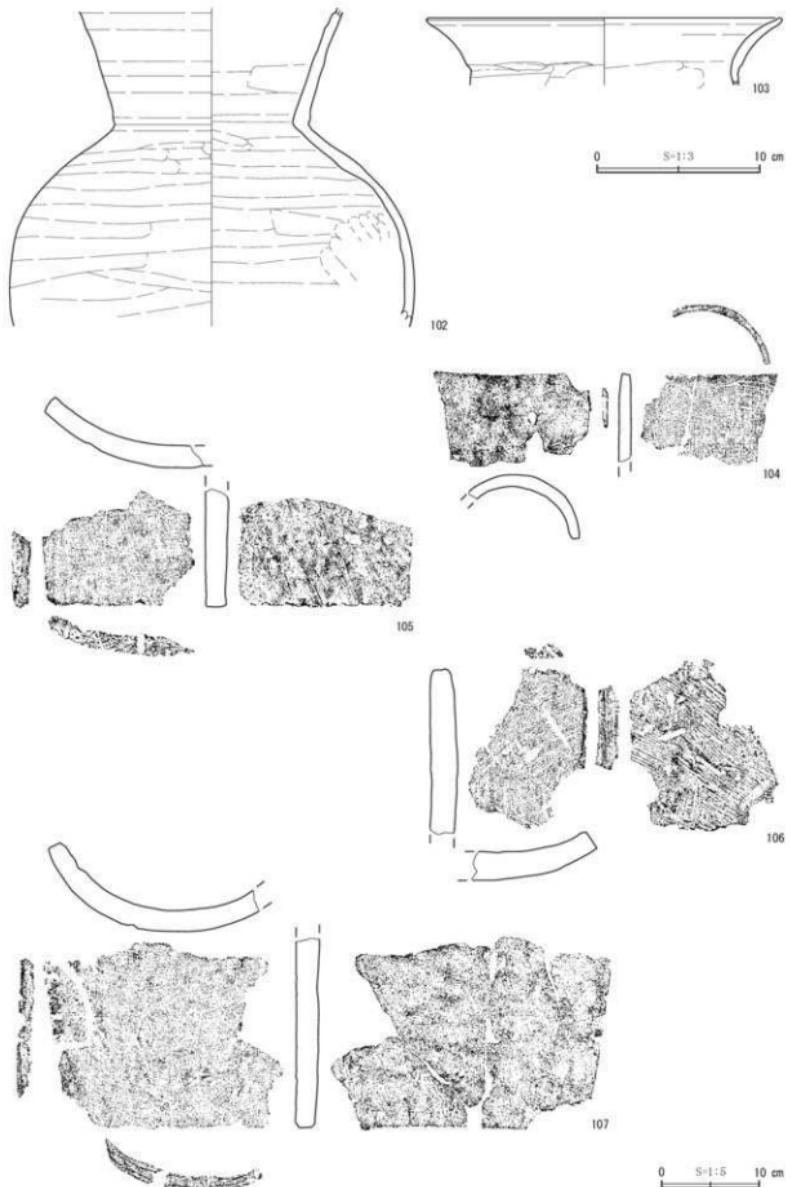
H-5 出土遺物



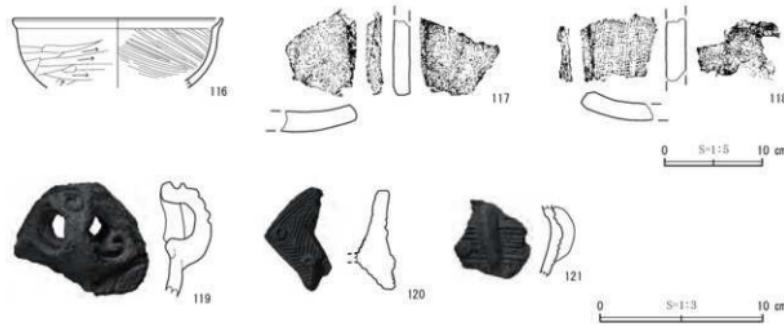
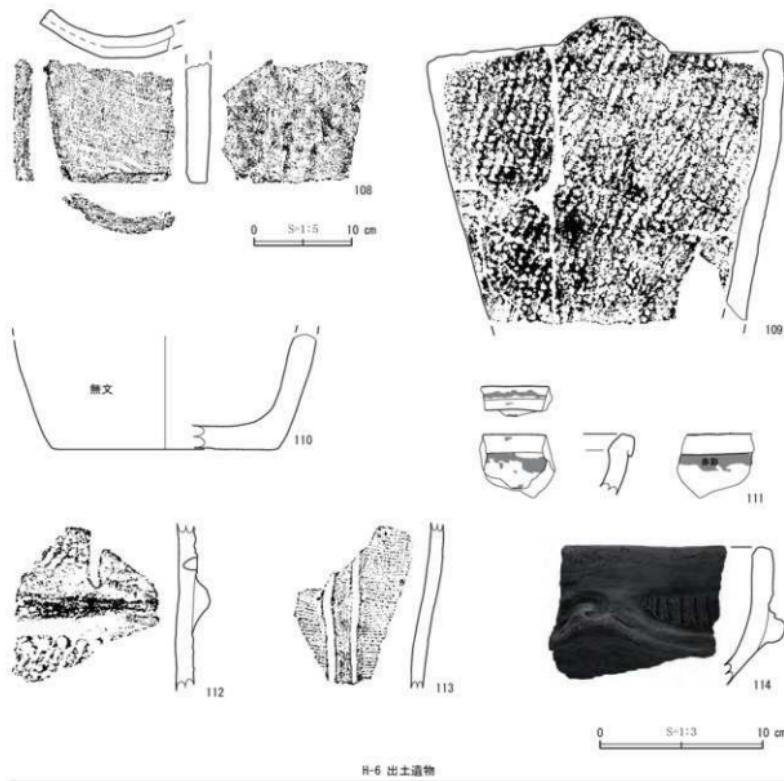
H-5 出土遺物
第33図 H-5-6 出土遺物



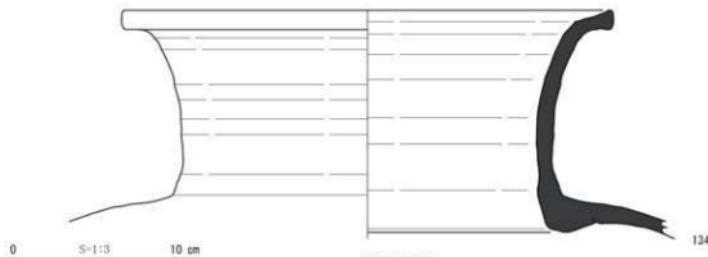
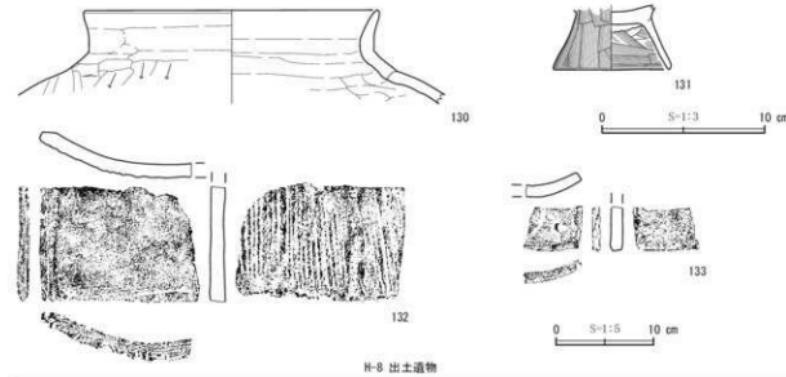
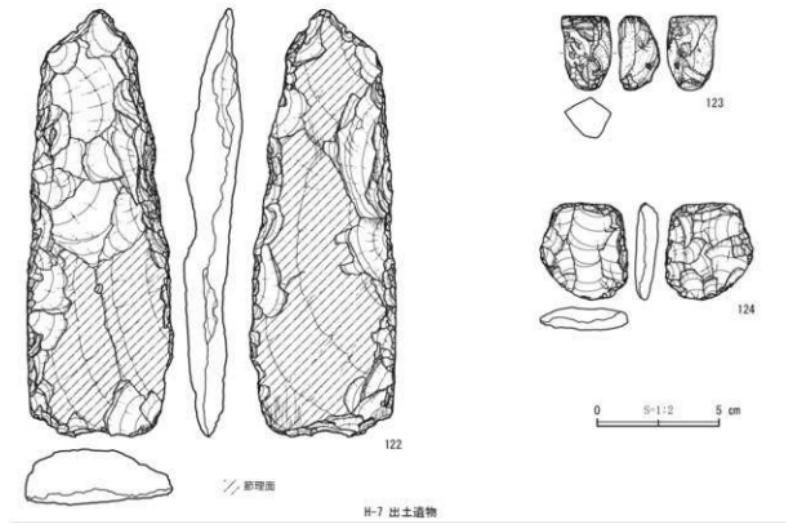
第34図 H-6出土遺物



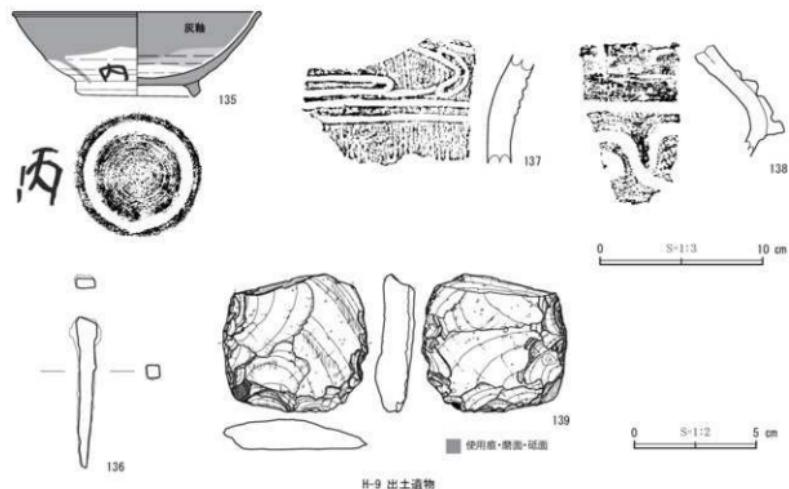
第35図 H-6出土遺物



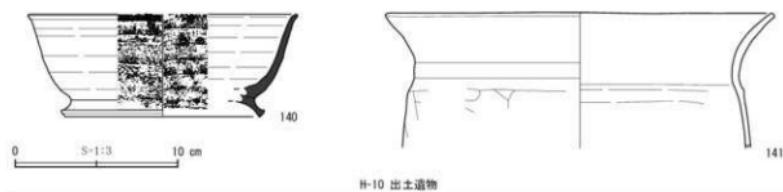
第36図 H-6・7出土遺物



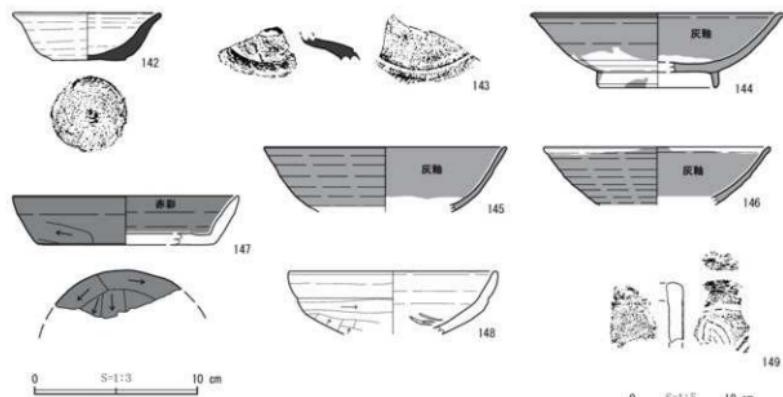
H-7-8-9 出土遺物
第37圖 H-7-8-9 出土遺物



H-9 出土遺物

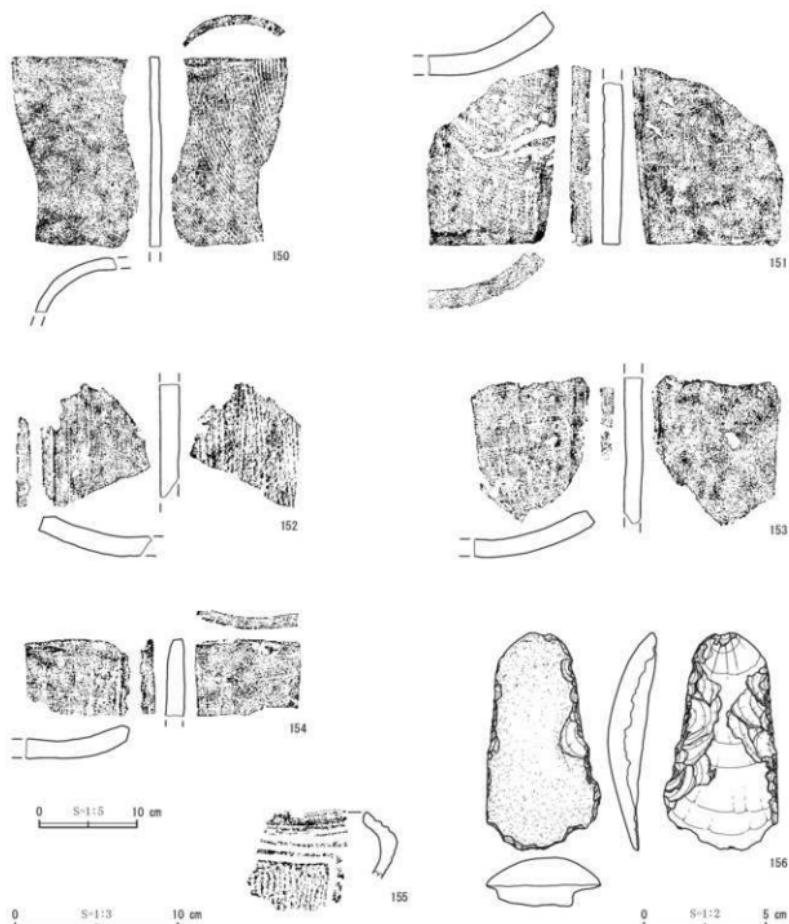


H-10 出土遺物

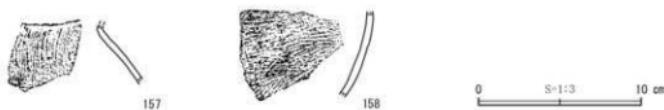


H-11 出土遺物

第38図 H-9-10-11出土遺物

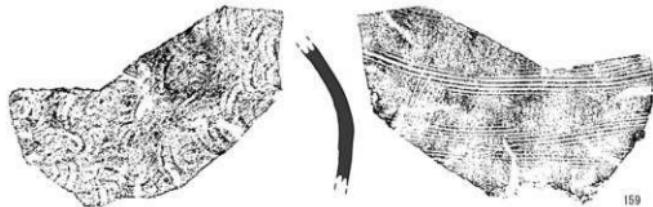


H-11 出土遺物

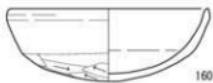


H-12 出土遺物

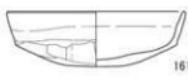
第39図 H-11-12 出土遺物



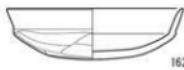
159



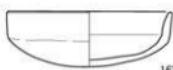
160



161



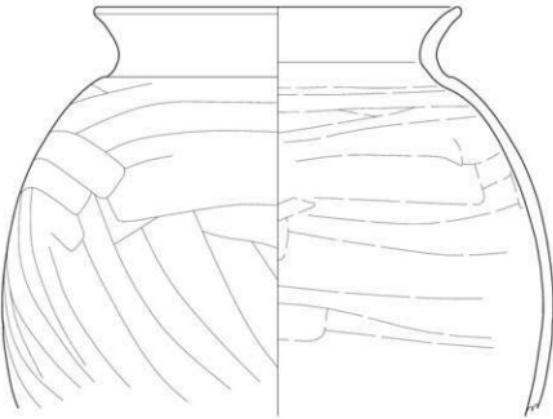
162



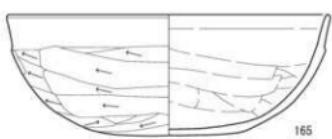
163



164



166



165



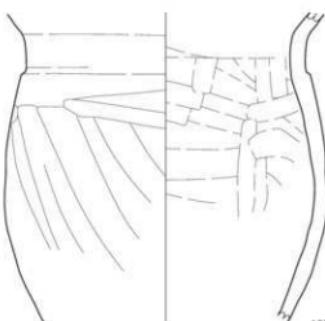
168



169



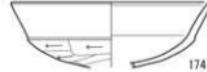
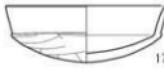
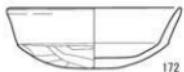
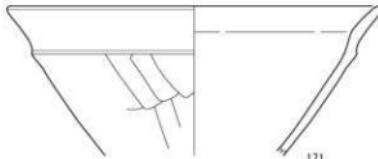
170



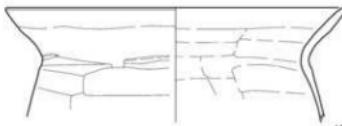
167

0 S-1:3 10 cm

第40図 H-13出土遺物



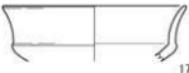
H-14 出土遺物



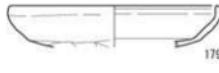
176



177



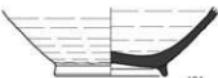
178



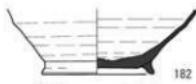
179

175

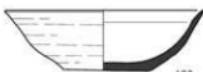
H-15 出土遺物



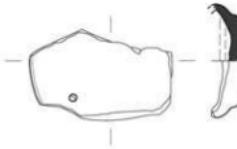
181



182



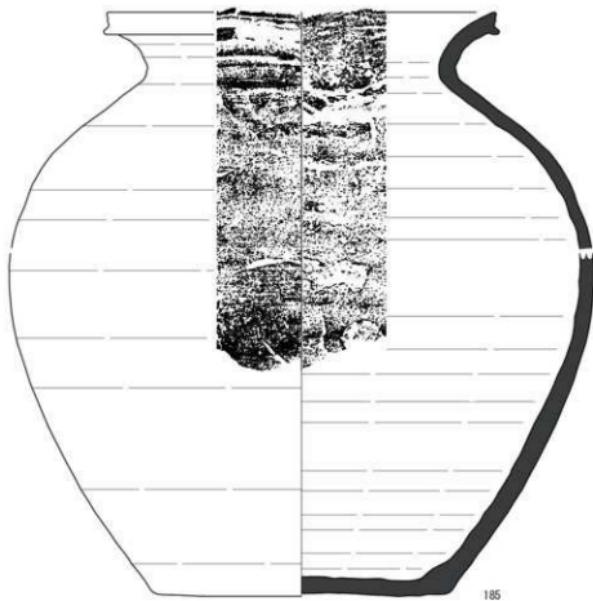
184



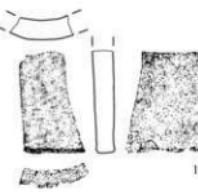
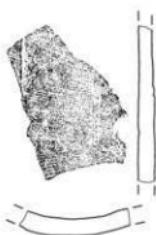
180

H-16 出土遺物





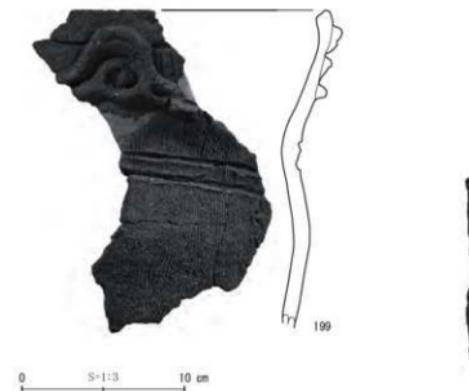
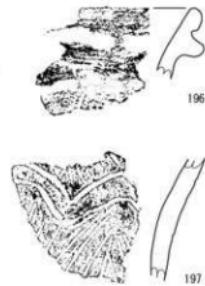
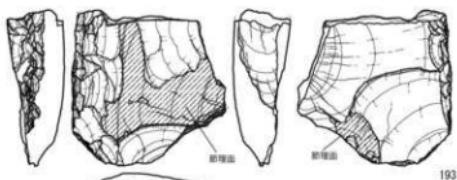
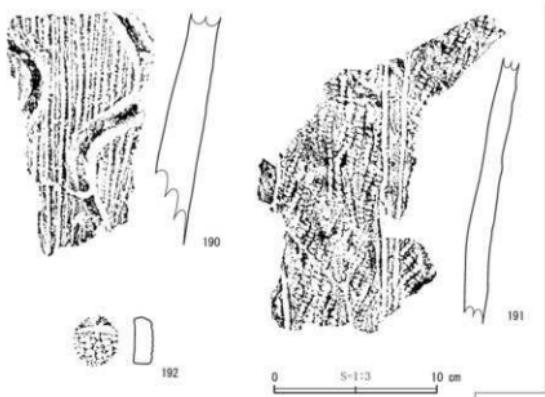
0 S=1:3 10 cm



0 S=1:3 10 cm

H-16 出土遺物

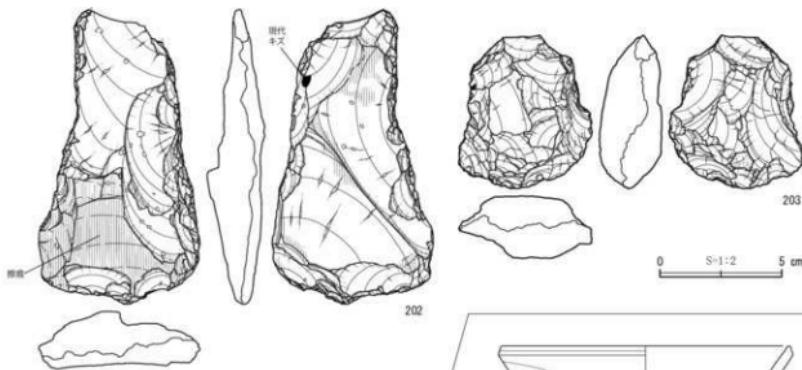
第 42 圖 H-16 出土遺物



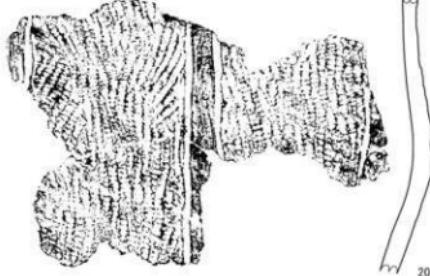
D-1 出土遗物
D-2 出土遗物
D-3 出土遗物



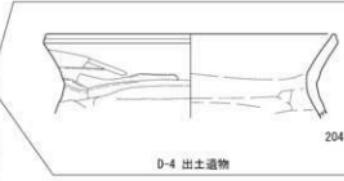
201



203



205



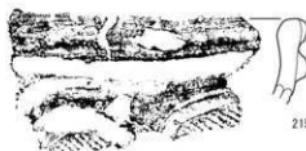
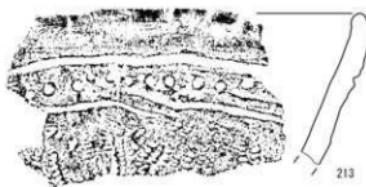
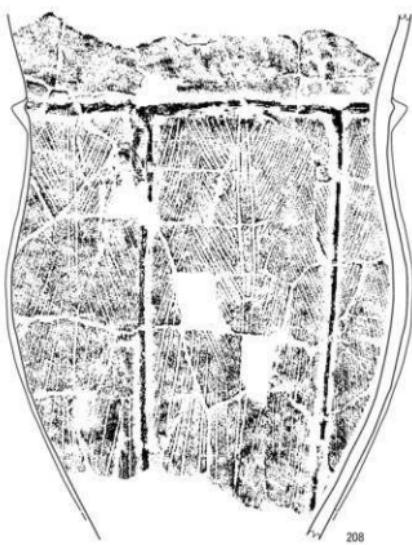
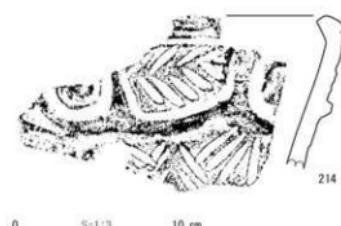
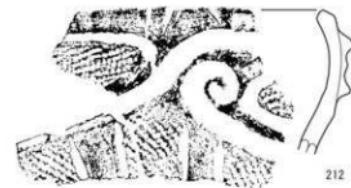
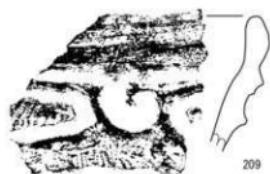
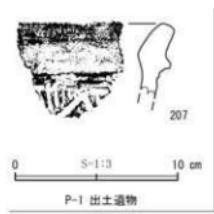
204



206

S-2 出土遺物

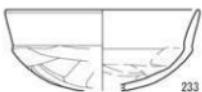
第 44 図 D-3-4、S-2 出土遺物



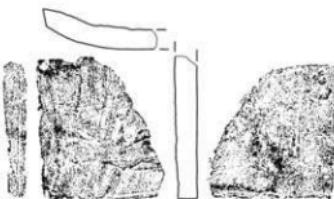
X-1 出土遺物
第 45 図 P-1、X-1 出土遺物



第46図 X-1出土遺物

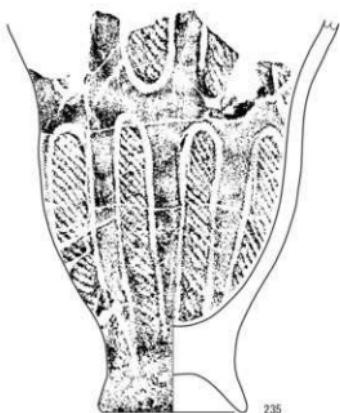


233

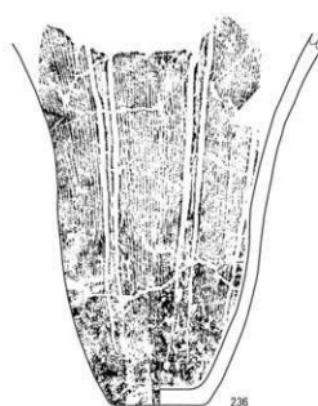


234

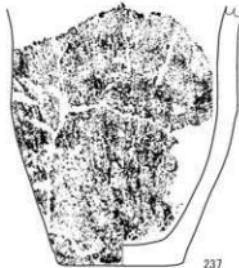
0 S=1:5 10 cm



235



236



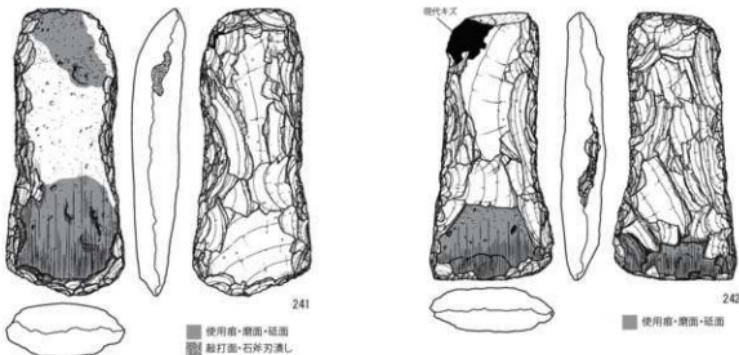
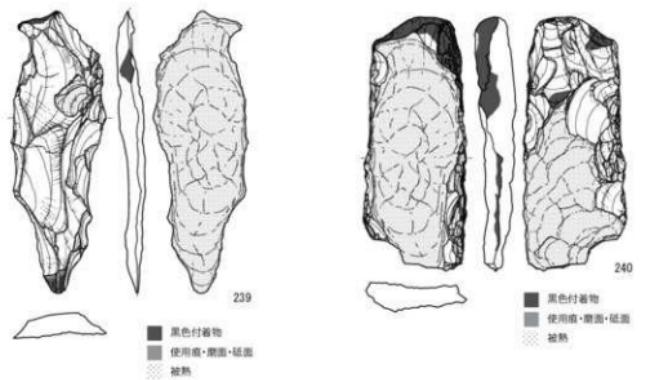
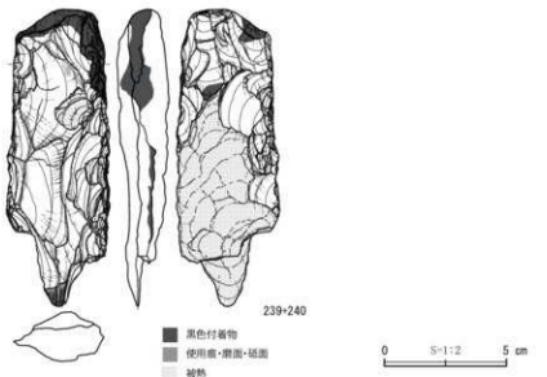
237



238

0 S=1:3 10 cm

第 47 図 造横外出土遺物



第48図 遺構外出土遺物

* 63～66は石製品（写真掲載）

第3表 出土遺物観察表

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
1	縄文土器 深鉢	21.0	—	<20.5)	口～胴部 内 明赤褐	石英・雲母・軽石・ 粗砂／普通	隆帯満巻文・区画文 沈線文	J-1 №.1		
2	縄文土器 深鉢	—	—	<9.4)	口～胴部 外 にぶい赤褐 内 にぶい橙	石英・角閃石・軽石・砂／良好	隆帯文 沈線区画文 区画内沈線	J-1№.12		
3	縄文土器 深鉢	—	—	<6.2)	口縁部 破片	外 にぶい黄褐 内 明褐	角閃石・軽石・砂 良好	隆帯満巻文 沈線区画文 区画内沈線	J-1№.5	
4	縄文土器 深鉢	—	—	<6.4)	口縁部 破片	外 黒褐 内 褐灰	雲母・軽石・砂 良好	隆帯満巻文 沈線文	J-1	
5	縄文土器 深鉢	—	—	<8.1)	口縁部 破片	明赤褐	石英・雲母・砂 良好	隆帯満巻文・区画文 区画内風？	J-1	
6	縄文土器 深鉢	—	—	<7.5)	口縁部 破片	外 にぶい黄褐 内 淡黄	砂 良好	沈線区画文 条線文	J-1	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	石材、備考	注記	
7	石製品	石核	長さ 21.75	幅 16.89	厚さ 11.33	重さ 4.18 g		黒曜石	J-1	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
8	縄文土器 深鉢	(50.0)	—	<17.4)	口～胴部 外 浅黄 内 黃灰	結晶片岩・石英・ 粗砂／普通	沈線文 LR	J-2 №.1		
9	縄文土器 深鉢	—	—	<7.4)	口縁部 破片	明黄褐	雲母・軽石・砂 良好	隆帯区画文 区画内 RL	J-2№.5	
10	縄文土器 深鉢	—	—	<7.5)	口縁部 破片	明黄褐	雲母・砂 良好	隆帯・沈線区画文 区画内 RL	J-2	
11	縄文土器 深鉢	—	—	<7.8)	口縁部 破片	にぶい黄褐	角閃石・軽石・砂 良好	隆帯満巻文・区画文 区画内沈線文	J-2	
12	縄文土器 深鉢	—	—	<7.7)	胴部破片 外 橙 内 黒褐	角閃石・軽石・砂 良好	隆帯満巻文 蛇行線文 沈線文	J-2№.3		
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	石材、備考	注記	
13	石製品	打製石斧	長さ 46.0	幅 38.0	厚さ 13.6	重さ 31.23 g		黑色頁岩	J-2	
14	石製品	多孔石	長さ 175.0	幅 172.0	厚さ 71.0	重さ 2290.0 g		粗粒輝石安山岩	J-2 F	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
15	縄文土器 深鉢	—	—	<18.6)	胴部	外 にぶい鵝 内 にぶい鵝	結晶片岩・石英・ 粗砂／普通	満巻隆蒂文 沈線区画文 沈線文	J-3 №.1	
16	縄文土器 深鉢	—	—	<15.2)	胴部	明赤褐	軽石・粗砂 良好	沈線文 単態 RL?	J-3 №.2	
17	縄文土器 深鉢	—	—	<4.8)	口縁部 破片	外 黒 内 反黄褐	石英・結晶片岩・ 粗砂／良好	隆蒂文 RL	J-4	
18	縄文土器 深鉢	—	—	<8.3)	胴部破片 外 黒褐 内 橙	石英・角閃石・砂 良好	隆蒂文 付加柔	J-4		
19	縄文土器 浅鉢	—	—	<3.9)	口縁部 破片	にぶい鵝	角閃石・軽石・砂 良好	赤彩 浮文？	J-4	
20	土器類 小型甕	(16.8)	—	<6.1)	口～胴部 破片	灰黄	砂 普通	内外面：口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ	J-4	
21	羽釜 須恵質	(20.0)	—	<9.8)	口～胴部 破片	黄灰	雲母・砂 良好	外面：口～鶲部ヨコナデ 体部ヘラナデ 内面：口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ	J-4	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	石材、備考	注記	
22	石製品	石皿	長さ 214.59	幅 259.59	厚さ 92.53	重さ 6000 g		粗粒輝石安山岩	J-4 F	
23	石製品	不定形石器	長さ 47.5	幅 61.0	厚さ 15.5	重さ 41.55 g		黑色頁岩	J-4	
24	石製品	多孔石	長さ 200.0	幅 226.5	厚さ 131.0	重さ 4040 g		粗粒輝石安山岩	J-4 F	
25	石製品	多孔石	長さ 420.0	幅 263.0	厚さ 181.0	重さ 18900 g		粗粒輝石安山岩	J-4 F	
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
26	瓦 平瓦	<12.6)	<7.0)	1.4	破片	表 黄灰 裏 にぶい黄	石英・砂 良好	表面：布目 面取り 裏面：カキ目 ヘラナデ	J-4	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
27	羽釜 須恵質	(22.0)	—	<21.0)	口～胴部 外 灰 内 黃灰	石英・結晶片岩・ 砂／普通	外面：口～鶲部ヨコナデ 体部ヘラケズ リ 内面：口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ	H-1№.14・カ マド		
28	羽釜 土質質	—	7.0	<14.6)	胴～底部 外 明赤褐 内 にぶい鵝	石英・結晶片岩・ 角閃石・砂／良好	外面：体部上段ヘラナデ 体部下段ヘラ ケズリ 底部ヘラナデ 内面：ヘラナデ	H-1№.10・ 12・13・15		
29	須恵器 壺	—	—	<4.1)	肩部破片 外 灰黄 内 黄灰	長石・砂 良好	外面：肩部にい沈線 ヘラナデ 内面：ヘラナデ	H-1 近		
30	須恵器 壺	16.0	7.1	6.3	4/5	外 灰アリーブ 内 オリーブ黒	長石・雲母・砂 普通	外面：回転切り 付高台 右回転 内面：溝 or 油煙？	H-1№.9	

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記
								内	外	
31	須恵器 壇	(14.6)	(7.4)	5.4 1/3	口～底部 にぶい黄褐色	石英・雲母・軽石 砂・良好・酸化	高台取付部ヨコナデ 条切り（静止）付 高台			H-I No. 1
32	須恵器 杯	(12.0)	(7.2)	3.7	口～底部 外 黄灰 内 灰	長石・砂 良好		外面：口～体部へラナデ 底部へラケズ リ後ナデ 内面：ヘラナデ		H-1 近
33	灰釉陶器 皿	—	(6.4)	<2.0>	体～底部 輪：灰オリーブ 破片	雲母・細砂 良好		外面：ヘラナデ 付高台 内面：ヘラナデ		H-II No. 7
34	土師器 甕	(20.0)	—	<7.3>	口～胴部 外 黒褐 内 にぶい赤褐	長石・角閃石・砂 良好		外面：口縁ナデ 体部へラケズリ 内面：ヘラナデ		H-II No. 11
35	繩文土器 深鉢	—	—	<8.2>	口縁部 破片	石英・砂 普通		縦帶文 条痕文		H-1 近
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴	注記	
36	瓦 平瓦	<12.9> <9.6>	—	1.6	破片	表 離灰 裏 黄褐色	石英・雲母・砂 良好	表面：布目 裏面：ヘラナデ		H-1 近
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴	注記	
37	須恵器 壇	(19.0)	—	<8.6>	口～胴部 破片	にぶい黄褐色	雲母・細砂 良好	内外面：ヨコナデ		H-II No. 6
38	羽釜 須恵質	(20.0)	7.2	25.6	口～底部 1/2	にぶい黄褐色	石英・砂 良好・中性	外面：ヨコナデ（ヘラ瓶顯著） 底部へラナデ 内面：ヨコナデ		H-II No. 11・S-1
39	羽釜 土師質	(23.0)	—	<15.4>	口～胴部 外 明褐 内 灰褐色	石英・雲母・砂 普通		内外面：ヨコナデ		H-No. 16-13-H-18・ カマド
40	須恵器 甕	—	—	<5.1>	肩部破片	灰黄	長石・砂 良好	外面：横位大擦 内面：ヘラ括り取り（極目）		H-2 近
41	須恵器 足高高台壇	—	(10.9)	<6.3>	体～底部 内 灰黄	石英・雲母・結晶片岩・砂・良好	外面：体部・高台ヨコナデ 底部へラナデ（極目） 内面：ヨコナデ 油樋？ 右回転			H-II No. 4・15
42	須恵器 壇	(12.9)	6.9	4.6	口～底部 1/3	にぶい黄 内 灰灰黄	石英・結晶片岩・砂・良好・酸化	外面：底部へラナデ 付高台 右回転		H-2 近
43	須恵器 壇	—	(11.0)	<2.2>	底部破片	黄灰	長石・砂 普通	回転系切り 付高台		H-2 近
44	須恵器 杯	(13.4)	(9.0)	3.6	口～底部 外 白 内 灰	雲母・細砂 良好		底部回転系切り後外周へラナデ（極目）		H-2 近
45	須恵器 杯	(13.3)	5.8	3.7	口～底部 1/3	黄褐色	雲母・細砂 普通	内外面：漆or油煙 回転系切り（二重）		H-2 近
46	須恵器 高杯	—	—	<5.6>	脚部	灰	黒色粒・砂 良好	外面：ヘラナデ 太い条痕（半周） 内面：ナデ 右回転		H-2 近
47	須恵器 皿	—	(6.8)	<1.9>	底部破片	地 黄灰 輪 灰オリーブ	細砂 良好	外面：一部自然輪 回転系切り 付高台 内面：自然輪		H-2 近
48	灰釉陶器 皿	—	(8.0)	<1.6>	底部破片	灰白	微砂 良好	三日月高台 付高台		H-2 近
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴	注記	
49	瓦 丸瓦	<16.8> <12.5>	1.9	破片	にぶい黄褐色	石英・角閃石・粗砂・良好・酸化		表面：ヘラナデ 裏面：布目 側面：面取り		H-II No. 1
50	瓦 平瓦	<11.6> <12.7>	1.7	破片	表 灰黄 裏 にぶい褐	石英・雲母・粗砂 良好・酸化		表面：布目 裏面：綱目 側面：面取り		H-2 近
51	瓦 平瓦	<10.5> <11.0>	1.8	破片	灰黄褐色	石英・角閃石・粗砂・良好・酸化		表面：布目 裏面：ヘラナデ 側面：面取り		H-II No. 15
52	瓦 平瓦	<21.8> <14.7>	2.6	破片	青灰	粗砂 良好・還元		表面：布目 裏面：ヘラナデ 側面：面取り		H-II No. 12
53	瓦 平瓦	<6.7> <8.9>	1.8	破片	にぶい黄褐色	石英・角閃石・粗砂・良好・酸化		表面：布目 裏面：ヘラナデ 側面：面取り		H-II No. 3
No.	種別	長さ	幅	孔径	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴	注記	
54	土製品 羽口	<11.1> <7.4>	(2.8)	破片	にぶい黄褐色	石英・砂 普通		溶解物付着		H-2 近
No.	種別	器種	計測値					石材、備考	注記	
55	鐵滓	—	全長 7.1	幅 5.0	厚さ 7.0	重さ 268g				H-2 近
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴	注記	
56	繩文土器 深鉢	—	—	(7.3)	口縁部 破片	にぶい黄褐色	角閃石・砂 普通	満巣突起 隆起・沈線区画文 区画内格 条件？		H-2 近
57	繩文土器 浅鉢？	—	—	<3.7>	口縁部 破片	外 にぶい黄 内 黑	長石・雲母・砂 良好	内外面：赤彩 無文		H-2

No.	種別	器種	計測値				石材、備考	注記	
			口径	底径	器高	残存			
58	石製品	打製石斧	長さ 40.0	幅 33.0	厚さ 17.5	重さ 16.37 g	黒色頁岩	H-2 近	
59	石製品	打製石斧	長さ 57.0	幅 39.0	厚さ 16.0	重さ 56.34 g	黒色頁岩	H-2 近	
60	石製品	打製石斧	長さ 96.97	幅 43.02	厚さ 19.32	重さ 109.0 g	黒色頁岩	H-2 近	
61	石製品	打製石斧	長さ 73.0	幅 36.0	厚さ 18.0	重さ 68.41 g	黒色頁岩	H-2 近	
62	石製品	打製石斧	長さ 113.32	幅 45.59	厚さ 16.73	重さ 79.83 g	黒色頁岩	H-2 近	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／模成	内・外の特徴	
63	土師器 S字縫	15.0	—	(12.3)	口～胴部 外 横 内 にぶい、黄根	石英・雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ 体部ハケ目 内面：口縁ヨコナデ 体部ハラナデ	H-No. 1・2・ H-3	
64	土師器 S字縫	(13.6)	—	<5.0>	口～胴部 にぶい、黄根	雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ 体部ハケ目 内面：口縁ヨコナデ 体部ハラナデ	H-No. 3・H-3	
65	土師器 S字縫	—	9.8	(8.2)	胴～台部 にぶい、黄根	石英・角閃石・砂 良好	外面：ヘラナデ 部分的にハケ目が残る 内面：ヘラナデ	H-3	
66	土師器 S字縫	—	(9.4)	<7.4>	台部 にぶい、黄根	雲母・砂 良好	外面：体部上位ハケ目 体部下位ナデ 内面：指ナデ	H-No. 7	
67	土師器 壇	16.1	—	<6.7>	2/3 にぶい、縦	雲母・砂 良好	内外面：ミガキ	H-3	
68	攜文土器 鉢	(22.8)	—	<7.5>	口～胴部 外 にぶい、縦 内 にぶい、赤褐色	角閃石・輕石・砂 良好	外面：無文 一部赤色が残る 内面：口縁横位沈線	H-3 脳	
69	羽釜 須恵質	(23.0)	—	<6.8>	口～胴部 外 黒褐色 内 砂眼黃	雲母・砂 良好	内外面：ヨコナデ いぶし 断面酸化	H-4	
70	土師器 壇	15.7	—	<11.1>	口～胴部 縦	輕石・砂 良好	内外面：口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 内面接合痕覗若	H-No. 11	
71	土師器 小型壇	(12.0)	—	<6.3>	口～胴部 外 にぶい、縦 内 赤褐色	角閃石・輕石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 胸部ヘラナデ 体部 ヘラケズリ 内面：口縁上位ヨコナデ 口 縫下位ヘラナデ後ミガキ 体部ヘラナデ	H-4 脳	
72	土師器 壺	—	(8.0)	<15.0>	胴～底部 外 明黄褐色 内 縦	雲母・輕石・砂 良好	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	H-No. 1	
73	土師器 壺	16.7	—	<4.6>	口～頸部 にぶい、黄褐色	角閃石・輕石・砂 普通	内外面：ヨコナデ	H-4・H-4 脳	
74	土師器 壺	(16.0)	—	<4.6>	口～体部 外 にぶい、赤褐色 内 黑褐色	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 体部上位ヘラナデ 体部下位ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ 体部ミガキ	H-4 脳	
75	土師器 壺	12.1	丸底	6.4	4/5 にぶい、赤褐色	石英・角閃石・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ 体～底部ヘラナデ	H-No. 10・脳	
76	土師器 壺？	—	丸底	<5.7>	胴～底部 外 縦 内 縦	石英・雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ 体～底部ヘラナデ	H-No. 2	
77	土師器 壺	(11.0)	丸底	4.3	口～底部 1/4 にぶい、赤褐色	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内面：ミガキ	H-No. 8	
78	攜文土器 深杯	—	—	<7.7>	口縁部 破片	外 黑褐色 内 暗褐色	雲母・角閃石・輕石・砂 良好	陰蒂満文・区画文 区画内丸	H-4
No.	種別	器種	計測値				石材、備考	注記	
79	石製品	石皿	長さ 214.59	幅 259.59	厚さ 90.70	重さ 3360 g	粗粒輝石安山岩	H-4	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／模成	内・外の特徴	
80	須恵器 火炎	—	—	<26.4>	胴部破片	灰白	長石・砂 良好	外面：平行叩き後ヘラナデ 内面：叩き袖ヘラナデ	H-No. 2
81	羽釜 土師質	(19.6)	—	<11.1>	口～胴部 破片	にぶい、黄	有英・雲母・砂 良好、弱酸化	内外面：ヨコナデ	H-5
82	須恵器 蓋	(18.4)	—	<2.3>	口縁部 破片	灰	長石・砂 良好	内外面：ヨコナデ	H-5
83	須恵器 蓋	(17.2)	—	<1.1>	口縁部 破片	灰	長石・砂 良好		H-5 カマド
84	土師器 壺	(21.0)	—	<4.8>	口～頸部 にぶい、縦	結晶片岩・雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 胸部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 滲 結剥離	H-No. 7	
85	須恵器 壺	(12.0)	(6.2)	3.5	口～底部 1/2 灰	長石・砂 良好	回転条切り後転ヘラケズリ 右回転	H-No. 6	
86	須恵器 壺	—	(9.3)	<1.3>	底部破片	灰白	砂 良好	外面：底部回転ヘラケズリ 左回転	H-5
No.	種別	器種	計測値				石材、備考	注記	
87	铁滓	碗形	全長 12.2	幅 8.6	厚さ 3.0	重さ 55g		H-5	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／模成	内・外の特徴	
88	須恵器 長頸壺	—	—	(8.0)	頸部	淡黄	石英・雲母・砂 普通	内外面：ヨコナデ	H-No. 4

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
89	須恵器 壺	—	—	φ8.7	胴～底部	黄灰	砂 良好	外面：口～胴部ヨコナデ 体部下端～底部ヘラケズリ 内面：ローハラナデ 付高台 内面：塗？付着 右回転	H-6	
90	須恵器 壺	(18.5)	15.2	30.4	口～底部	灰	石英・結晶片岩・粗砂／良好	外面：ロ～胴部ヨコナデ 体部下端～底部ヘラケズリ 内面：ローハラナデ 付高台 内面：塗？付着 右回転	H-6・H- No.8・9・ 12・H-16	
91	須恵器 小型壺	(10.4)	5.6	φ9.1	口～底部 1/2	外にぶい鶴 内 横	石英・砂 良好／土師質	内外面：ヨコナデ 回転糸切り 右回転	H-6・H-16	
92	須恵器 大壺	—	—	φ14.1	頭～胴部 外 黄灰 内 戻オリーブ	砂 良好	外面：頭部下位波状文 凍結剥離 内面：ヨコナデ	H-6		
93	須恵器 壺	—	—	φ14.5	ロ～胴部 外 灰 内 戻	石英・細砂 良好	外面：くし撒き波状文 内面：指ナデ	H-6		
94	須恵器 壺	—	—	φ13.3	ツマミ部 灰	細砂 良好	ボタン状	H-6 カマド掘		
95	灰釉陶器 壺	(14.0)	(7.0)	4.0	ロ～底部	地 灰白 袖 浅黄	精製 良好	外面：ロ～体部没け掛け 体下位～底部ヘラケズリ 付高台 内面：上半没け掛け	H-6	
96	須恵器 大壺	—	—	φ26.0	胴部破片	灰黄	長石・輕石・砂 普通	外面：ヘラナデ 凍結剥離 内面：叩き てあ具底	H-6	
97	須恵器 有跨合付 鉢	—	—	φ9.2	底～右部 外 浅黄 内 黄灰	石英・粗砂 良好	外面：ヘラナデ 底部・台部の接合部に跨貼付け 台部に3単位脚部方形透し・銛衝状剥離 内面：ヘラナデ	H-6 No.5		
98	須恵器 壺	—	7.3	φ3.4	体～底部	外 明赤褐 内 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・砂 良好	外面：ロ～体部ヨコナデ 底部ヘラナデ 付高台 内面：ヘラナデ	H-6	
99	須恵器 壺	—	5.8	φ2.4	体～底部	戻オリーブ	雲母・細砂 良好	外面：ヘラナデ 付高台 右回転	H-6	
100	須恵器 壺	11.5	6.2	3.7	ほぼ完形 外 黒 内 淡黄	石英・砂 良好・中性	回転糸切り いぶし 土師質 右回転	H-6No.2		
101	土師器 壺	14.1	8.4	6.0	ほぼ完形 外 にぶい黄橙 内 黒	石英・雲母・砂 普通	外面：ロ～体部ヨコナデ 底部ヘラケズリ 付高台 内面：ヘラナデ後ミガキ 内黒	H-6No.6		
102	土師器 壺	—	—	φ17.9	ロ口～胴部 外 浅黄 内 灰	石英・砂 普通	外面：ロ～頭部ヨコナデ 肩～体部ヘラナデ 内面：ヘラナデ	H-6No.1・3・4		
103	土師器 壺	(21.8)	—	φ4.1	ロ～頭部 破片	明赤褐	雲母・砂 良好	外面：ロ縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面：ロ縁ヨコナデ 体部ヘラナデ	H-6	
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
104	瓦 丸瓦	φ9.0	φ11.4	1.4	破片	にぶい黄橙	雲母・砂 良好	表面：ヘラナデ 裏面：布目	H-6	
105	瓦 平瓦	φ12.1	φ16.2	2.3	破片	橙	石英・雲母・粗砂 普通	表面：布目 裏面：ヘラナデ	H-6No.12	
106	瓦 平瓦	φ17.8	φ12.8	3.0	破片	明赤褐	石英・結晶片岩・小礫・粗砂／良好	表面：布目 裏面：軽目叩き	H-6No.9	
107	瓦 平瓦	φ19.5	φ21.7	2.1	破片	褐灰	石英・小繩・粗砂 良好	表面：布目 面取り 裏面：ヘラナデ	H-6	
108	瓦 平瓦	φ12.2	φ13.5	2.1	破片	橙	石英・粗砂 良好	表面：布目 裏面：ヘラナデ	H-6	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
109	圓文土器 深鉢	21.9	—	φ18.6	ロ～胴部 外 横 内 にぶい黄橙	石英・輕石・粗砂 普通	山状突起 8段多条orLIL? マヌブ		H-6No.13	
110	圓文土器 浅鉢	(18.6)	(14.0)	7.0	ロ～底部 外 明赤褐 内 明赤褐	石英・角閃石・粗砂／普通	無文 模擬口縁		H-6	
111	圓文土器 浅鉢	—	—	φ3.7	ロ縁破片 外 黑褐 内 反黄褐	角閃石・砂 良好	内外面：赤彩殘寸		H-6 模	
112	圓文土器 深鉢	—	—	φ10.3	胴部破片 外 にぶい黄橙 内 にぶい黄橙	角閃石・砂 良好	陸帶文 沈縁文 連続刺突 単筋LIL?		H-6	
113	圓文土器 深鉢	—	—	φ10.2	胴部破片 外 明黄褐 内 にぶい黄橙	石英・雲母・砂 良好	継版沈縁 多条沈縁		H-6	
114	圓文土器 深鉢	—	—	φ8.5	ロ縁部 破片 にぶい黄橙	雲母・砂 良好	満文唇 陸帶・沈縁区画文 区画内多条沈縁		H-6	
No.	種別	器種	計測値	石材、備考	注記					
115	石製品	石器剥片	長さ 41.0 幅 48.0 厚さ 12.0	重さ 32.19 g	黒色質岩	H-6				
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記	
116	土師器 壺	(13.0)	—	φ4.3	ロ～体部 破片	赤褐	雲母・砂 良好	外面：ロ縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面：ロ縁ヨコナデ 体部ミガキ	H-7	

No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記			
								内・外の特徴					
117	瓦 平瓦	<7.6>	<7.8>	2.1	破片	黄灰	石英・粗砂 良好	表面：布目 裏面：ヘラナデ	H-7				
118	瓦 平瓦	<6.5>	<7.3>	1.8	破片	表にぶい黄橙 裏灰	石英・雲母・砂 良好	表面：布目 裏面：ヘラナデ ヘルシ 断面酸化	H-7 頸				
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記			
119	織文土器 深鉢	—	—	<7.1>	把手	外にぶい黄橙 内にぶい黄橙	石英・砂 良好	隆蒂満文 眼鏡状把手 横位 RL	H-7				
120	織文土器 深鉢	—	—	<6.1>	飾部突起?	褐	雲母・輕石・砂 良好	条直文 貼付文 諸磯 C	H-7				
121	織文土器 深鉢	—	—	4.3	飾部 破片	にぶい黄橙	砂 良好	貼付文 条縦文 諸磯 C	H-7				
No.	種別	器種		計測値				石材、備考		注記			
122	石製品	打製石斧		長さ	175.01	幅	59.99	厚さ	23.81	重さ	224.0 g	黒色安山岩	H-7
123	石製品	石核		長さ	30.51	幅	20.31	厚さ	16.93	重さ	10.34 g	黒曜石	H-7 頸
124	石製品	柳形石器		長さ	39.77	幅	36.07	厚さ	9.34	重さ	14.83 g	黒色頁岩	H-7
125	石製品	打製石斧		長さ	70.0	幅	58.0	厚さ	13.0	重さ	89.93 g	黒色頁岩	H-7
126	石製品	打製石斧		長さ	71.0	幅	43.0	厚さ	16.0	重さ	69.15 g	黒色頁岩	H-7
127	石製品	打製石斧		長さ	65.0	幅	52.0	厚さ	18.5	重さ	89.68 g	ホルンフェルス	H-7
128	石製品	打製石斧		長さ	70.0	幅	44.0	厚さ	19.0	重さ	86.15 g	黒色頁岩	H-7
129	石製品	不定形石器		長さ	72.0	幅	80.0	厚さ	21.0	重さ	105.0 g	黒色頁岩	H-7
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記			
130	土師器 甕	(18.2)	—	<5.0>	口～胴部 破片	にぶい黄橙	結晶片岩・雲母・ 砂／良好	外面：口縁コナデ 肩部ヘラケズリ 内面：口縁コナデ 体部ヘラナデ	H-8				
131	土師器 台付甕	—	7.2	<3.9>	白部 内 黄斑	外 噌オーリーブ 内 黄斑	石英・雲母・粗砂 良好	内外面：ハケ目	H-8 №.1				
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記			
132	瓦 平瓦	<11.8>	<15.6>	1.4	破片	表にぶい黄 裏 浅黄	石英・砂 良好	表面：ヘラナデ 面取り 裏面：調目叩き	H-8 №.2				
133	瓦 平瓦	<4.5>	<5.7>	1.2	破片	褐灰	砂 良好	表面：カキ目 裏面：叩き後ヘラナデ	H-8				
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記			
134	須恵器 大甕	(30.3)	—	<14.2>	口～胴部 外 極 内 黄斑	外 極 内 黄斑	結晶片岩・粗砂 良好	外面：凍結剥離 内面：肩部ヘラナデ 凍結剥離	H-9 №.2・3				
135	灰釉陶器 壇	15.4	7.7	5.2	4/5	地 灰白 釉 オーリーブ黄	緻密 良好	外面：体・底部墨書き 高台貼付 底部回転 ヘラケズリ 浸け掛け 底・体部墨書き「内」	H-9№.1・H-9				
No.	種別	器種		計測値				石材、備考		注記			
136	鉄製品	釘	全長 6.2 幅 0.6 厚さ 0.5 重さ 9.76g		頭部欠				H-9 №.4				
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記			
137	織文土器 深鉢	—	—	<6.7>	胴部破片	外 極 内 ぶい赤褐色	輕石・砂 良好	沈線文 緒条件	H-9				
138	織文土器 深鉢	—	—	<6.7>	口～胴部 破片	外にぶい黄橙 内にぶい黄橙	石英・粗砂 良好	隆蒂満文・区画文 区画文 区画内 LR	H-9				
No.	種別	器種		計測値				石材、備考		注記			
139	石製品	打製石斧		長さ	56.50	幅	59.40	厚さ	16.11	重さ	56.93 g	黒色安山岩	H-9 №.5
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記			
140	須恵器 壇	(16.6)	(12.0)	6.3	口～底部 破片	灰オーリーブ	細砂 良好	付高台	H-10 №.1				
141	土師器 甕	(24.0)	—	<8.3>	口～胴部 外 極 内 ぶい赤褐色	雲母・細砂 良好	内外面：口縁コナデ 体部ヘラナデ	H-4・H-10					
142	須恵器 壇	9.2	4.6	2.9	9/10	外 浅黄 内 増灰黃	石英・砂 良好・弱酸化	内外面：ナデ 回転舟切右回転 土師質	H-11 №.7				
143	須恵器 ハクウ?	—	—	<1.5>	肩部破片	外 黑 内 黑	細砂 良好	外面：沈線一束 連続刻突列文 自然縫 内面：ヘラナデ	H-11				
144	灰釉陶器 壇	(15.7)	(7.5)	4.6	口～底部 破片	地 灰白 釉 黃灰オーリーブ	精製 良好	外面：上半浸け掛け 付高台下端ヘラケズリ 三日月高台貼付 付高台 内面：底部無釉	H-11 №.1				
145	灰釉陶器 壇	(15.0)	—	<4.0>	口～底部 破片	地 灰白 釉 黃灰	精製 良好	内外面：下位無釉	H-11 №.3				
146	灰釉陶器 壇	(14.0)	—	<3.6>	口～底部 破片	地 灰白 釉 オーリーブ	精製 良好	内外面：口脇部無釉	H-11 壈				
147	— 盤状壇	(14.0)	(11.0)	3.0	口～底部 破片	外にぶい黄橙 内 明褐色	石英・砂・赤色ス コリア・普通・酸化	外面：体部クロナデ ケズリ 底部ヘラケズ リ 赤彩 内面：ヨコナデ 赤彩	H-11 壈				

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴		注記
								外	内	
148	土師器 壺	(12.9)	—	<3.9>	口～底部 破片	外 内にぶい黄褐色 内にぶい砂	雲母・結晶片岩・ 砂／良好	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ	底部～ラケズリ 底部～ラナデ	H-11
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴		
149	瓦 軒丸瓦	<6.2>	<5.6>	1.6	破片	青黒	石英・粗砂 良好・還元	表面：重弁造革文 裏面：布目 いぶし		
150	瓦 丸瓦	<19.5>	<9.1>	1.2	破片	褐	石英・粗砂 良好・酸化	表面：ヘラナデ 裏面：布目		
151	瓦 平瓦	<16.5>	<12.9>	2.2	破片	灰	石英・雲母・粗砂 良好・還元	表面：布目 面取り 裏面：ヘラナデ		
152	瓦 平瓦	<11.5>	<11.6>	1.9	破片	黑	石英・粗砂 良好・還元	表面：ヘラナデ 面取り 裏面：繩目 いぶし		
153	瓦 平瓦	<14.9>	<12.3>	1.8	破片	灰黄	石英・粗砂 良好	表面：布目 面取り 裏面：ヘラナデ		
154	瓦 平瓦	<7.8>	<10.6>	1.9	破片	灰白	石英・粗砂 良好・還元	表面：布目 面取り 裏面：ヘラナデ		
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴		
155	織文土器 深鉢	—	—	<4.0>	口縁部 破片	外 内にぶい赤褐色 内 黑褐色	角閃石・砂 良好	沈線区画文 線条体 RL?		
No.	種別	計測値						石材、備考		
156	石製品	打製石斧	長さ 89.09 幅 46.81 厚さ 19.94 重さ 63.05 g	黑色頁岩				H-11 石		
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴		
157	土師器 甕	—	—	<3.7>	頸～胴部 破片	褐	雲母・粗砂 良好	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ		H-12
158	土師器 甕	—	—	<5.3>	胴部破片	外 内にぶい黄褐色	雲母・細砂 良好	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ		H-12
159	須恵器 甕	—	—	<8.7>	胴部破片	灰黄	長石・砂 良好	外面：横にくし書き条線 内面：鶴状模様		H-13 No.1
160	土師器 甕	12.3	丸底	4.5	口～底部 1/2	外 横 内にぶい黄褐色	石英・結晶片岩・ 輕石・砂／良好	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ	底部～ラケズリ	H-13 No.29
161	土師器 甕	(11.0)	丸底	3.4	口～底部 1/4	横	石英・角閃石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ	底部～ラケズリ	H-13 No.2
162	土師器 甕	10.8	丸底	3.1	完形	横	石英・角閃石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ	底部～ラケズリ	H-13 No.4
163	土師器 甕	10.2	丸底	3.4	2/3	横	石英・雲母・砂 良好	内外面：マメツ		
164	土師器 甕	10.6	丸底	3.6	口沿完形 内 横	外 内にぶい横	石英・雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ	底部～ラケズリ 底部～ラナデ	H-13 No.8
165	土師器 甕	(20.0)	丸底	7.4	口～底部 1/4	横	石英・雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ 体～底部ヘラナデ		H-13 No.7・12
166	土師器 甕	(20.6)	—	<21.2>	口～胴部 外 横	内にぶい横	雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ	体部～ラケズリ 胴部ヘラナデ	H-13 No.9・ 10・12・13
167	土師器 長胴甕	—	—	<19.1>	頸～胴部 明褐色	結晶片岩・粗砂 普通	結晶片岩・粗砂 普通	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ		H-13 No.5・6
168	織文土器 深鉢	—	—	3.4	頸部 破片	暗褐色	雲母・砂 普通	貼付文 条文文 諸職 C		H-13D4
169	織文土器 浅鉢	—	—	<5.2>	胴部破片	外 明赤褐色 内 横	石英・輕石・砂 良好			H-13No.11
170	織文土器 浅鉢	—	—	<6.8>	胴部破片	横	石英・角閃石・輕石・ 砂／良好		隆帶満巻文・区画文 区画内沈綱	H-13 盆
171	土師器 甕 or 鉢	(23.0)	—	<9.2>	口～胴部 外 深黃褐色 内にぶい黄褐色	横	石英・角閃石・粗 砂／普通	外面：口縁ヨコナデ 内面：ヘラナデ マメツ		H-14 No.2
172	土師器 甕	10.8	丸底	3.8	完形	横	砂 普通	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ	底部～ラケズリ 底部指ナデ？ 次 ぶくれ 鉄錆痕	H-14 No.1
173	土師器 甕	(10.0)	丸底	3.5	口～底部 1/4	横	雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ	底部～ラケズリ	H-14
174	土師器 甕	(12.4)	丸底	<4.1>	口～底部 破片	にぶい黄褐色	雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ 内面：口縁ヨコナデ		H-14
175	須恵器 蓋	(7.0)	—	<2.9>	天～口沿 部	にぶい黄褐色	石英・砂 良好	外面：天井部回転～ラケズリ 内面：ヨコナデ 右側軸		H-15 近

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴		注記	
								外	内		
176	土師器 甕	(21.0)	—	<7.0>	口～胴部 破片	梗	石英・角閃石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 頭部ヘラナデ 体 部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ	H-15 No.3		
177	土師器 甕	(18.0)	—	<5.1>	口～肩部 破片	外 梗 内 にぶい梗	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 肩部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ 肩部ヘラナデ	H-15 No.2		
178	土師器 甕	(11.3)	丸底	3.4	口～体部 破片	梗	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 内面：ヨコナデ 凍結剥離	H-15 No.1		
179	土師器 甕	(13.0)	—	<2.5>	口～体部 破片	梗	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 体部無調整 底部 ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	H-15		
180	須恵器 耳皿	(10.0) (5.0)	<1.7>	口～底部	灰オリーブ	結晶片岩・砂 良好・灰運元	結晶片岩・砂 良好・灰運元	回転糸切り 体部径 5mm 程の孔 内から 外へ施成前突孔 右回転	H-16		
181	須恵器 甕	—	7.0	<4.2>	体～底部	灰白	長石・粗砂 良好	回転糸切り 付高台	H-16 亂		
182	須恵器 甕	—	6.8	4.0	体～底部	外 オリーブ黒 内 離斑灰	雲母・細砂 普通	外面：回転糸切り 内面：底部回転ヘラ ナデ いがし 右回転 底部酸化	H-16 No.4		
183	須恵器 甕	(12.2)	5.4	3.7	口～底部 1/2	灰白	結晶片岩・雲母・ 砂／普通	結晶片岩・雲母・ 砂／普通	回転糸切り	H-16 No.6・ H-16	
184	須恵器 甕	—	(7.4)	<2.0>	体～底部 外 にぶい黄 内 灰黃揭	長石・雲母・砂 良好	外面：回転糸切り 付高台 内面：ヘラナデ	H-16 亂			
185	須恵器 大甕	(24.0)	—	<17.6>	口～胴部 内 浅黄	石英・結晶片岩・ 砂／普通	外外面：ヘラナデ 外表面：体部ヘラナデ 体部下端 回転ヘ ラケズリ 内面：ヘラナデ	H-16 No.2・3			
186	土師器 甕	(12.0)	(6.4)	3.2	口～底部 1/4	梗	石英・角閃石・粗 砂／良好	外面：口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ 体 下部～底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ 体～底部ヘラナデ	H-16 H-11・亂・H-6		
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴	注記		
187	瓦 平瓦	(15.9)	(11.3)	1.7	破片	灰	石英・砂 良好	表面：布目 裏面：格子叩き後ヘラナデ 断面酸化	H-16 No.1		
188	瓦 平瓦	<10.5>	(6.6)	2.0	破片	表 灰 裏 青灰	長石・砂 良好	表面：布目 裏面：ヘラナデ	H-16 No.13		
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴	注記		
189	織文土器 深鉢	—	—	<6.9>	口縁部 破片	外 梗 内 黄褐色	砂 良好	隆帶溝巻文 沈線区画文 LR 丸窓 濾酒	H-16 亂		
190	織文土器 深鉢	—	—	<14.2>	胴部破片	にぶい梗	雲母・輕石・砂 普通	蛇行隆線文 条線文	D-1No.1		
191	織文土器 深鉢	—	—	<16.3>	胴部破片	にぶい梗	輕石・砂 普通	沈線文 横位RL	D-1No.2・S-2		
192	土製品 土製円盤	径 2.8 厚さ 1.1	完形	表 灰黃揭 裏 黃揭	雲母・輕石・砂 普通	雲母・輕石・砂 普通	沈線文 単節 断面研磨	D-1 下層			
No.	種別	器種	計測値						石材、備考	注記	
193	石製品	打製石斧	長さ 63.82	幅 63.12	厚さ 23.53	重さ 99.28 g	質岩	被熱 欠損品	D-1		
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外の特徴	注記		
194	織文土器 有孔跨付 土器	—	—	<2.7>	肩部破片	外 黄褐色 内 黄褐色	雲母・砂 良好	外面：赤彩 跨 孔 内面：赤彩	D-2		
195	織文土器 深鉢	—	—	<3.5>	口縁破片	にぶい黄褐	雲母・輕石・砂 良好	沈線文 刺突文 繋き不明	D-2		
196	織文土器 深鉢	—	—	<4.4>	口縁部 破片	にぶい黄褐	石英・雲母・砂 普通	隆帶文 横位RL	D-2		
197	織文土器 深鉢	—	—	<7.5>	胴部破片	外 暗褐色 内 にぶい梗	雲母・砂 良好	沈線文	D-2		
198	織文土器 深鉢	—	—	<8.8>	胴部破片	外 にぶい黄褐色 内 にぶい黄褐色	雲母・輕石・砂 良好	隆帶区画文 区画内 RL	D-2		
199	織文土器 深鉢	—	—	<19.6>	口～胴部 破片	外 黄褐色 内 灰	石英・輕石・粗砂 普通	隆帶溝巻文・区画文 区画内沈線 絡条	D-3No.12・14		
200	織文土器 深鉢	—	—	<11.6>	胴部破片	外 梗 内 明黄揭	石英・結晶片岩・ 粗砂／普通	隆帶文 沈線文 絡条体？ マメヅ	D-3No.3		
201	織文土器 浅鉢	—	—	<23.2>	口～胴部 破片	明褐	角閃石・輕石・粗 砂／普通	隆帶溝 卷文・区画文 区画内沈線 LR	D-3No.1		

No.	種別	器種		計測値			石材、備考	注記	
		口径	底径	器高	残存	色調			
202	石製品	打製石斧		長さ 120.65 幅 66.15 厚さ 23.63 重さ 130.0 g		黒色安山岩	D-3		
203	石製品	打製石斧		長さ 62.84 幅 54.68 厚さ 25.62 重さ 98.65 g		黒色安山岩	D-3		
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	
204	土師器 甕	(18.0)	—	<5.2>	口～頸部 外 黒褐 内 明赤褐	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 頸部ヘラクズリ 内面：口縁ヨコナデ 頸部ヘラナデ	D-4	
205	縄文土器 深鉢	—	—	<17.0>	胴部破片	外 にぶい黄褐 内 にぶい黄褐	雲母・輕石・砂 普通	沈線文 単態	S-2 N-1・X-1
206	縄文土器 深鉢	—	—	<9.9>	口～胴部 外 にぶい黄 内 色褐	輕石・砂 良好	陸帯・沈線区画文 区画内 RL	S-2 N-3	
207	縄文土器 深鉢	—	—	<4.6>	口縁部 破片	外 明褐 内 黑	雲母・砂 良好	陸帶区画文 沈線文 多条沈線	F-1
208	縄文土器 深鉢	—	—	<43.2>	頸～胴部 外 にぶい黄褐 内 黄	石英・雲母・輕石・砂 普通	陸帶文 沈線文	X-1	
209	縄文土器 深鉢	—	—	<8.6>	口縁部 破片	外 にぶい褐 内 浅黄	輕石・砂 良好	陸帶満巻文・区画文 RL ?	X-1
210	縄文土器 深鉢	—	—	<8.2>	胴部	外 棕 内 にぶい黄褐	雲母・輕石・砂 普通	沈線文 RL 横位	H-4 横
211	縄文土器 深鉢	—	—	<7.9>	口縁部 破片	外 棕 内 にぶい黄褐	石英・雲母・砂 良好	陸帶区画文 区画内 RL 満巻文	H-3
212	縄文土器 深鉢	—	—	<8.9>	口～胴部 破片	にぶい赤褐	雲母・輕石・砂 良好	陸帶満巻文・区画文 区画内 LR	X-1
213	縄文土器 深鉢	—	—	<9.7>	口～胴部 破片	外 明赤褐 内 にぶい黄褐	石英・雲母・砂 良好	沈線文 烈点文 LR ?	X-1
214	縄文土器 深鉢	—	—	<9.5>	口～胴部 破片	にぶい黄褐 内 にぶい黄褐	角閃石・砂 普通	陸帶区画文 沈線文	X-1
215	縄文土器 深鉢	—	—	<5.2>	口縁部 破片	外 棕 内 明赤褐	輕石・砂 良好	陸帶区画文 区画内 RL	X-1
216	縄文土器 深鉢	—	—	<11.7>	口縁部 破片	外 浅黄 内 にぶい黄褐	雲母・砂 良好	陸帶満巻文・区画文 LR	X-1
217	縄文土器 有孔鉗付	—	—	<6.5>	口～胴部 破片	外 明赤褐 内 褐	雲母・砂 普通	肩部有孔鉗	X-1
218	縄文土器 深鉢	—	—	<9.0>	口縁部 破片	明黄褐	角閃石・輕石・砂 良好	陸帶満巻文 沈線文	X-1
219	縄文土器 突起	—	—	<4.7>	飾部破片	褐灰	砂 普通	刺突文	X-1
220	縄文土器 深鉢	—	—	<8.2>	胴部破片	外 明赤褐 内 安黑	雲母・輕石・砂 普通	陸帶区画文 区画内 沈線文	X-1
221	縄文土器 深鉢	—	—	<7.1>	頸～胴部 破片	外 にぶい褐 内 にぶい黄褐	雲母・砂 良好	区画文 斜状沈線 区画内 条痕	X-1
222	縄文土器 深鉢	—	—	<11.6>	胴部破片	外 明赤褐 内 色褐	雲母・輕石・砂 普通	外面：満巻浮き線文 ミガキ 内面：ミガキ	X-1
223	縄文土器 深鉢	—	—	<5.5>	胴部破片	外 オリーブ褐 内 黑褐	石英・輕石・砂 良好	浮き線 沈線 区画文 煙き不明	X-1
224	縄文土器 台	—	6.4	<4.2>	台部 1/2	橙	雲母・砂 良好	突起の可能性あり	X-1
225	土製品 土製円盤	—	—	2.2	完形	にぶい黄褐	石英・砂 普通	断面研磨	X-1
226	縄文土器 深鉢	—	—	<12.3>	口～胴部 破片	明黄褐	石英・結晶片岩・砂 普通	陸帶区画文 区画内 沈線 LR	X-1
227	縄文土器 深鉢	—	—	<10.0>	胴部破片	外 黄褐 内 明赤褐	雲母・砂 良好	陸帶区画文 RL ? 燃成後穿孔	B-2
228	縄文土器 深鉢	—	—	<8.8>	口縁部 破片	にぶい黄褐 内 にぶい黄褐	輕石・砂 良好	陸帶満巻文・区画文 RL	X-1
229	縄文土器 深鉢	—	—	<9.9>	把手	外 棕 内 浅黄	石英・輕石・粗砂 普通	插状把手 無文	X-1
No.	種別	器種		計測値			石材、備考	注記	
		口径	底径	器高	残存	色調			
230	石製品	圓石		長さ 121.0 幅 86.5 厚さ 52.4 重さ 446.0 g			粗粒輝石安山岩	X-1	
231	石製品	打製石斧		長さ 60.5 幅 37.8 厚さ 12.6 重さ 36.54 g			黒色安山岩	X-1	
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	
232	灰釉陶器 壺	—	(8.4)	<3.5>	体～底部	地 灰白 軸灰オリーブ	精製 良好	外面：体部上半段横け 底部ヘラナデ 三日月高台足付 内面：灰釉	北

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴		注記
								外・内面の特徴	外・内面の特徴	
233	土師器 壺	12.0	—	5.0 1/2	口～底部 にぶい橙	結晶片岩・砂 普通	外：口縁ヨコナダ 底部ヘラケズリ 内：口縁ヨコナダ 体部ヘラナダ	北		
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	内・外面の特徴	注記
234	瓦 平瓦	≤14.6	≤11.7	2.3	破片	黄灰	石英・粗砂 良好	表面：ヘラナダ 面取り裏面：ヘラナ デ	表面：ヘラナダ 面取り裏面：ヘラナ デ	北
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	内・外面の特徴	注記
235	縄文土器 深鉢	—	9.2	≤24.1	胴～底部 内 黄褐	外 黄褐 内 黄褐	石英・輕石・粗砂 普通	沈線区画文 区画内 RL	北東	
236	縄文土器 深鉢	—	6.0	≤22.8	胴～底部 内 にぶい橙	外 橙	輕石・砂 普通	沈線区画文 区画内条線文	北東	
237	縄文土器 深鉢	—	7.7	≤15.8	胴～底部 内 黑褐	外 橙 内 黑褐	輕石・粗砂 普通	無文	北	
238	縄文土器 深鉢	—	—	≤11.0	口～脚部 破片	外 明褐 内 黄褐	角閃石・輕石・砂 良好	陸帶文 沈線区画文 区画内沈線	北	
No.	種別	器種	計測値					石材、備考		注記
			長さ	幅	厚さ	重さ	石材			
239	石製品	打製石斧	長さ 115.62	幅 39.02	厚さ 15.93	重さ 35.33 g	黒色頁岩 240と接合	北		
240	石製品	打製石斧	長さ 104.02	幅 42.40	厚さ 16.73	重さ 70.38 g	黒色頁岩 239と接合	北		
239	石製品	打製石斧	長さ 121.77	幅 42.40	厚さ 21.32	重さ 105.77 g	黒色頁岩	北		
241	石製品	打製石斧	長さ 117.67	幅 48.46	厚さ 21.99	重さ 152.0 g	黒色安山岩	北東		
242	石製品	打製石斧	長さ 109.64	幅 50.73	厚さ 18.24	重さ 116.0 g	黒色安山岩	北東		
243	石製品	剥片	長さ 24.8	幅 29.5	厚さ 95.0	重さ 6.59 g	黒曜石 二次加工のある剥片	北東		
244	石製品	打製石斧	長さ 73.3	幅 42.5	厚さ 23.0	重さ 82.38 g	黒色頁岩	北東		

第4章まとめ

第1節 遺構の概観

本調査は限られた範囲の調査であり、当然ながら遺跡の全容を把握するには至っていない。調査成果については国府、国分寺・尼寺に隣接する地域にあり、これまでに蓄積されたデータを加えた分析が必要であるが、周辺地域での発掘調査が現在も継続中であること、遺跡範囲が広大であること、膨大な調査データを分析する条件が整っていないことから、遺構については隣接する「元総社小見II遺跡」(前橋埋文調査団 2002)に則した時期別構造配置図の掲載に止め、遺物については特殊な遺物と判断される H-6 出土の有鏽台付鉢の出土例紹介、H-11 出土の盤状坏について若干の考察を加えまとめとしたい。

遺構の配置、時期区分については図 1・2 に示すとおりであり、特に「元総社小見II遺跡」との違いは見当たらない。

縄文時代の出土遺物には諸磯 C 式(前期)、加曾利 E 式(中期)などが見られるが、J-1 ~ 4・D-3 のいずれも中期後半と推定され、中央部に石囲い炉が配されている。しかし、J-3 については S-2 が炉の可能性があるものの不明瞭である。相対的に遺跡西寄りに南北帯状に分布している傾向が窺える。

古墳時代の住居は比較的大型のものが多く、特に前半は遺跡西側の台地上にまとまって分布し、後期には低地と接する縁辺部への広がりが窺える。

7世紀後半～8世紀の住居は小型化し、相対的に遺跡南西にまとまって分布している傾向が窺える。H-11 は 10世紀前半と考えられる住居ではあるが、出土遺物である盤状坏(第38図 15)はこの時期に該当する貴重な遺物であり、南武藏型盤状坏としては県内初の出土事例である可能性が高い。

9・10世紀はさらに住居の小型化が進み、件数の急増、範囲拡大の傾向が窺え、10世紀以降の住居からは瓦の出土が目立つようになり、隣接する国分寺・尼寺に使用された瓦の再利用が盛んに行われていたことが示唆される。また、土器類についても施釉陶器の比率が他地域より高い印象を受ける。

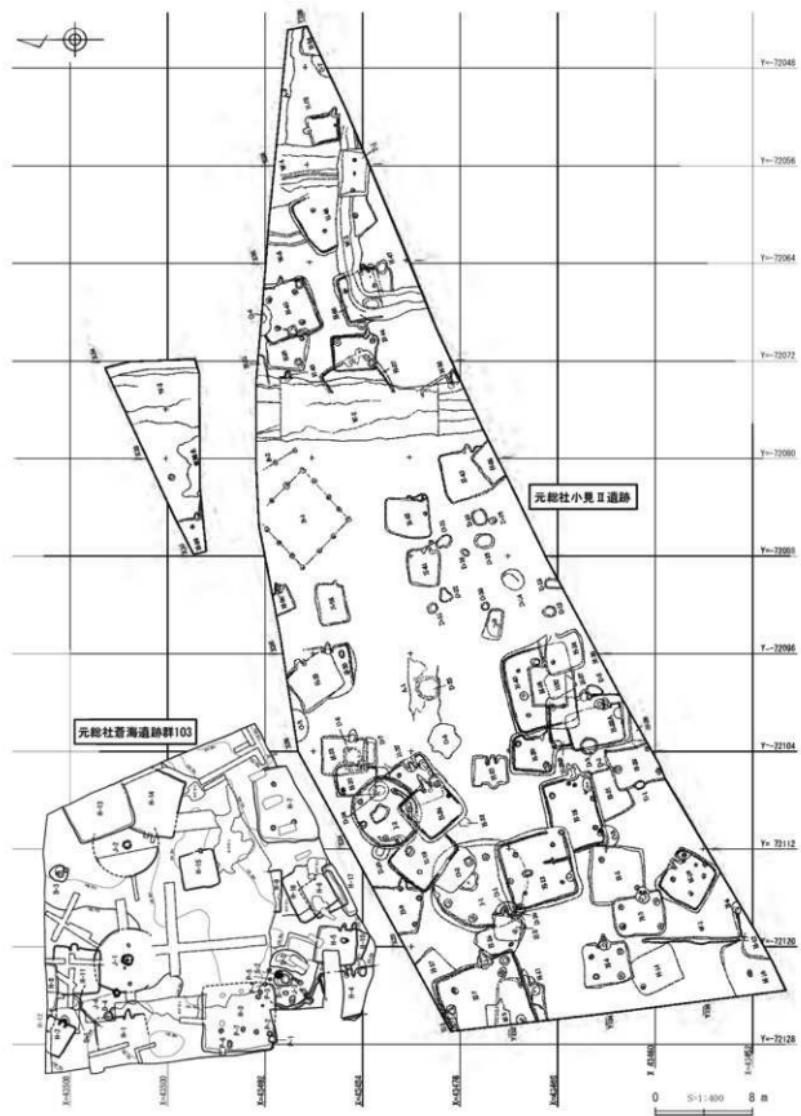


図1. 元総社蒼海遺跡群 103・元総社小見II遺跡全体図

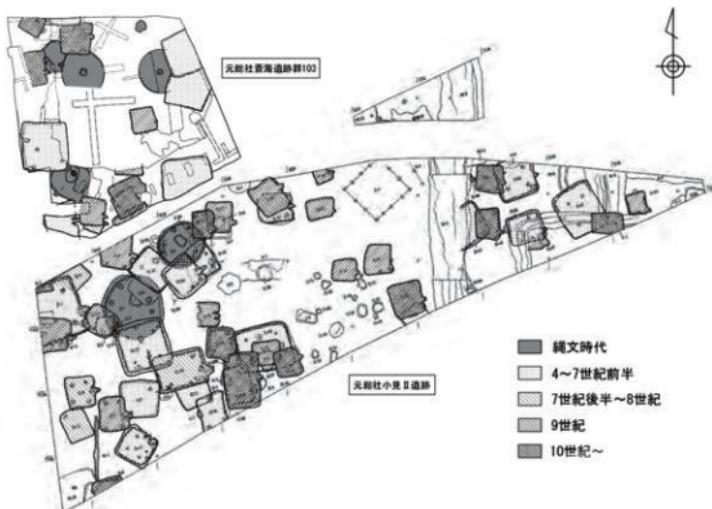


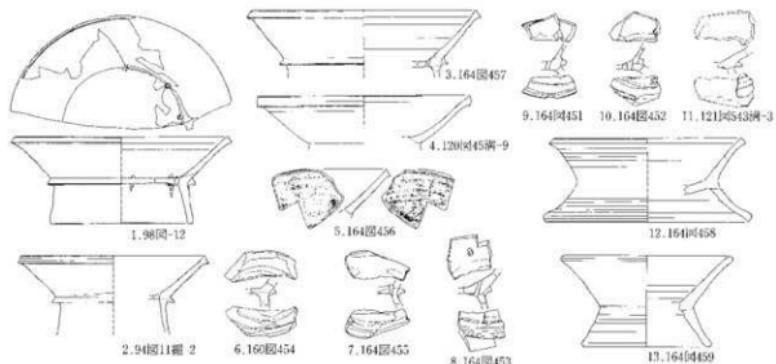
図2. 時期別遺構全体図

第2節 H-6 出土の有鍔台付鉢について

『有鍔台付鉢』の名称については、今のところ出土例が見当たらず、“仮称”とするところであるが、類似する報告例として以下の資料があることを神谷住明氏より御教示いただいた。

その類例は図2に示すとおりで、玉村町の「福島曲戸遺跡」（群埋文2002）で『有孔鍔付鉢・台付鉢』の報告例が、高崎市の「田端遺跡」（群埋文1988）で『器種不明須恵器』の報告例が、月夜野町の「月夜野窯跡群深沢B支群」（群埋文2016）で『台付鉢』の報告例がある。いずれも用途・性格については明らかにされていないが、「福島曲戸遺跡」（群埋文2002）の中で原雅信・石川雅俊氏は「田端遺跡」との比較において器形の類似性、鍔貼付、底部穿孔などの共通する特徴を指摘し、仮称『有孔鍔付鉢』として報告している。また、「田端遺跡」出土のものには二次的な被熱痕が認められることから鉢部内での火熱の使用を想定している。なお、「月夜野窯跡群深沢B支群」のものは底部中央部が欠損しており、底部に穿孔を有するかは不明瞭である。台部の櫛描波状文は「田端遺跡」のものに酷似しているが、透かしがないところは相違点である。

本遺跡H-6出土の台付鉢は、全体的な器形、鍔の貼付方法は深沢B支群に、方形の透かし、二次的な被熱の痕跡（煤付着）が認められることは田畠遺跡に似ているが、これら類例と最も大きな違いは底部に穿孔が無い点で、『有孔鍔付鉢』と機能的な相違を思わせること、台部に方形透かしと線刻文が施されている点が挙げられる。また、出土遺構も「田端遺跡」では大型土坑、「福島曲戸遺跡」では壠・堅穴遺構、「深沢B支群」では須恵器窯、本遺跡では堅穴住居と共通性は見出せない。ただし、不確実ではあるが、これらの遺跡が9~10世紀代の寺院、公的施設との関連性が想像される遺構が遺跡内、あるいは隣接地域に存在することは本遺跡が国府・国分寺に隣接する点で共通性が窺える。



第254図 有孔鉗付鉢・台付鉢

福島曲戸遺跡

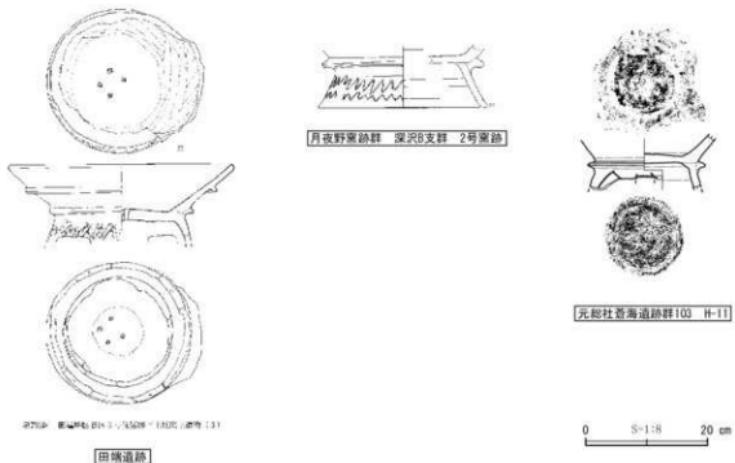


図3. 有鉗付鉢出土例

以上、今のところ類例が乏しく資料紹介程度のことしか記述できないが、今後の資料の蓄積に期待するところである。

※引用参考文献

原雅信・石川雅俊『福島曲戸遺跡・上福島遺跡』群埋文 2002

神保佑史・西田健彦・他『田端遺跡』群埋文 1988

神谷佳明『月夜野宗路群深沢B支群』群埋文 2016

付編 元総社着海遺跡群（103）から出土した盤状坏について

はじめに

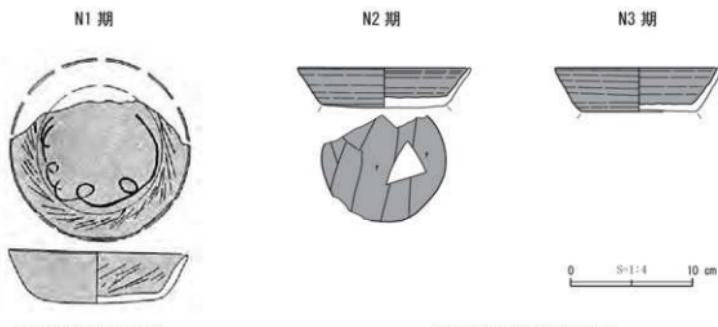
遺物選別作業中、違和感を覚える一際目を引く土器があった。その特徴から盤状坏の可能性が考えられたので、ここに取り上げて検討を加えておきたい。

盤状坏の概略

盤状坏とは、平底で底面積が広く口径が大きい割に器高が低い安定感のある土師器坏で、その多くは内外面に赤彩が施される特徴をもつ。その分布は南関東を中心であるが少量だが下野国、東北地方や東海地方においても確認されるという（小林 1986）。武藏国府周辺においては武藏国の律令的土器様式を代表する土師器とされている。（江口 2014）

その用途については現状で食膳具説（山口 1984・江口 2006・松本 2013）と食膳具以外の用途説（青木 2001・2003）がある。特に青木敏は、盤状坏が安定して平置きできる大きな底面を有することから液体を入れたと考え、内外面の赤彩は液漏れ防止の加工と考えている。使用方法としては工房等で用いる作業用のバレットのような役割と考えつつも、灯明皿や硯に転用された例もあることから、複数の用途で使用された可能性を指摘している。

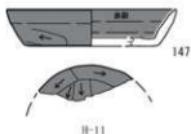
時期的には山口辰一による武藏国府編年（山口 1984）によるN1期（7世紀末～8世紀初頭）に国府専用として出現し、N2期（8世紀前葉～第II四半世紀中心）には一般集落に出回るようになる。そしてN3期（8世紀中葉）には衰退・消滅してしまう非常に短命な土器である。



元総社着海遺跡群（103）出土の盤状坏

本資料は破片で、推定口径 14.0cm、推定底径 11.0cm、器高 3.0cm、クロコ整形で、口縁部以下の外面は手持ちケズリによって調整されており、特に底面は周縁部分を意識したようである。内外面には赤彩が施され、口縁部を中心に手ずれと思われる摩耗が顕著である。胎土はきめ細かい砂質で赤色スコリアを含み、白みがかった色調であることから、県内産ではない。赤色スコリアを含むことから、武藏国府周辺から搬入された可能性が非常に高い。また、本資料において顕著な手ずれ状の磨減につい

では、本場の事例に多い特徴であると江口が指摘しており（江口 2014）、本資料が南武藏と同様の使用方法を経た可能性と、南武藏である程度使用されたものが持ち込まれた可能性の双方が考えられる。本資料は武藏国府編年のN3期（8世紀中葉）の盤状坏に相当する。（註1）出土したH-11は10世纪代の竖穴建物であることから、混入と考えられる。本資料自体の示す8世紀中葉頃の遗構は、今回の調査区内ではH-10が近い時期である。さらに南に隣接する元総社小見II遺跡（土生ほか2002）を見ると、H-4・18とされる竖穴建物が8世紀後半頃で近い時期である。従って本資料は本来これらの遺構に伴っていた可能性がある。



群馬県内における事例

県内における盤状坏の出土例は極めて少なく、今のところ渋川市の半田中原・南原遺跡43・72・83号住居跡で計6点の出土が知られているに過ぎない（註2）。これらの特徴は口径16cm～19cm前後、内外面に丁寧なヘラミガキが見られ、武藏国府編年のN1期（7世紀末～8世紀初頭中心）の盤状坏と一致する特徴をもっている。該期の盤状坏は内面に放射状暗文をもつ呑口クロ整形で、内外面にヘラミガキを加えるものも多い。大口径（口径15～17cm程度）が主体を占め、形態的には畿内産土師器の影響を受けがる、畿内には赤彩を施した土師器である。

半田中原・南原遺跡では盤状坏以外に高盤等も多く、明らかに一般集落ではない遺跡である。報告者の大塚昌彦は、南関東からの人達による計画村落である可能性と、「有牛」墨書き器を根拠に延喜式の「有馬島牧」である可能性を考えている。



半田中原・南原遺跡の盤状坏

まとめ

本資料は武藏国府周辺から搬入されたもので、県内ではほとんど例のない特殊遺物である武藏型盤状坏は当然、武藏国府周辺での出土例が多いが、武藏国と上野国の連絡路として機能した東山道武藏路の駅家と考えられている埼玉県所沢市の東の上遺跡や、東海道駅路で結ばれた下總国府である千葉県市川市国府台遺跡からも出土している。上野国府周辺域出土である今回の例も、やはり武藏路を通じてもたらされたものと思うが、その背景には国府間の流通・交流が控えている可能性が考えられる。ちなみに本資料は、武藏型盤状坏の分布の北限となるようである（註3）。上野国府域の発掘調査は近年前橋市教育委員会によって精力的に進められており、特殊遺物の分布から国府域を探る検討もなされている（阿久澤ほか2013）。今回確認された盤状坏が、今後の上野国府研究の進展に資することを期待するものである。

筆者はまだまだ未熟で研究を始めたばかりであるが今後も研究を継続していきたいと考える。ご教示いただいた永井智教氏、青木敬氏、江口桂氏、田尾誠敏氏、神谷佳明氏にここに記し、感謝の意を表させていただく。そして本報告書に拙稿の掲載を許可していただいた事にも感謝したい。

註

- (1) 本資料は平成 28 年 3 月の第 32 回条里制・古代都市研究会大会において、永井智教氏を介して青木敬氏（独立行政法人奈良文化財研究所 現國學院大学准教授）、江口桂氏（府中市ふるさと文化財課長）、田尾誠敏氏（東海大非常勤講師）に実見していただき、形態特徴から 8 世紀中葉以降の武藏型盤状坏であるとの鑑定を頂いた。
- (2) 神谷佳明氏に県内における盤状坏の出土についてご教示いただいた。
- (3) 註 (1) と同じ。

〈引用・参考文献〉

- 青木敬 2001「盤状坏と古代の集落—多摩地域における検討—」『土壁 第 5 号』考古学を楽しむ会
- 青木敬 2003「盤状坏の史的意義」『和田西遺跡の研究』考古学を楽しむ会
- 阿久澤智和・眞下晃 2013『推定 上野国府～平成 24 年度調査報告～』
- 江口桂・野田憲一郎 2006「武藏国府跡出土土器群の再検討」『埼玉考古学会 50 周年記念シンポジウム 古代武藏国の須恵器流通と地域社会』埼玉考古別冊 9 埼玉考古学会
- 江口桂 2014『古代武藏国府の成立と展開』同成社 古代史選書 13
- 江口桂 2014『古代官衙』考古学ハンドブック 11 ニューサイエンス社
- 江坂輝彌・前田光雄ほか 1989『東京都町田市木曾森野遺跡 歴史時代編』町田市木曾森野地区遺跡調査会
- 大塚昌彦 1994『半田中原・南原遺跡』茨川市発掘調査報告書第 41 集
- 河井英夫 1985『すぐじ山下遺跡発掘調査報告書(歴史時代)』竹中工務店仮設道路用地内遺跡調査会
- 岡田茂弘ほか 1998『シンポジウム東国の大府 inWAYO —考古学からみた東国大府の成立と変遷—』シンポジウム東国の大府 inWAYO 実行委員会
- 小出義治・玉口時雄ほか 1981『シンポジウム盤状坏—奈良時代土器の様相—』相武古代研究会・東洋大学未来考古学研究会
- 小林信一 1986「ロクロ手法土器の出現」『國學院大學考古學資料館紀要』第 2 集 國學院大學考古學資料館
- 坂詰秀一・高林均・福田健司 1996『落川遺跡 I』日野市落川調査会
- 坂詰秀一・高林均・福田健司 1997『落川遺跡 II』日野市落川調査会
- 白崎智隆・沼畠伸一『国府台遺跡 第 13 地点 (6) ~ (11)』株式会社コクドリサーチ
- 根本靖 2009『古代入間郡出土の盤状坏について』『論叢 古代武藏國入間郡家 II —多角的視点からの考察—』古代の入間を考える会
- 根本靖 2010『東の上遺跡・飛鳥・奈良・平安時代編 I』所沢市教育委員会
- 土生朗治・松川由之・齊木一敏 2003『元総社小見 II 遺跡』前橋市埋蔵文化財調査団
- 松本太郎 2013『東国の大土器と官衙遺跡』六一書房
- 山口辰一 1984「武藏国府関連遺跡における土器編年試論」『武藏国府関連遺跡調査報告 V』府中市埋蔵文化財調査報告第 5 集
- 山口辰一 1985「武藏国府と奈良時代の土器様相」『東京考古』3 東京考古談話会

写 真 図 版



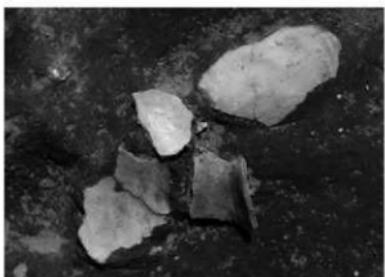
H-1 完掘 南から



H-1 カマド 南から



H-1 遺物出土状況



H-1 遺物出土状況



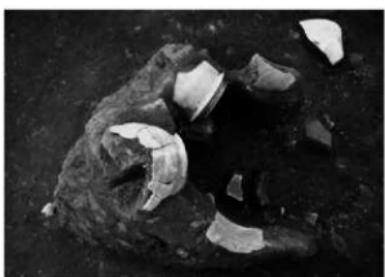
H-2 完掘 西から



H-2 掘り方 西から



H-2 カマド 西から



H-2 カマド 北から

図版 2



H-3 完掘 東から



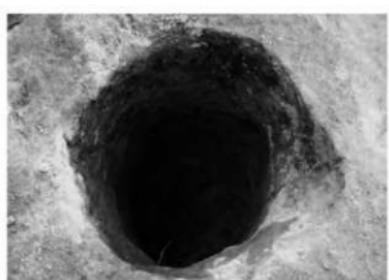
H-3 堀り方 東から



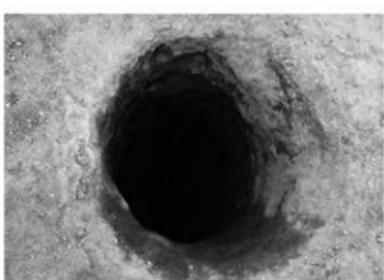
H-3 遺物出土状況



H-3 P1



H-3 P2



H-3 P3



H-3 P3 遺物出土状況



H-4 完掘 西から



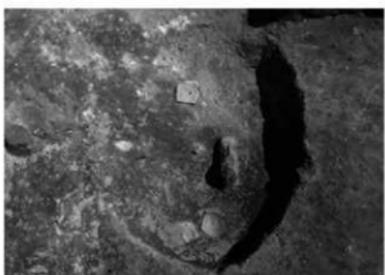
H-3 カマド 西から



H-4 カマド遺物出土状況 西から



H-4 カマド袖内遺物出土状況



H-4貯蔵穴 西から



H-4 掘り方 西から



H-5 完掘 南から



H-5 カマド 西から



H-5 炉 西から

図版 4



H-6 完掘 西から



H-6-16・17 挖り方 南から



H-7 完掘 西から



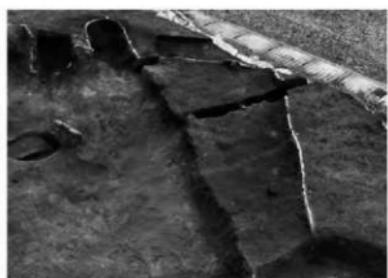
H-7 挖り方 西から



H-8 挖り方 南東から



H-9 遺物出土状況



H-10 完掘 西から



H-10 カマド 西から



H-11 完掘 西から



H-11 カマド 西から



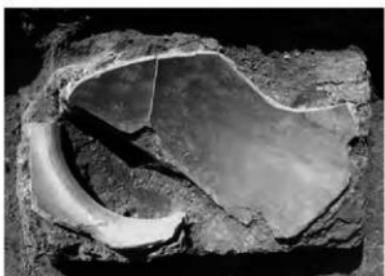
H-11 掘り方 西から



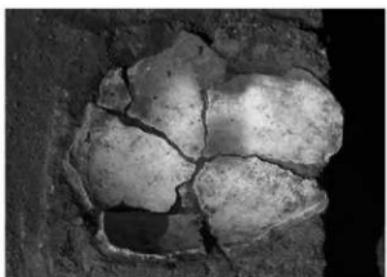
H-12 掘り方 南西から



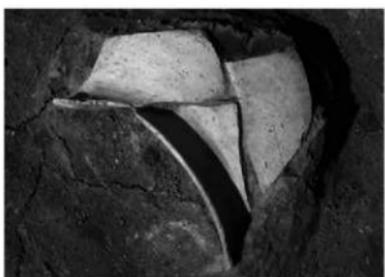
H-13 完掘 西から



H-13 遺物出土状況



H-13 遺物出土状況



H-13 遺物出土状況



H-13 遺物出土状況



H-13 遺物出土状況



H-13 遺物出土状況



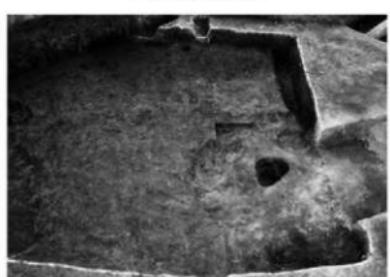
H-13 P1



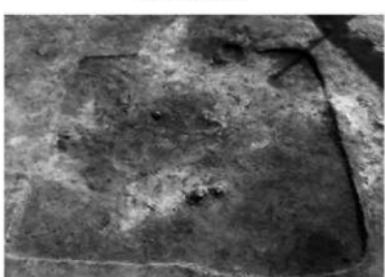
H-14 完掘 北西から



H-14 遺物出土状況



H-14 掘り方 北西から



H-15 完掘 西から



H-15 カマド 西から



H-15 遺物出土状況



H-16 完掘 北から



H-16 カマド 南から



H-16 遺物出土状況



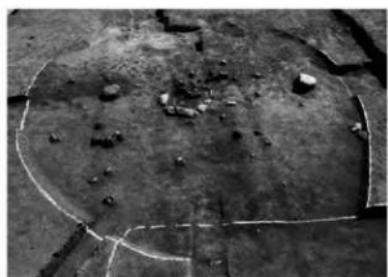
H-16 遺物出土状況



H-16 遺物出土状況



H-17 完掘 南から



J-1 完掘 南から



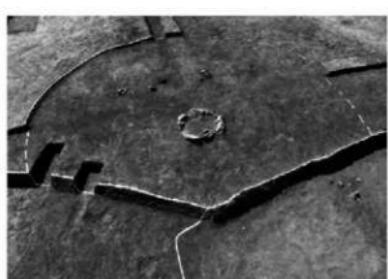
J-1 炉 東から



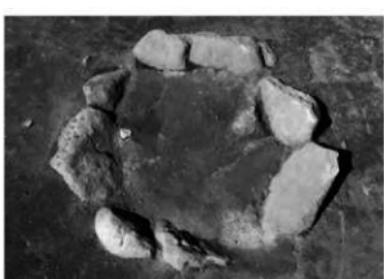
J-1 炉 北から



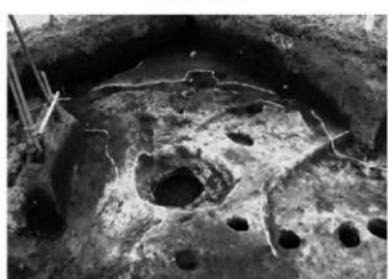
J-1 炉埋甌 北から



J-2 完掘 東から



J-2 炉 南から



J-3 完掘 北東から



J-3 埋甌 東から



J-4 完掘 南東から



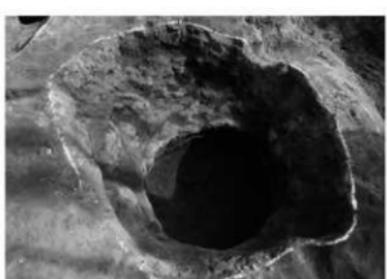
J-4 炉 南から



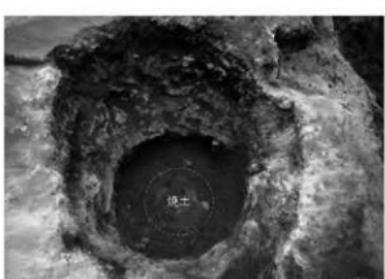
J-3 上遺物集中 北から



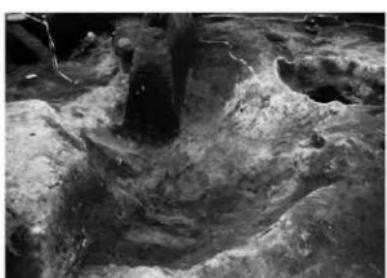
J-3 上遺物集中 北から



D-1 北東から



D-1 燒土 北から

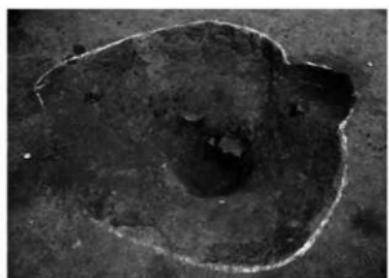


D-2 北から

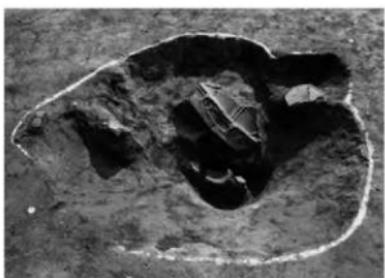


D-2 遺物出土状況 北から

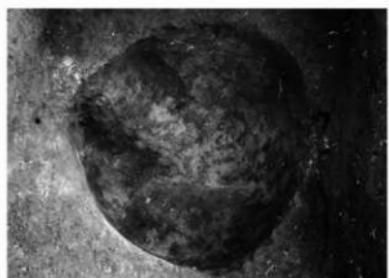
図版 10



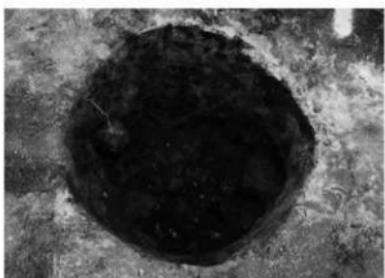
D-3 西から



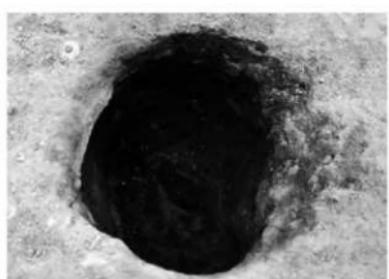
D-3 遺物出土状況 北西から



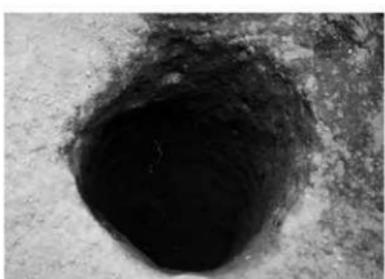
P-1 北から



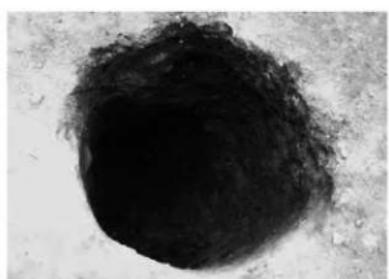
P-2 東から



P-3 南から



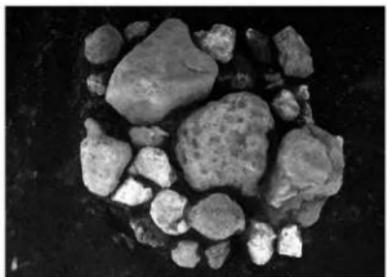
P-4 北から



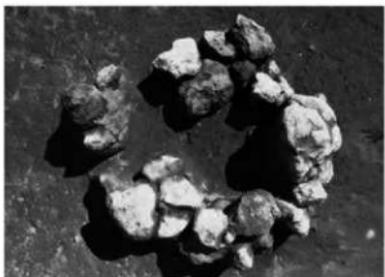
P-5 北東から



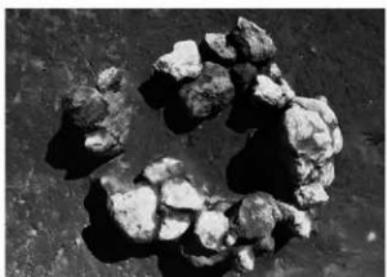
S-1 西から



S-2 北から



S-2 北から



S-2 北から



作業風景



作業風景 (J-1 上遺物集中)



作業風景 (H-9)



作業風景 (断面計測)



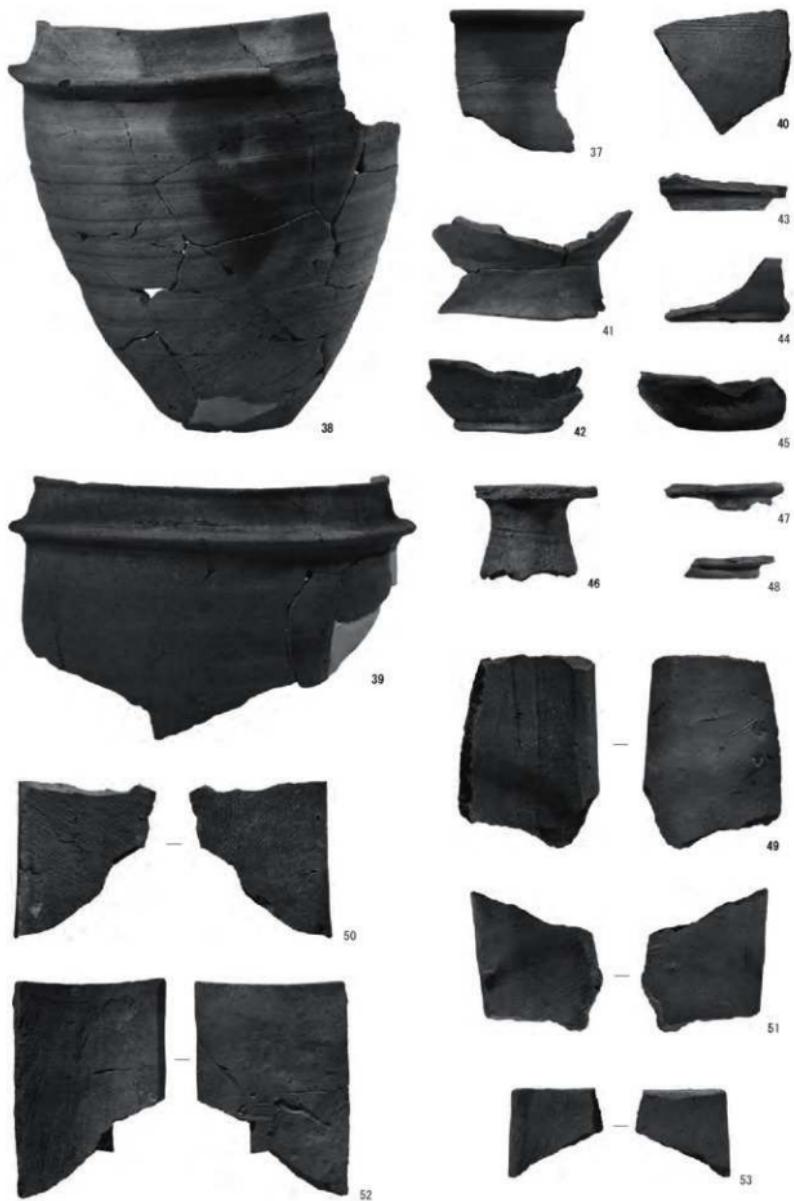
表土掘削



S=1/4 J-1-2-3 出土遺物



J-4、H-1 出土遺物

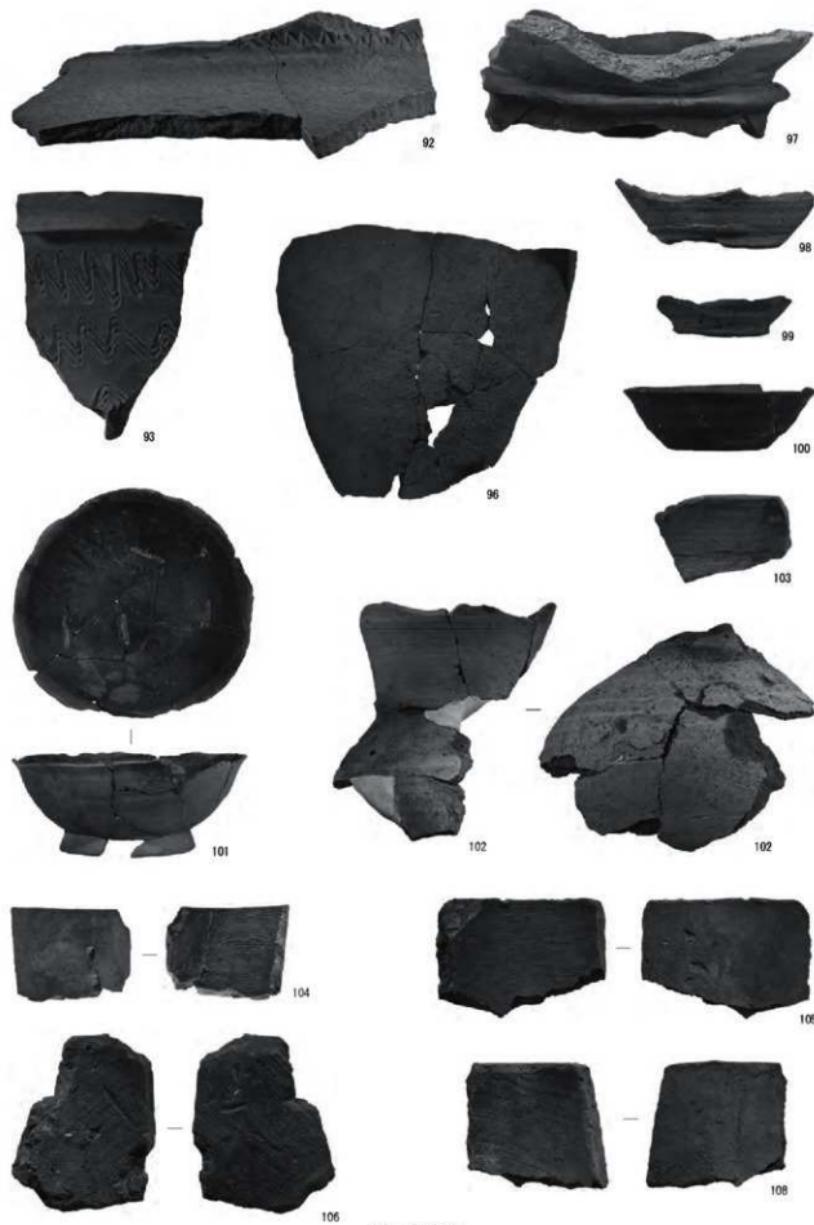


H-2 出土遺物





H-4-5-6 出土遺物



H-6 出土遺物



H-6-7 出土遺物



H-8・9・10・11 出土遺物

図版 20



H-11-12-13-14-15 出土遺物



H-16、D-1-2 出土遺物



D-3-4、S-2、P-4 出土遺物



S-2、X-1 出土遺物



X-1、造模外 出土遺物

抄 錄

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグン 103
書 名	元総社蒼海道路群 (103)
副 書 名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻 次	一
シリーズ名	一
シリーズ番号	一
編 著 者 名	笠原仁史・藤坂和延
編 集 機 関	有限会社 歴史考房ほら
編 集 機 関 所 在 地	〒372-0815 群馬県伊勢崎市東上之宮町1248-3
發 行 機 関	前橋市教育委員会
發 行 機 関 所 在 地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4
發 行 日	2016年 3月25日

ふりがな 所収遺跡名	フ リ ガ ナ 所 在 地	コード		北緯 度	東經 度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
元総社蒼海 道路群 (103)	群馬県前橋市 元総社町 1693- 1、1712、1613- 1・2・3、1614-1	10201	26 A 200	36° 23' 33"	139° 01' 34"	2015. 3. 2 ~ 2015. 4. 22	470 m ²	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
元総社蒼海道路群 (103)	集 落	縄文時代 古墳時代 平安時代 時期不明	堅穴建物 土坑 堅穴建物 堅穴建物 土坑 集石 ピット	4軒 1基 6軒 11軒 2基 2基 5基	縄文土器・石器 古式土師器 土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・石製品・鉄滓 有銘台付鉢 盤状坏	中期後半

元總社蒼海遺跡群（103）

前橋都市計画事業元總社蒼海地区面
整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成 28 年 3 月 22 日 印刷

平成 28 年 3 月 25 日 発行

発行 前橋市教育委員会事務局
文化財保護課
前橋市總社町 3-11-4
電話 027-280-6511
印刷 朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元總社町 67 番地
電話 027-251-1212